



生涯学習とリーダーシップに関する 調査結果とその活用

—お茶の水女子大学卒業生への
アンケート調査に基づいて—

お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所

2021 年度

はじめに

本報告書は、2014年2月に実施された「女性の進路選択、生涯教育、リーダーシップに関するアンケート」と題する調査のうち、生涯教育とリーダーシップに関する部分についてまとめたものです。なお、女性の進路選択については、科学研究費基盤研究B（課題番号2528240）「女性の理系選択における親の意識の影響に関する調査・分析」報告書（平成27年3月、代表：山口大学准教授（特命）林裕子）として発行されています。

本調査に当たっては、調査の規模と趣旨に見合う年代を対象とすることとし、1960—2004年度卒業生でOGデータベースに登録されている方（3,772名）を対象としました。回収数は1,996（52.1%）でした。

女性の活躍が期待される現代において、お茶の水女子大学の使命は、グローバルに活躍できる女性リーダーの育成です。卒業生の経験に基づく回答や意見など、本調査の結果を活用し、多様な分野においてリーダーシップを発揮できる女性の育成、リーダー的役割を果たす女性を育成するためのカリキュラム構築、さらには本学で開催する社会人女性向け生涯学習（お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾）の計画・立案・改善に役立てております。

お茶の水女子大学卒業生を対象とする調査は、過去何回か実施されてきましたが、その度に卒業生の皆様から暖かいご協力をいただき、感謝の念に堪えません。卒業生の皆様の熱意は、回収率の高さに如実に現れており、本調査においても、52.1%の回収率を得ています。卒業生の皆様に厚く御礼申し上げます。また、ともに活動しました山口大学林裕子准教授（特命）、芝浦工業大学國井秀子教授、山形大学河野銀子教授には、調査票の作成の過程で有益なご助言・ご指摘を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

2022年3月31日

国立大学法人 お茶の水女子大学

グローバルリーダーシップ研究所 研究所長 小林 誠
卒業生調査委員会代表 名誉教授 鷹野 景子

目次

1. 調査概要
 2. 結果
 - 1) 生涯学習について (Q27～Q28)
 - 2) リーダーシップ養成教育について (Q29～Q34)
 - 3) クロス集計結果 (年齢×Q27SQ1、Q28SQ1、Q29、Q29SQ3、Q30、Q34)
 3. 結果の活用
 - 1) 社会人女性リーダー育成のための生涯学習塾
「お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾」の設置
 - 2) 本学におけるリーダーシップ教育と全学生を評価対象とした本学独自の
リーダーシップ特性評価指標の開発
 4. 総括
- ※ 付録 (調査票、データ)

1. 調査概要

・調査の目的

本調査は、本学の卒業生を対象に生涯教育やリーダーシップに対する考えや志向を明らかにすること、生涯教育についてはこれまでの経験についても明らかにすることを目的としている。調査結果は、様々な分野でリーダーシップを発揮できる女性の育成、およびリーダー的役割を果たす女性を育成するためのカリキュラム構築に活用する。

なお本調査は、「女性の進路選択に関する研究会（代表：山口大学 特命准教授 林裕子）」が実施する科研費（基盤研究 B 課題番号 25282040 2013-2016）「女性の理系進路選択における親の意識の影響に関する調査・分析」との共同調査である。

・調査内容

生涯教育については、これまでに経験した生涯教育（仕事やキャリアアップに役立つ知識や技術の習得、心豊かで充実した人生を送るための教養を身につけるために、自分に適した手段や方法を選んで行う「生涯にわたる自発的な学習」と定義）や本学でどのような生涯学習の開催を期待しているのか、について調査する。

リーダーシップ養成教育については、リーダーシップ発揮経験、組織・集団（職場だけでなく、サークル、PTA、町内会、家庭なども含む）に必要なリーダーシップとは何か、本学におけるリーダーシップ教育・事業の強化として何が必要か、リーダー志向について調査する。

・調査方法

郵送法による質問紙調査を行った。回答は、送付したアンケート用紙に直接記入してもらい、返信用封筒で本学へ返送してもらった。調査実施期間は約 1 ヶ月（2014 年 1 月～2 月）とした。

・調査対象者

「OG データ Web 登録システム」に登録されている本学の学部卒業生（1961 年 3 月卒～2004 年 3 月卒）のうち、30 歳以上の 3772 名を対象とした。

・有効回答数

回収数は 1996 名であり、回収率は 52.1%であった。

・調査分析担当者 ※所属と職位は調査当時（2013 年度）のものを示している

鷹野 景子 （お茶の水女子大学 副学長）

宝月 理恵 （お茶の水女子大学 リーダーシップ養成教育研究センター 特任講師）

内藤 章江 （お茶の水女子大学 リーダーシップ養成教育研究センター 特任助教）

2. 結果

1) 生涯学習について (Q27～Q28)

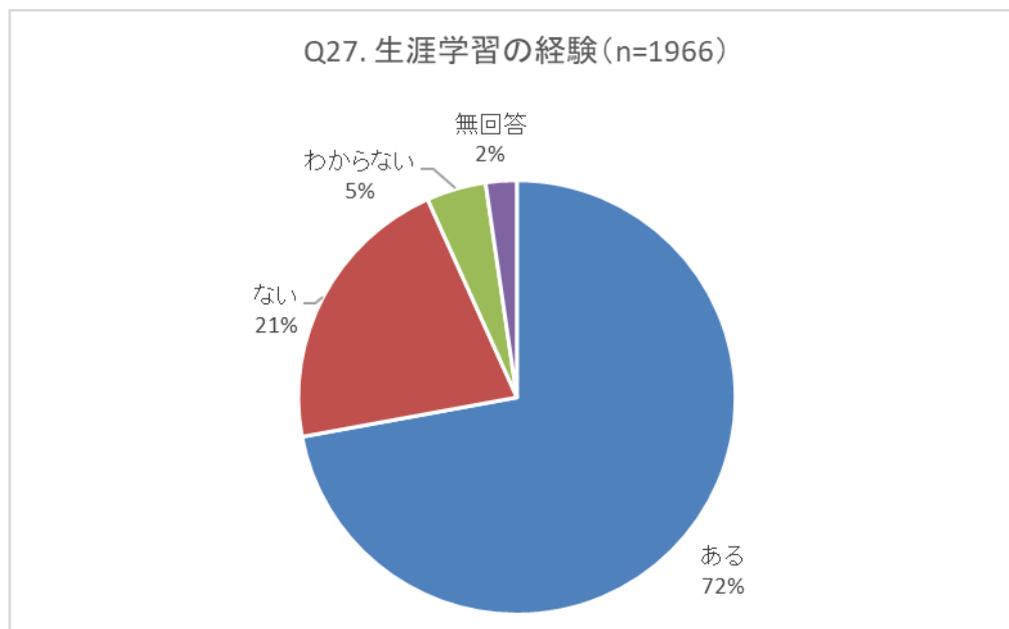
結果概要

本学卒業生の7割以上が生涯学習を経験している。受講内容としてニーズが高いのは「専門性を高める」、「高度な教養」、「本学で開講する授業」、「外国語スキル」に関わるものであることがわかった。生涯学習は自分の人生をより豊かにするために行うことが多いが、専門性や高度な教養を身につける、資格を取得するなどスキルアップのために受講するという理由も見られた。

本学で開催する生涯学習にも同じものを求めており、費用は1万円未満～4万円と少なく、週末(土・日)や祝日の日中(9時-5時)の開催が期待されていることがわかった。

結果詳細

Q27. あなたは、大学卒業後からこれまでに、生涯学習を行ったことがありますか。

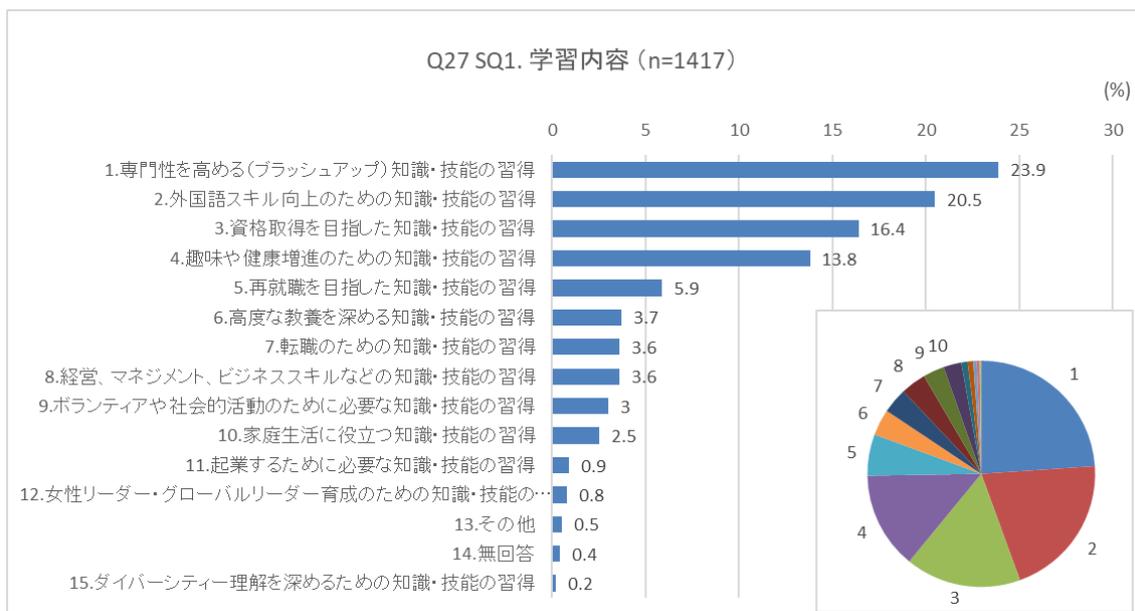


生涯学習の経験については、7割以上の人が「経験あり」と回答している。

Q27 SQ1.あなたがこれまでに行った主な生涯学習について、学習内容、学習場所と形態、学習理由、学習期間、学習頻度、かかった費用をお答えください。

【学習内容】

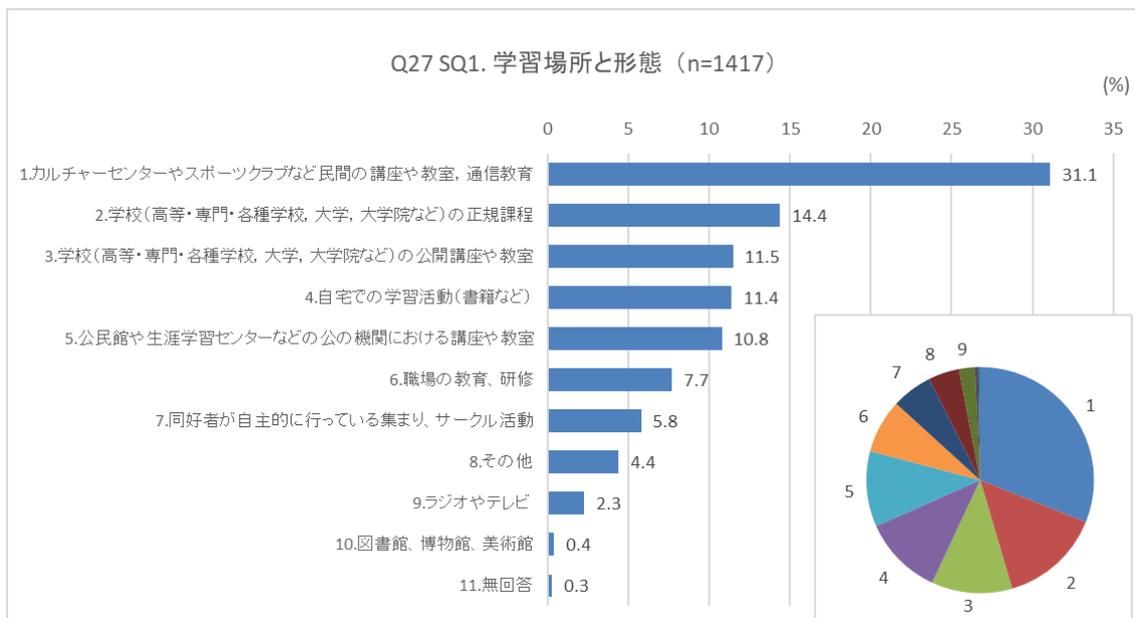
当てはまる「学習内容」を3つ挙げたうち、回答者が一つ目に挙げた結果を示す。



生涯学習の内容として最も多いのは「専門性を高めるため（ブラッシュアップ）知識・技能の獲得」（23.9%）であり、次いで「外国語スキル向上のための知識・技能の習得」（20.5%）、「資格取得を目指した知識・技能の習得」（16.4%）の回答が多い。

【学習場所と形態】

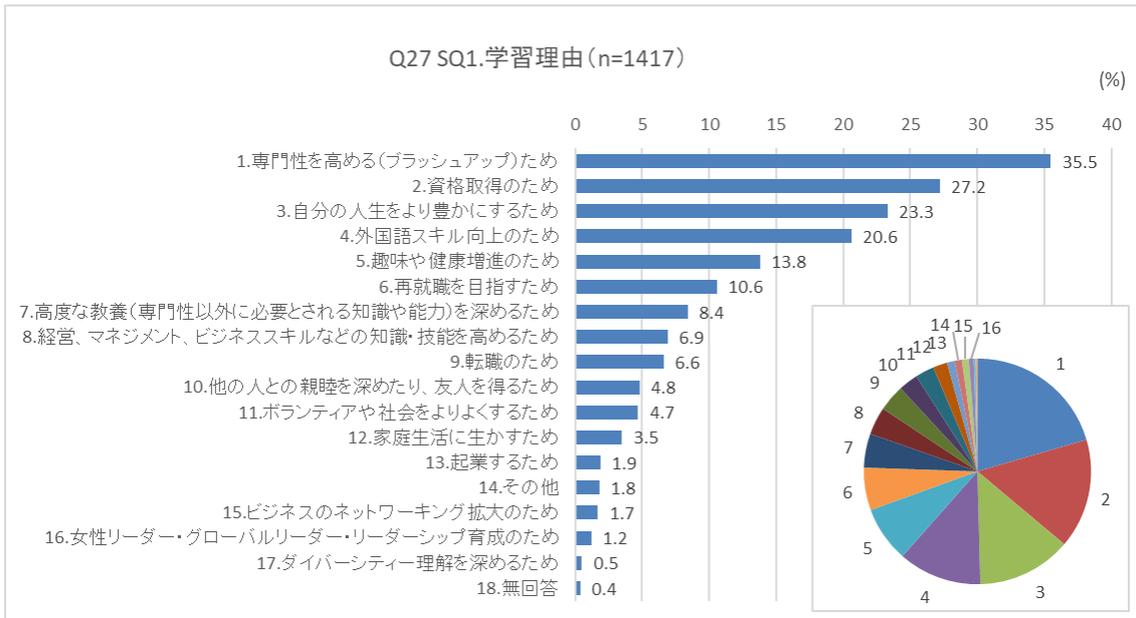
回答者が「学習内容」として一つ目に挙げた内容に対する学習場所と形態を示す。



学習場所と形態については、「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室」（31.1%）が最も多く、次いで「学校（高等・専門・各種学校大学、大学院など）の正規授業」（14.4%）、「学校（高等・専門・各種学校大学、大学院など）の公開講座や教室」（11.5%）、「自宅での学習活動（書籍など）」（11.4%）の回答が多い。

【学習理由】

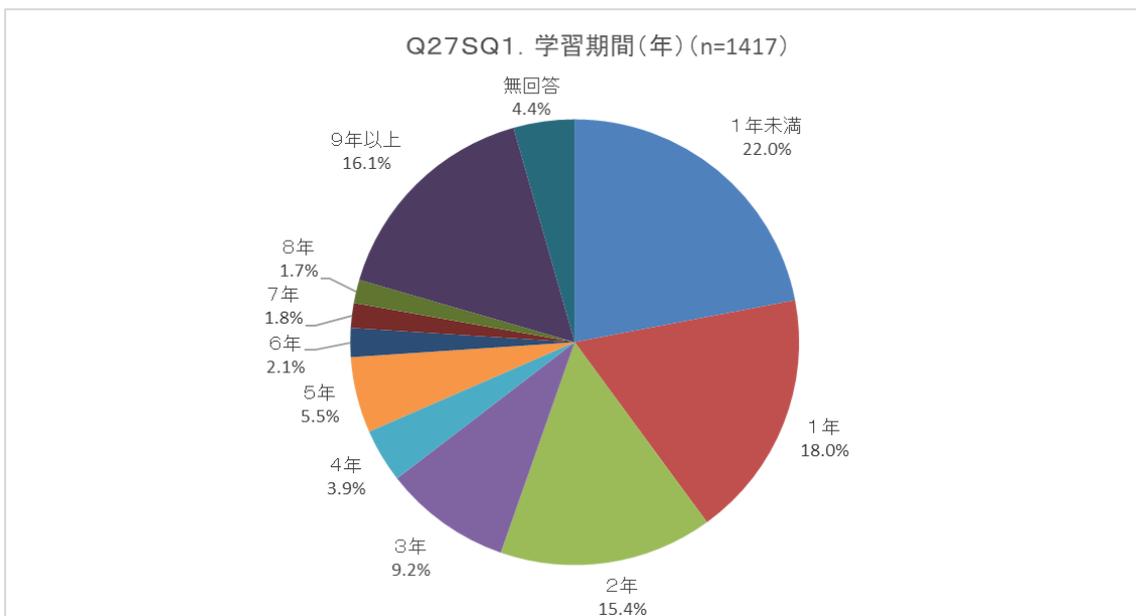
回答者が「学習内容」として一つ目に挙げた内容に対する学習理由を示す。



学習理由については、「専門性を高める（ブラッシュアップ）のため」（35.5%）が最も多く、次いで「資格取得のため」（27.2%）、「自分の人生をより豊かにするため」（23.3%）の回答が多い。

【学習期間】

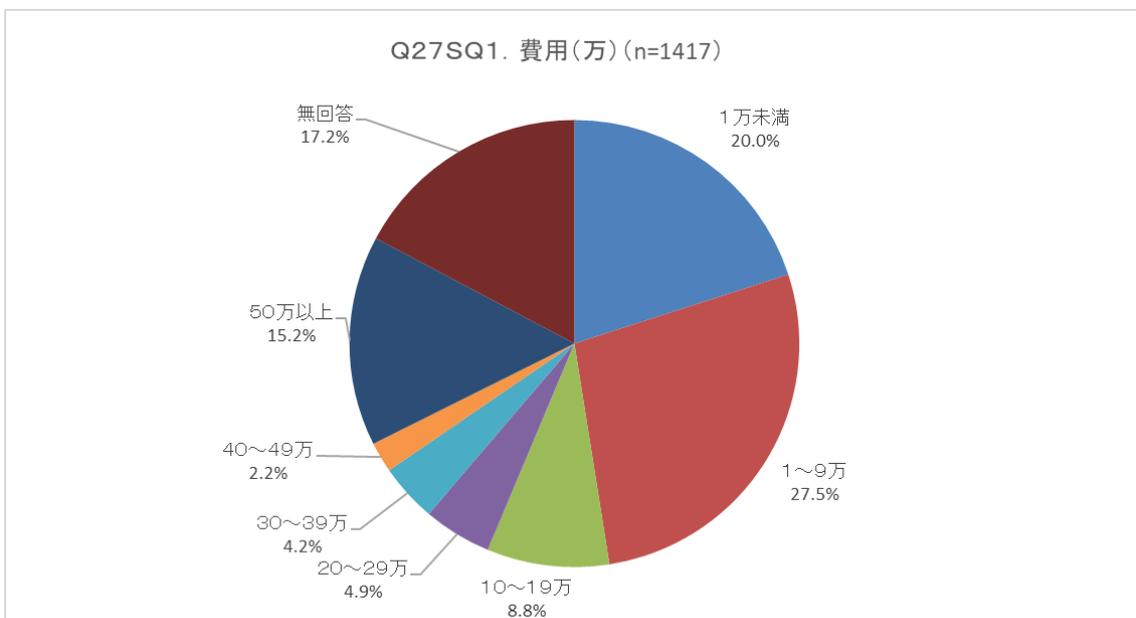
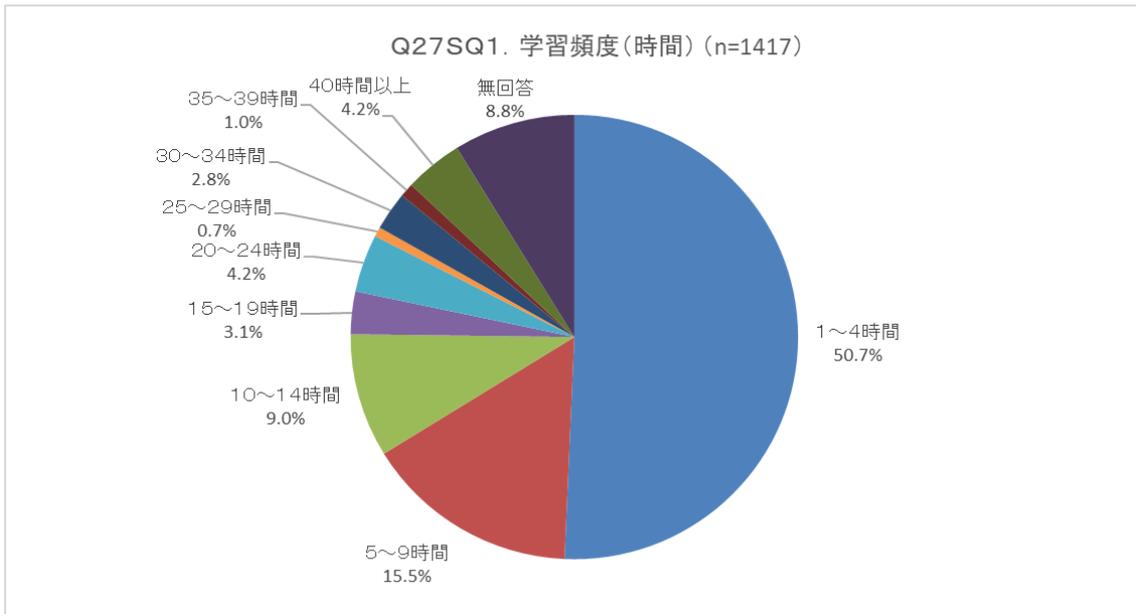
回答者が「学習内容」として一つ目に挙げた内容に対する学習期間を示す。



年数を見ると、1年未満（22.0%）が最も多く、1年（18.0%）や2年（15.4%）が多い。9年以上も16.1%あり、長期的に続けている人も一定数いる。

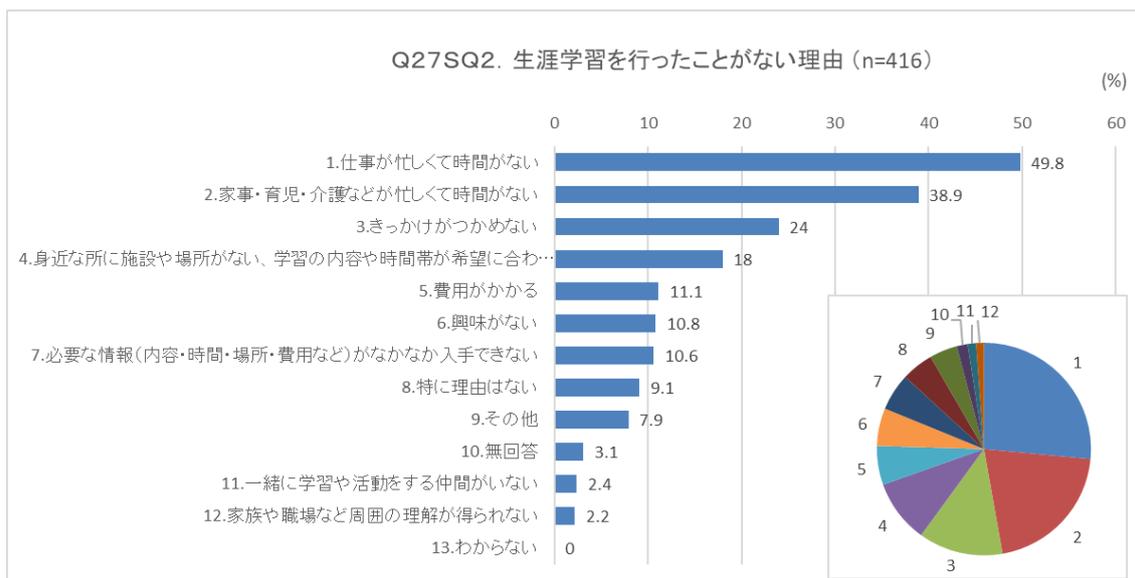
【学習頻度と費用】

回答者が「学習内容」として一つ目に挙げた内容に対する学習頻度と費用を示す。



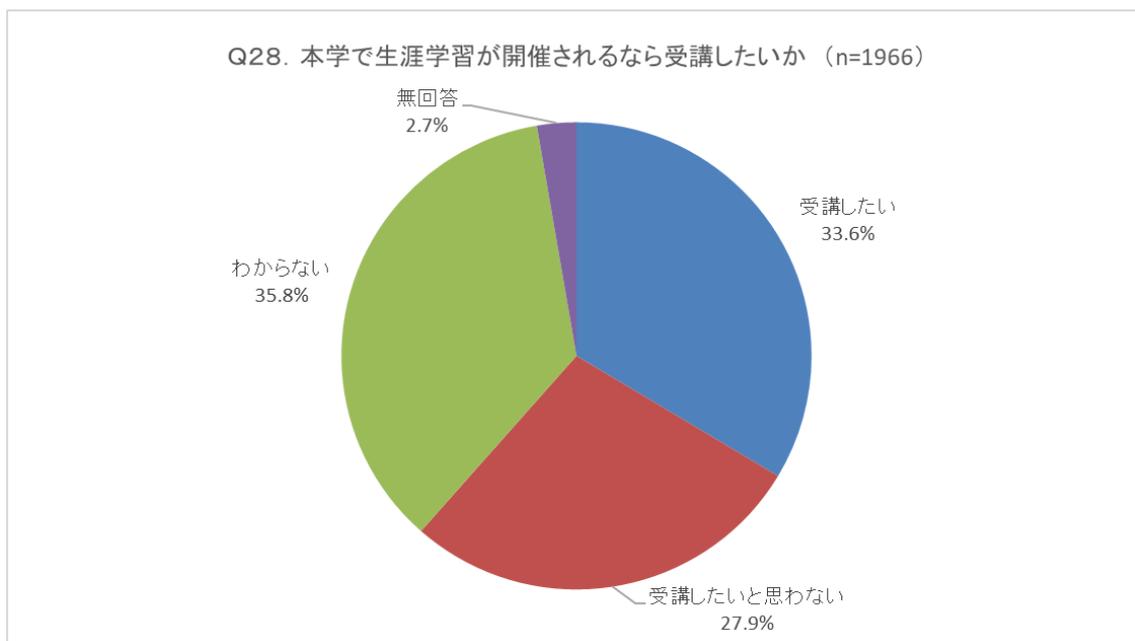
学習頻度は1~4時間(50.7%)が半数を占め、次いで5~9時間(15.5%)の回答が多い。費用は1~9万円(27.5%)が最も多く、1万円未満(20.0%)や50万円以上(15.2%)の回答も多い。

Q27 SQ2. あなたが、生涯学習を行ったことがない理由は何ですか。



生涯学習を行ったことがない理由（複数回答可）として、「仕事が忙しくて時間がない」（49.8%）が最も多く、次いで「家事・育児・介護などが忙しくて時間がない」（38.9%）、「きっかけがつかめない」（24.0%）、「身近なところに施設や場所がない、学習の内容や時間帯が希望に合わない」（18.0%）の回答が多い。

Q28. 本学（文京区大塚）で生涯学習が開催されるならば、受講したいと思いますか

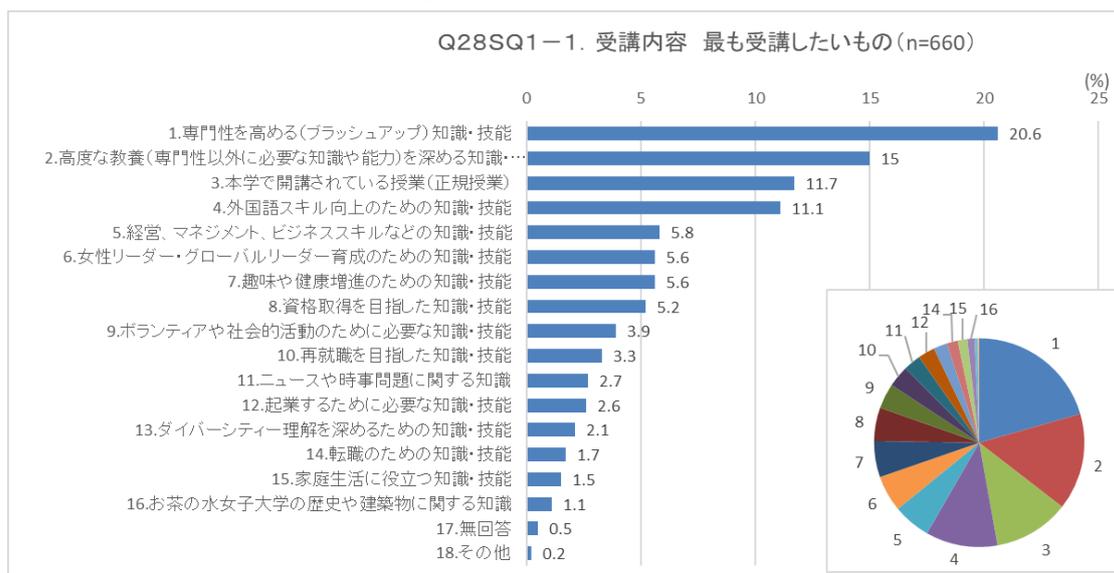


本学で生涯学習が開催されるなら受講したいか、の質問に対しては、「受講したい」（33.6%）、「受講したいと思わない」（27.9%）、「わからない」（35.8%）の回答がおおむね同じ割合となった。

Q28 SQ1.

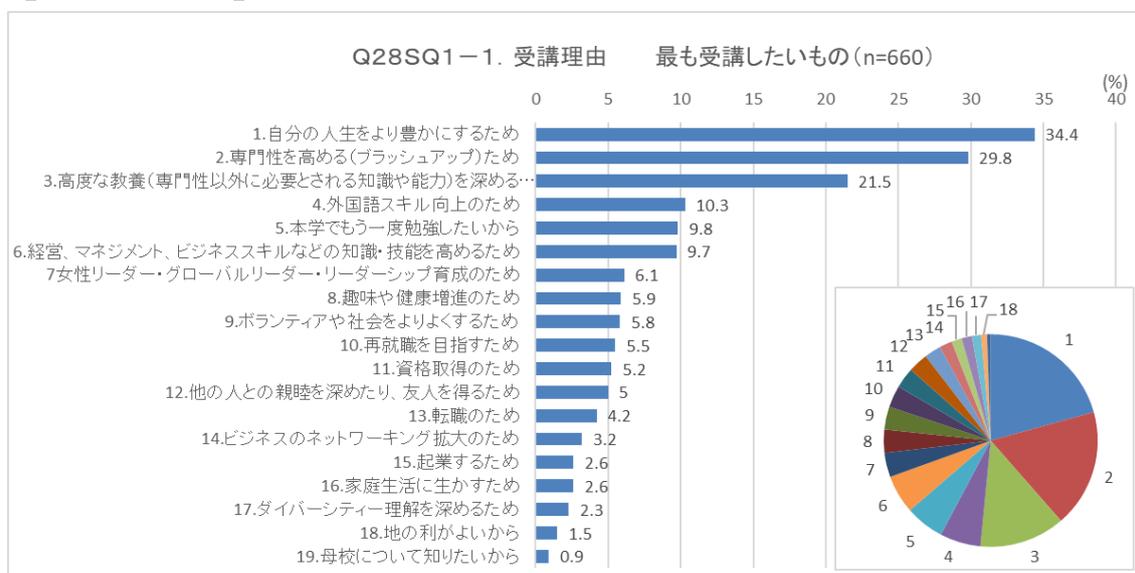
【受講したいもの】

回答者が「最も受講したいもの」として挙げた内容を示す。



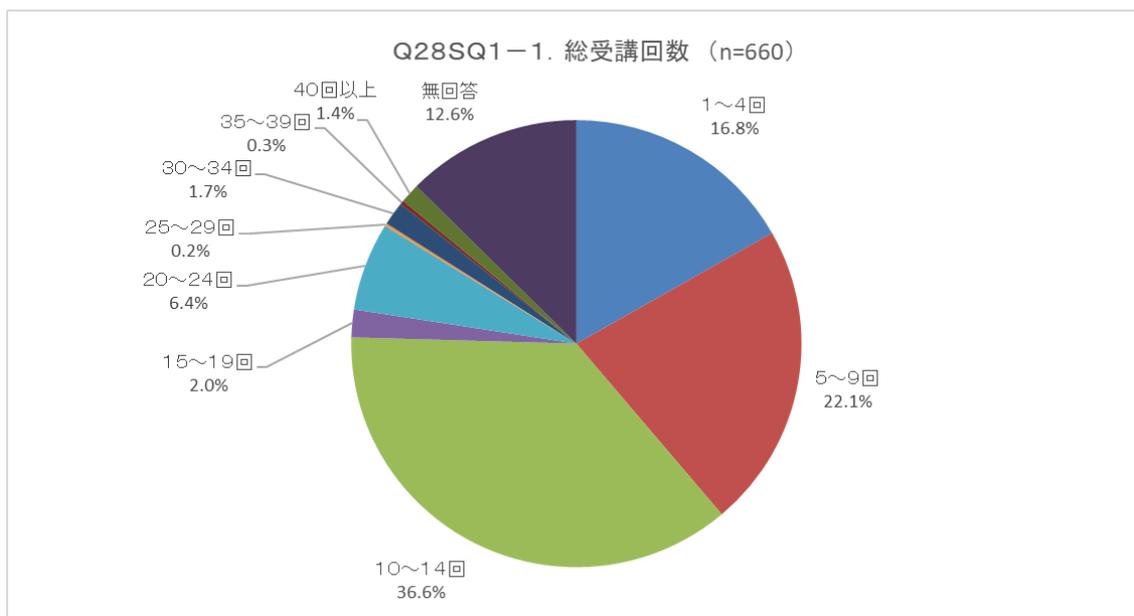
本学で行う生涯学習について、最も受講したい内容は、「専門性を高める（ブラッシュアップ）知識・技能」（20.6％）であり、次いで「高度な教養（専門性以外に必要な知識や能力）を深める知識・技能」（15.0％）、「本学で開講されている授業」（11.7％）、「外国語スキル向上のための知識・技能」（11.1％）の回答が多い。2番目に受講したい内容についても、上位4つの項目に変化はない。受講したい内容を3つまで回答してもらった結果として、2番目、3番目で比率が高くなった内容は、「趣味や健康増進のための知識・技術」（5.6％→6.1％→9.5％）、「ボランティアや社会的活動のために必要な知識・技術」（3.9％→5.5％→7.1％）である。

【受講したい理由】



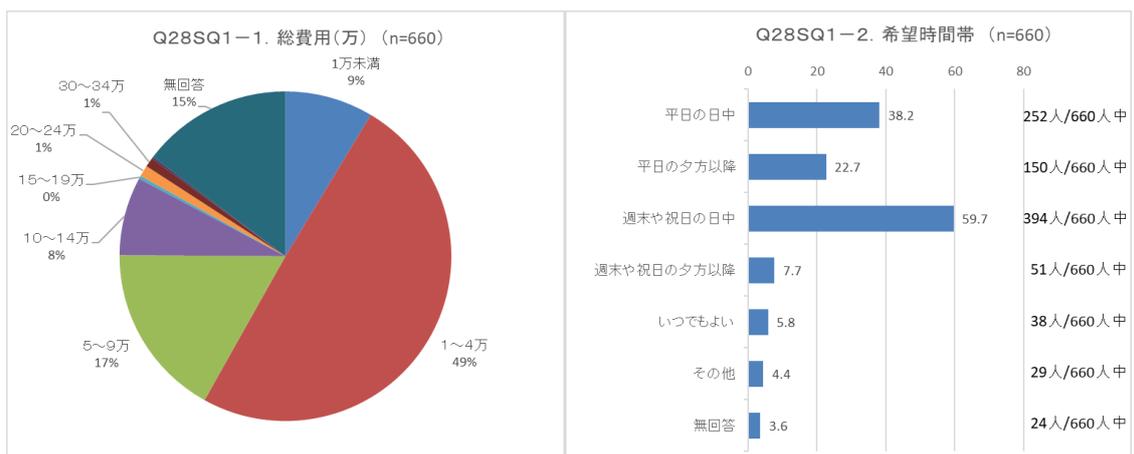
受講を希望する理由は、「自分の人生をより豊かにするため」（34.4％）が最も多く、次いで「専門性を高める（ブラッシュアップ）ため」（29.8％）、「高度な教養（専門性以外に必要な知識や能力）を深めるため」（21.5％）の回答が多い。

【希望する総受講回数】



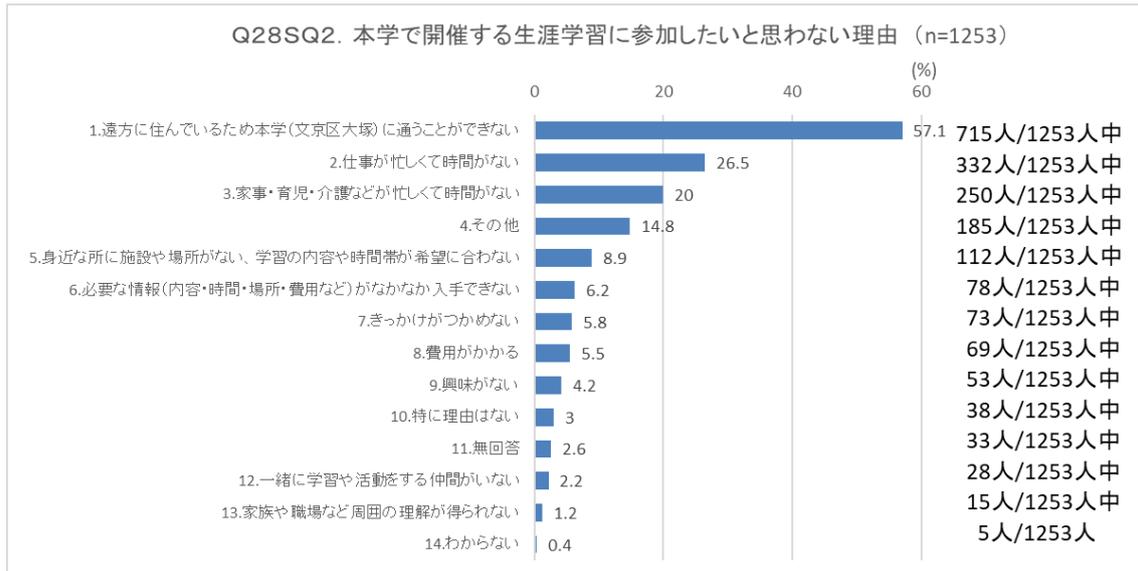
希望する総受講回数は、10~14回 (36.7%)、5~9回 (22.1%)、1~4回 (16.8%) の回答が多い。これは最も受講したいものについての回答であるが、2番目・3番目に受講したいものについても、同じ傾向にある。

【希望する総費用と時間帯】



希望する総費用は1~4万を希望する人が約半数（例えば、最も受講したいものについて49.5%）である。開催希望時間帯は「週末（土・日）や祝日の日中（9：00~17：00）」（59.7%）を希望する人が過半数を占め、次いで「平日の日中」（38.2%）、「平日の夕方以降」（22.7%）と続く。

Q28 SQ2. 本学で開催する生涯学習に参加したいと思わない理由



本学で開催する生涯学習に参加したいと思わない理由（複数回答可）として「遠方に住んでいるため、本学（文京区大塚）に通うことができない」(57.1%) が最も多く、「仕事が忙しくて時間がない」(26.5%)、「家事・育児・介護などが忙しくて時間がない」(20.0%) の回答も多い。

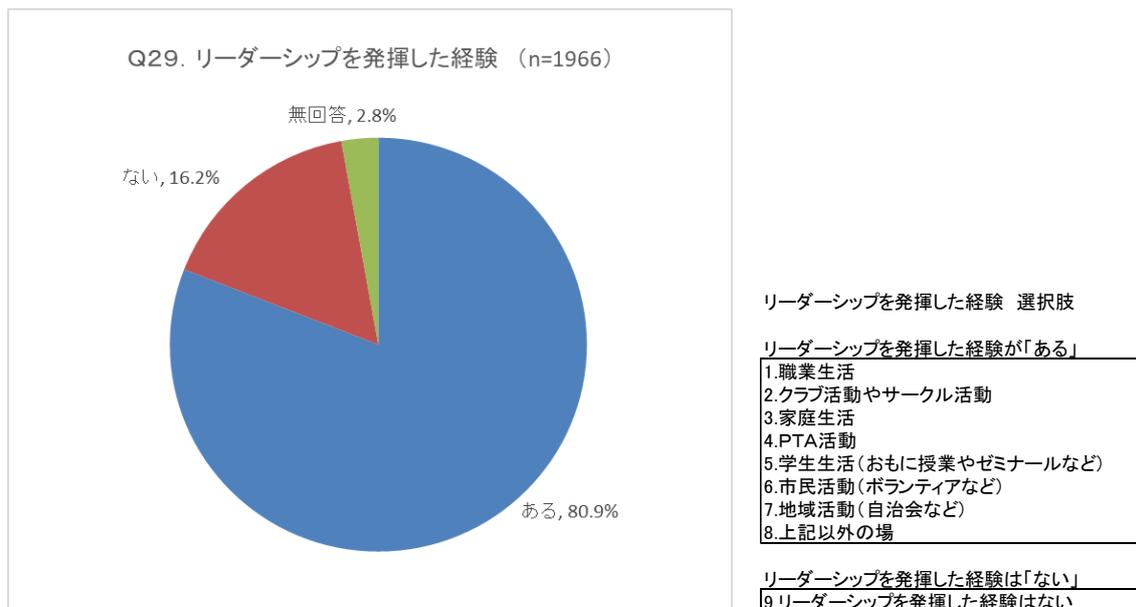
2) C.リーダーシップ養成教育について (Q29～Q34)

結果概要

卒業生がリーダーシップを発揮した経験は「職場」が最も多く、発揮に当たり最も必要だった能力は「コミュニケーション力」であると考えていることがわかった。また、「判断力」、「強い責任感」、「他人を尊重し、他人を認める力」も必要とされていた。一方で、経験者の7割がリーダーシップの発揮に困難を感じたことがあり、困難の要因として「周囲の意見を聞く中で、時に物事の決定が慎重になりすぎる事」、「チームワークが形成出来ない」、「コミュニケーション不足」などが挙げられた。組織・集団にとって必要なリーダーシップとして、「組織・集団のメンバーを支援し、組織の潜在的な力を発揮させる力」が最も重要視されており、支え型のリーダーシップが支持されていることがわかった。リーダーシップを養成するために強化が必要と考えられている教育・授業は「キャリア教育」であった。今後女性のリーダーシップの発揮が求められる分野は、「政治」、「教育・研究」、「行政」、「民間企業」との回答が多かった。本調査に回答した本学卒業生は、積極的にリーダー的立場になったというよりも指名・推薦でなる人が多く、リーダーになりたくない人は「補助的役割の方が向いている」、「資質がない」、「責任が重い」などの理由を挙げていることがわかった。女性リーダーの育成には、これらを払拭する取組が必要である。

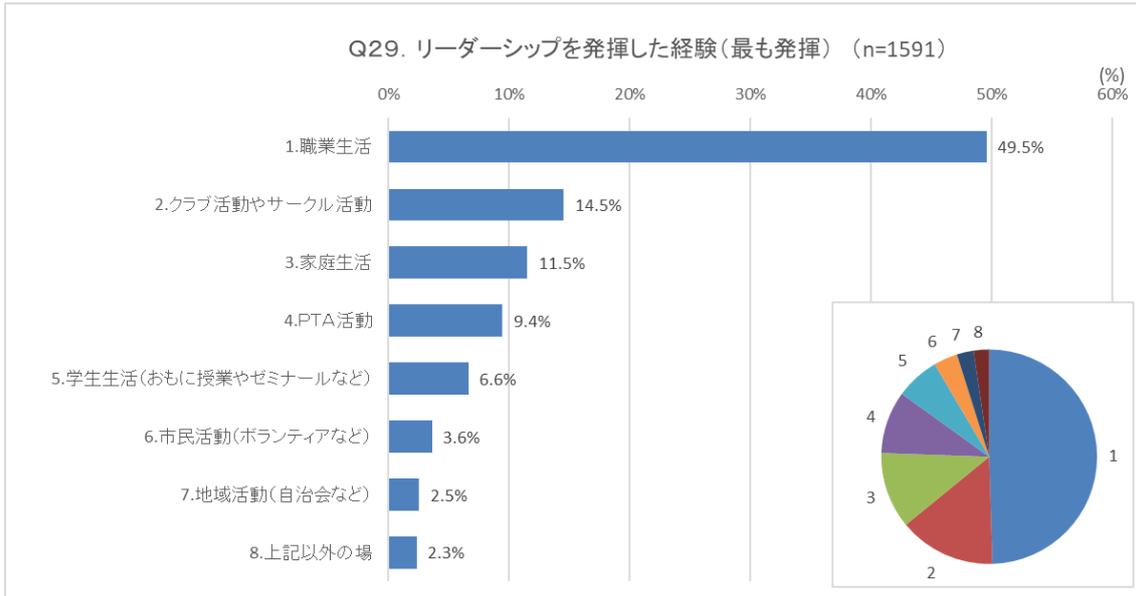
結果詳細

Q29. あなたはリーダーシップを発揮した経験がありますか。



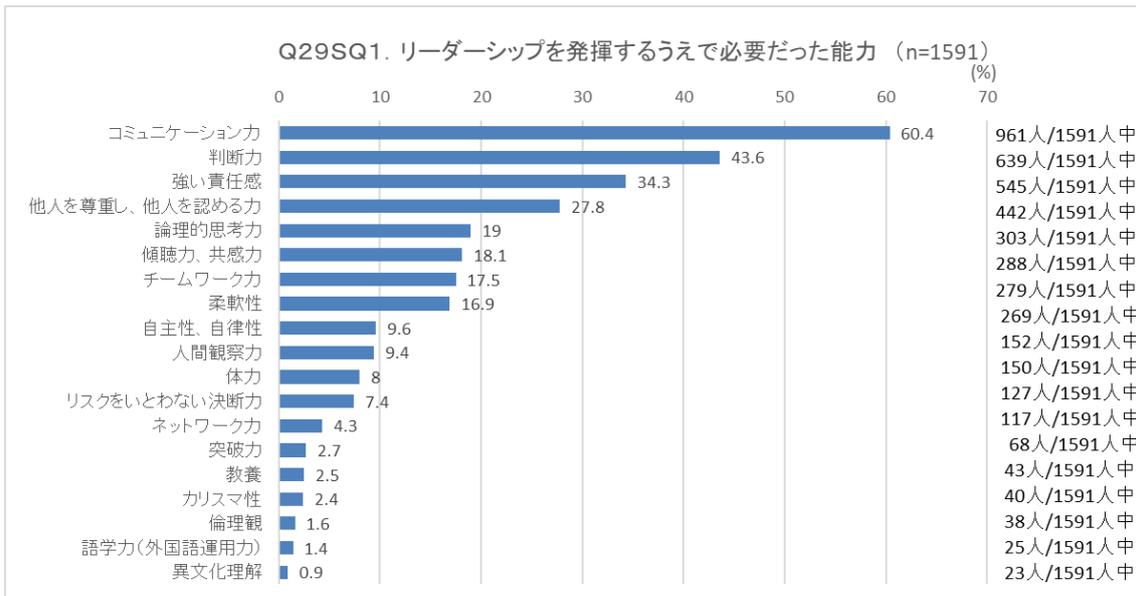
何かしらのリーダーシップ発揮経験(選択肢1～8)を挙げた人を「ある」、リーダーシップを発揮した経験はない(選択肢9)と回答した人を「ない」として集計した結果、リーダーシップを発揮した経験について、約8割の人が「ある」(80.9%)と回答しており、何かしらのリーダーシップを発揮した経験を持つ人が多いことがわかる。

Q29. あなたはリーダーシップを発揮した経験がありますか。(最も発揮した経験)



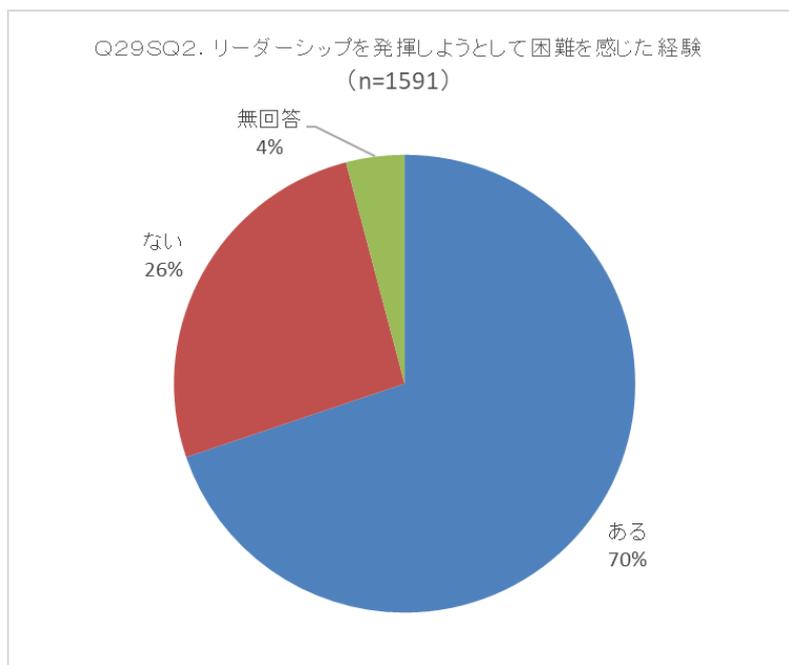
リーダーシップを最も発揮した経験について、リーダーシップを発揮したことが「ある」人のみ回答を求めた結果、「職業生活」(49.5%)が最も多く、次いで「クラブ活動やサークル活動」(14.5%)、「家庭生活」(11.5%)、「PTA活動」(9.4%)の順に回答が多い。

Q29. SQ1 リーダーシップを発揮するうえで必要だったと思われる能力はどのようなものでしたか。



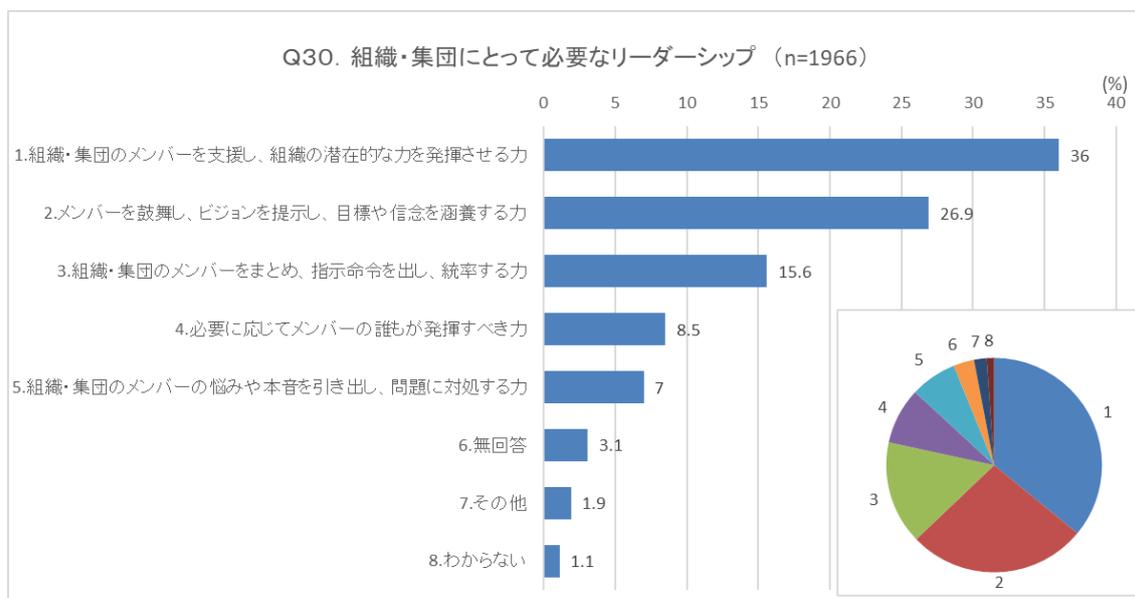
リーダーシップを発揮するうえで必要だった能力(3つまで回答)について、リーダーシップを発揮したことが「ある」人のみ回答を求めた結果、「コミュニケーション力」(60.4%)が最も多く、次いで「判断力」(43.6%)、「強い責任感」(34.3%)、「他人を尊重し、他人を認める力」(27.8%)の回答が多い。

Q29. SQ2 あなたはリーダーシップを発揮しようとして、困難を感じたことがありますか。



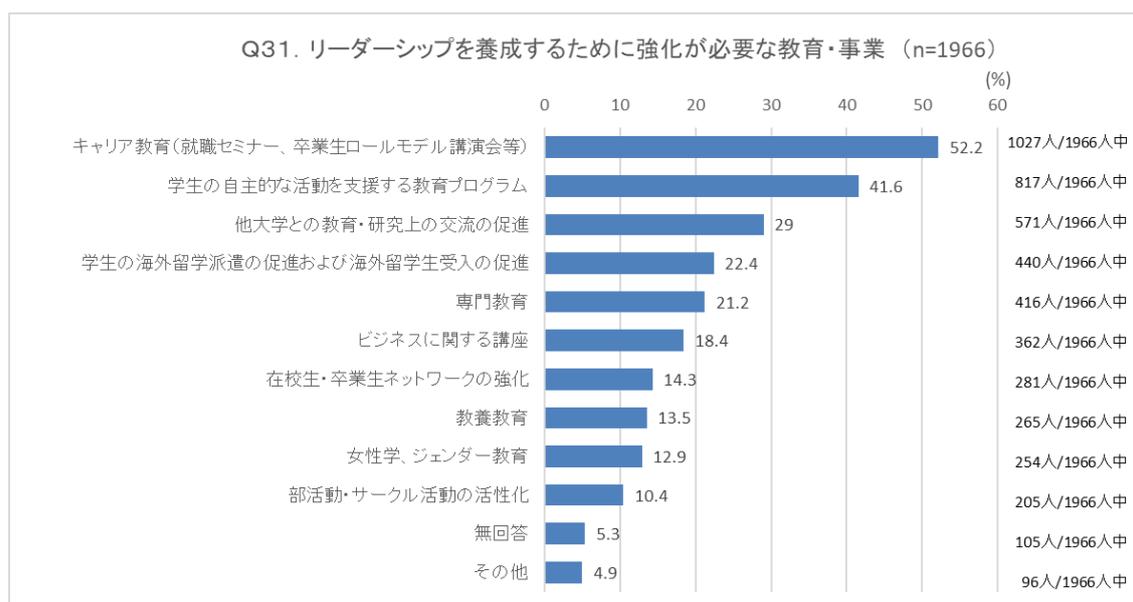
リーダーシップを発揮しようとして困難を感じた経験についてリーダーシップを発揮したことが「ある」人のみ回答を求めた結果、「ある」の回答が7割（69.8%）であった。困難の要因（自由記述）については、「物事の決定が慎重になりすぎることに」、「チームワークが形成出来ない」、「コミュニケーション不足」、「女性であること」などが挙げられた。自由記述回答の詳細（内容）は付録を参照されたい。

Q30. 組織・集団（職場だけではなく、サークル、PTA、町内会、家庭なども含む）にとって必要なリーダーシップはどのようなものだと思いますか。



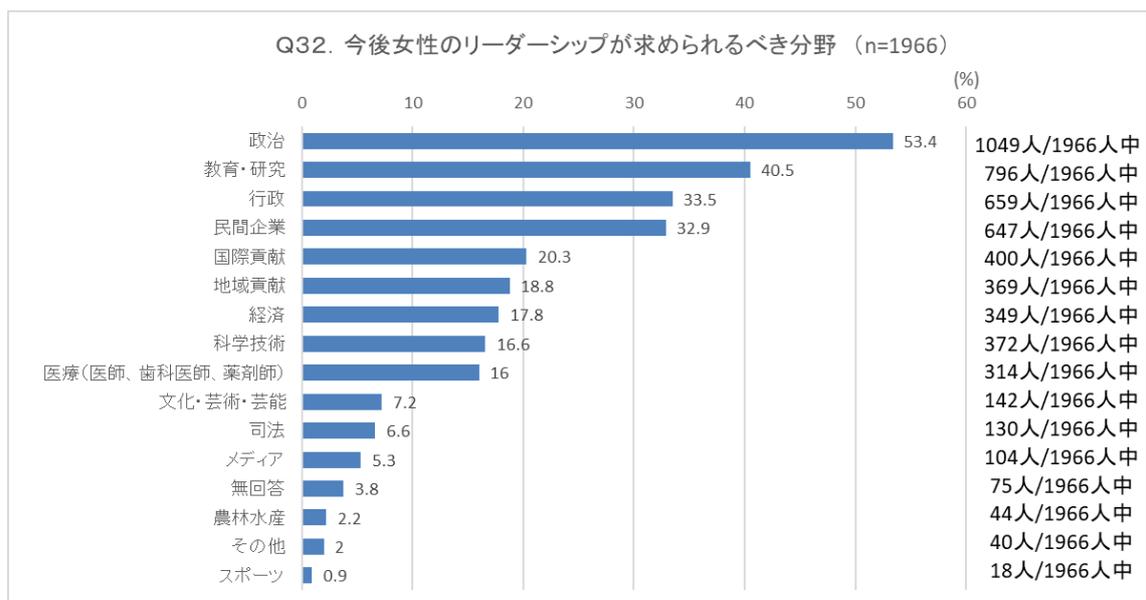
組織・集団にとって必要なリーダーシップとして、「組織・集団のメンバーを支援し、組織の潜在的な力を発揮させる力」（36.0%）、「集団・組織のメンバーを鼓舞し、ビジョンを提示し、メンバーの目標や信念を涵養する力」（26.9%）、「組織・集団のメンバーをまとめ、指示命令を出し、統率する力」（15.6%）の回答が上位3つであり、計8割を占めた。

Q31. リーダーシップを養成するために、本学ではどのような教育・事業の強化が必要だと思いますか。



リーダーシップを養成するために強化が必要な教育・授業（3つまで回答）については、「キャリア教育（就職セミナー、インターンシップ、卒業生ロールモデル講演会など）」(52.2%) が最も多く、次いで「学生の自主的な活動を支援する教育プログラム」(41.6%)、「他大学との教育・研究上の交流の促進」(29%) の回答が多い。

Q32. 日本において、今後どのような分野でより一層女性のリーダーシップが求められていくべきだと思いますか。



女性のリーダーシップが今後より一層求められるべき分野（3つまで回答）として、「政治」(53.4%) が最も多く、「教育・研究」(40.5%)、「行政」(33.5%)、「民間企業」(32.9%) と続いている。

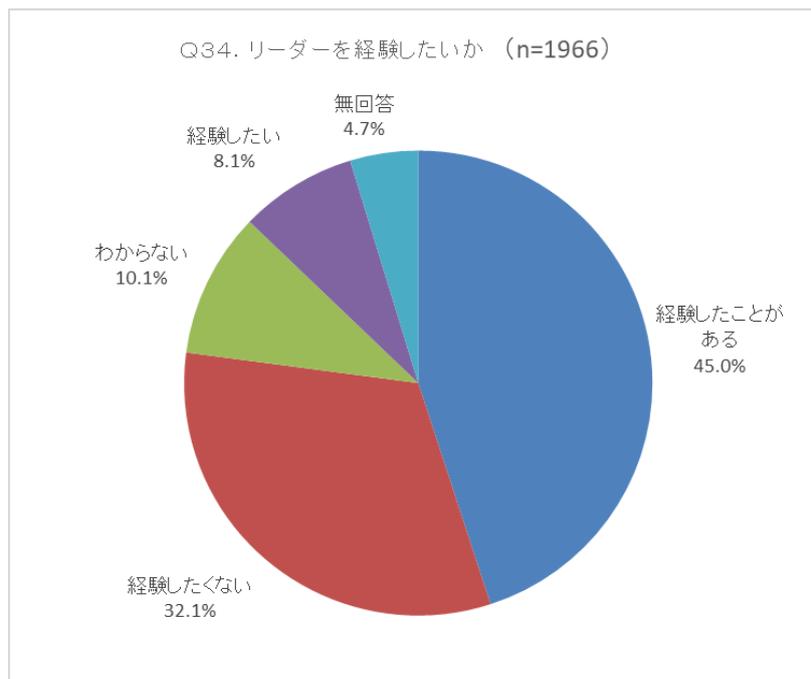
Q33. 「リーダー」と聞いてあなたが思いつく人物は誰ですか。

人物名	回答人数
緒方 貞子（元国際高等弁務官）	136
小泉 純一郎（元首相）	56
安倍 晋三（元首相）	42
マーガレット・サッチャー（元イギリス首相）	25
ネルソン・マンデラ（元南アフリカ大統領）	23
バラク・オバマ（元アメリカ大統領）	23
松下 幸之助（実業家）	17
土井 たか子（政治家、元衆議院議長）	17
林 文子（横浜市長）	16

※2014年2月調査時点における人物名・所属を示す

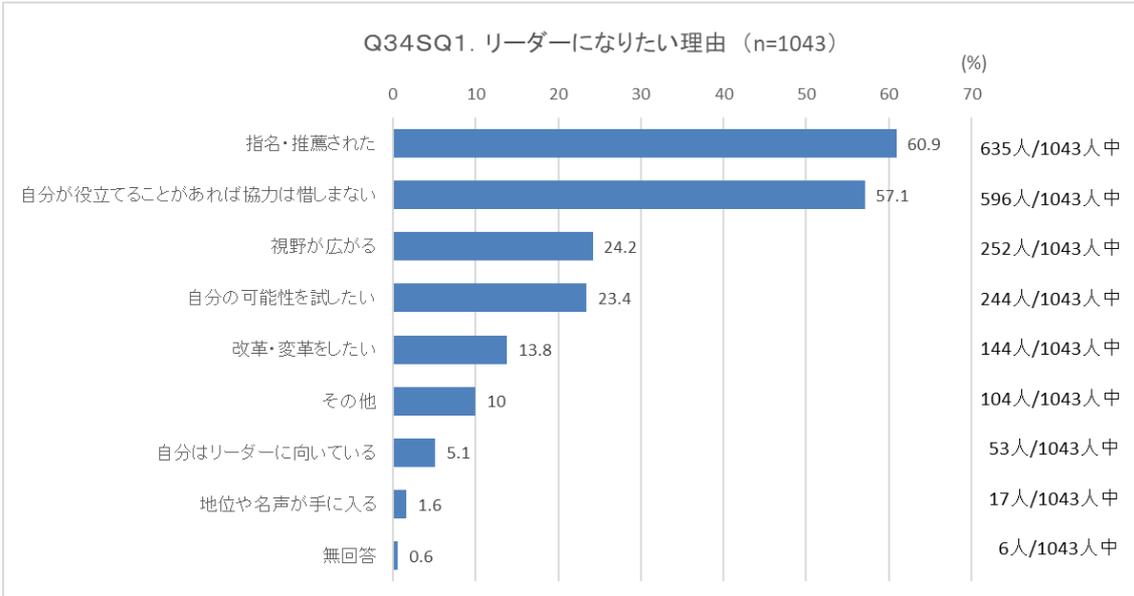
リーダーとして思いつく人物については、「緒方貞子氏」、「松下幸之助氏」などグローバルに活躍する男性や女性、元首相や市長など国や地方自治体におけるリーダーが多数挙げられた。その他、政治家や実業家（経営者）、学者、ジャーナリスト、スポーツ選手・コーチ、運動家、芸術家、芸能人、宇宙飛行士、皇族など多くの人に知られている人物名が多数挙げられた。回答者個人の勤務先の人（上司や先輩など）等を挙げた人は89名であり、他に知人や友人、恩師を挙げる人もいた。詳しい回答内容は付録を参照されたい。

Q34. あなたはリーダーを経験したいですか



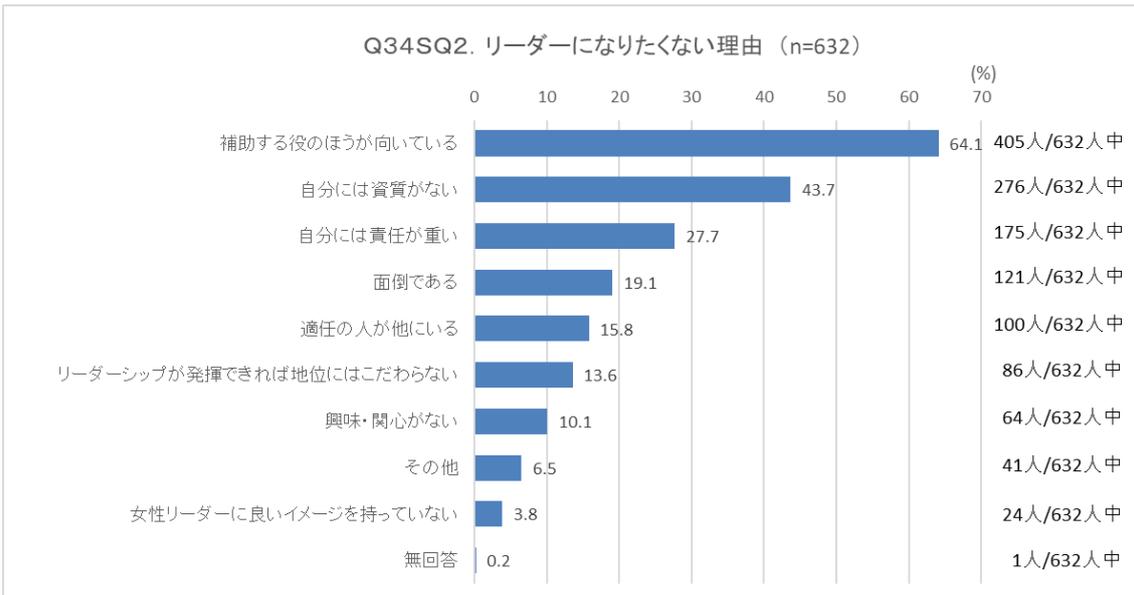
リーダー経験の有無およびリーダーを経験したいかの問いに対しては、「経験したことがある」(45.0%)、「経験したくない」(32.1%)の回答が多い。リーダーを経験したことのない人（無回答を除くと50.3%）のうち、6割以上が「経験したくない」と回答し、「経験したい」と回答したのは16%に留まっている。

Q34 SQ1. リーダーになりたい理由



リーダーになった（なりたい）理由（複数回答）については、「指名・推薦された」（60.9%）と「自分が役立てることがあれば協力は惜しまない」（57.1%）が突出して多い回答である。比率は低いながら、次に多い回答は「視野が広がる」（24.2%）と「自分の可能性を試したい」（23.4%）である。

Q34 SQ2. リーダーになりたくない理由



リーダーになりたくない理由としては、「補助する役のほうが向いている」（64.1%）が最も多く、次いで「自分には資質がない」（43.7%）、「自分には責任が重い」（27.7%）の回答がみられた。

3) クロス集計結果

これまでに行った主な生涯学習（Q27SQ1）、本学で受講したい生涯学習（Q28SQ1）、リーダー経験（Q29）、組織・集団に必要なリーダーシップ（Q30）について、年齢とのクロス集計を行った。年齢は10歳刻みで分類し、アンケート結果を30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上の5分類でクロス集計した。

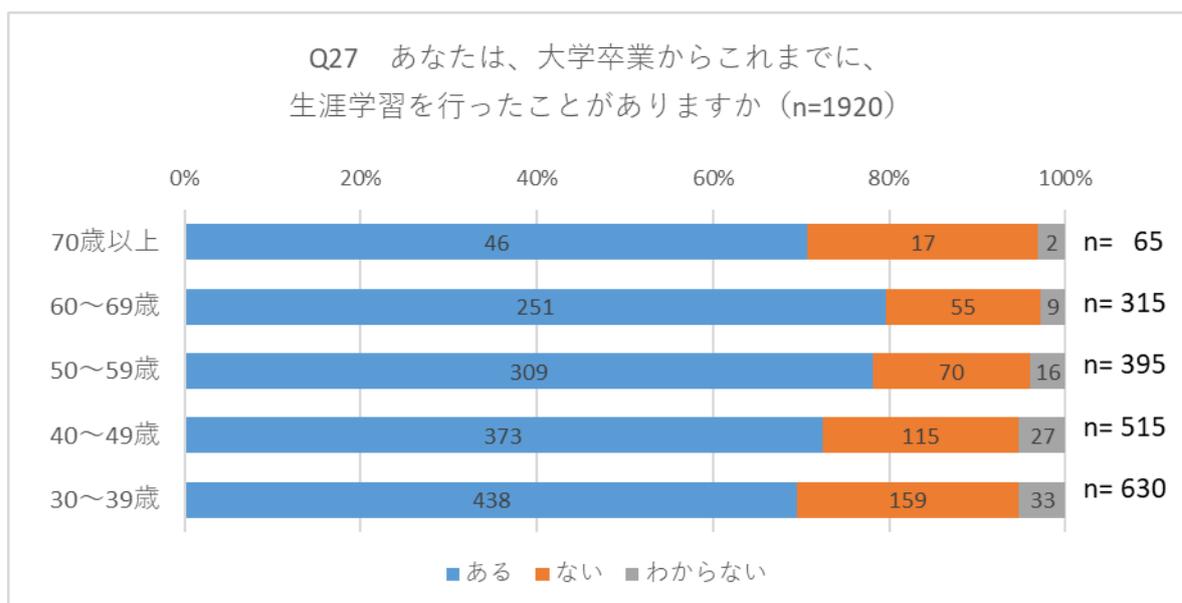
【年齢による回答傾向】

<これまでに経験した生涯学習について>

結果概要

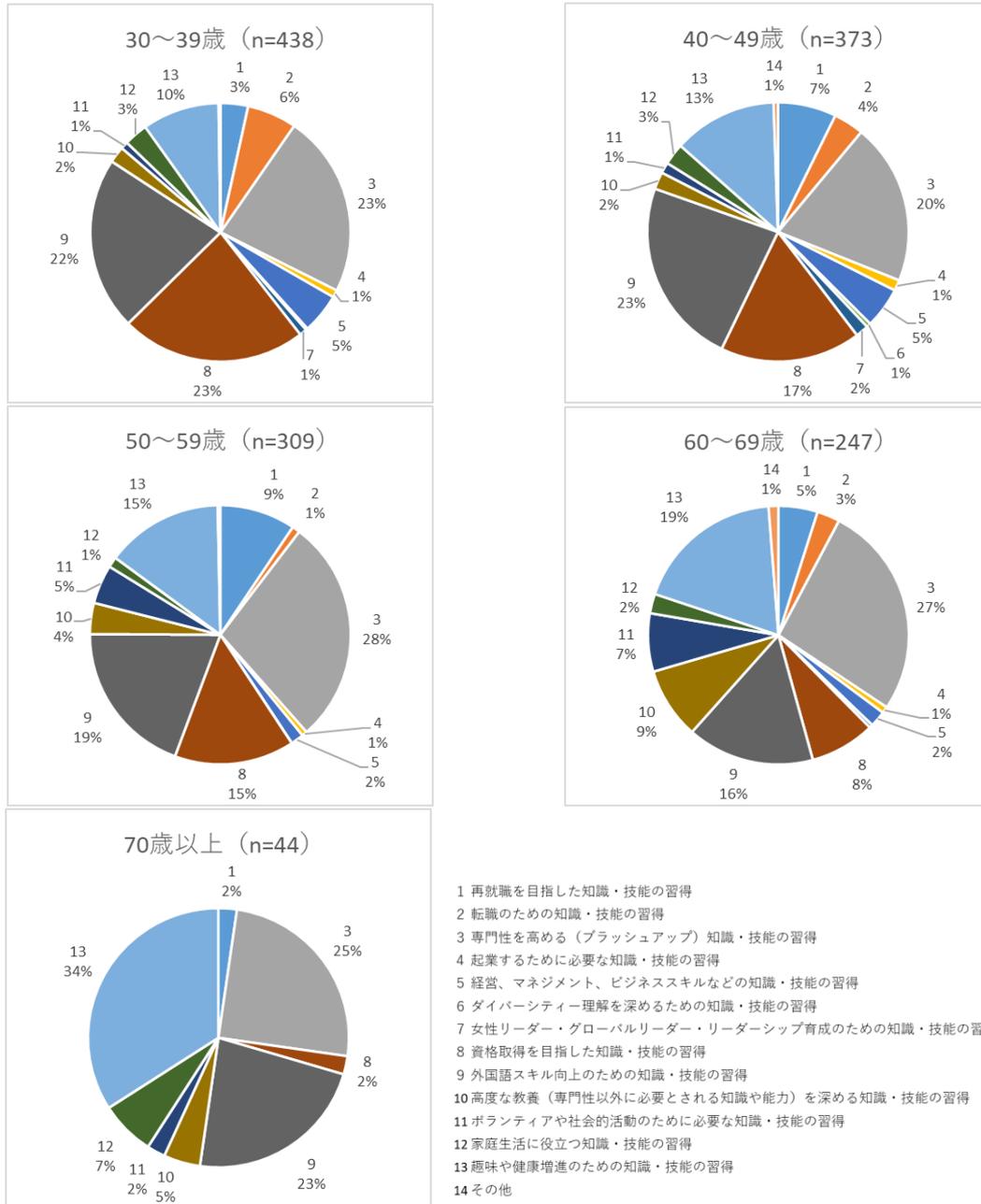
本学卒業生は大学卒業後も学び続けている人が多く、特に仕事や子育てなどに余裕や落ち着きが生まれる50歳代以上ではより多くの方が受講していることがわかった。受講内容は年齢とともに「仕事に活用できる学び」から「趣味や健康増進のための学び」にシフトした。本学で生涯学習が開催される場合、若年層は「専門性を高める」、「外国語スキル向上」、「高度な教養」の受講を希望しており、年齢が上がるにつれて「本学で開講されている授業（正規授業）」や「高度な教養」、「ボランティアや社会活動」、「趣味や健康増進」の受講希望が増加した。開催時期については、若年層は「週末（土・日）や祝日の日中（9：00～17：00）」、中高年層は「平日（月～金）の日中（9：00～17：00）」を希望していた。

Q27 あなたは、大学卒業からこれまでに、生涯学習を行ったことがありますか



年齢にかかわらず、生涯教育を行ったことが「ある」と回答した人は60%以上を示した。年齢による回答傾向を見ると、60～69歳で「ある」の回答割合が最も多くなり、次いで50～59歳が多くなった。この結果から、30歳代以降も学びを続けている人は多いと言えるが、仕事や子育てなどに余裕や落ち着きが生まれる50歳代以上において特にその傾向が顕著になることがわかった。自身のための時間を確保できる年齢層では生涯学習の機会も増加する傾向があると推察できる。

Q27 SQ1.これまでにに行った主な学習内容 ※「学習内容1」に挙げた回答のみ

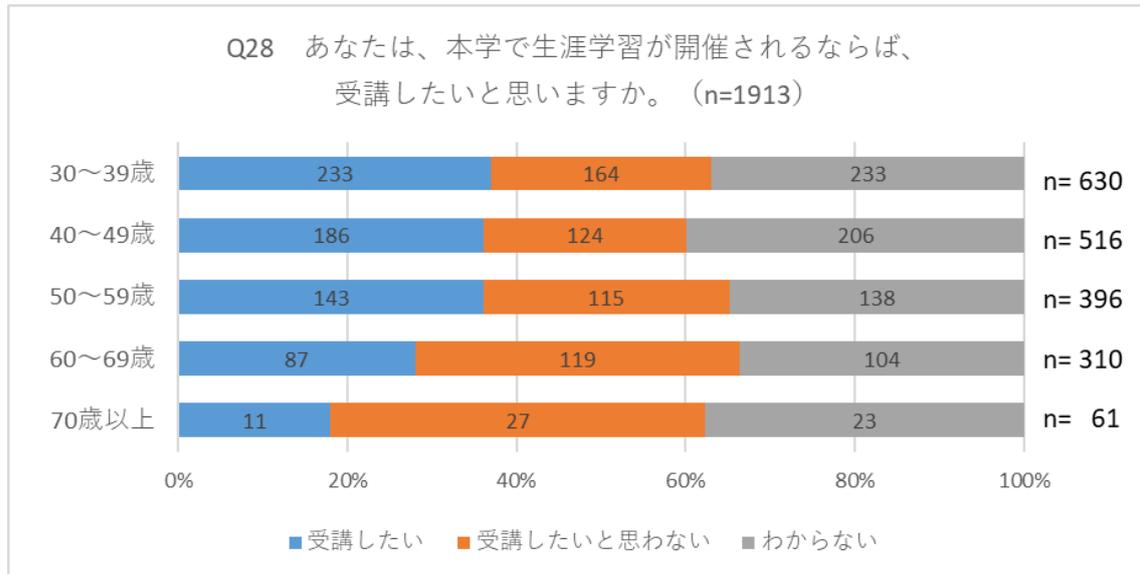


いずれの年齢においても「3.専門性を高める（ブラッシュアップ）知識・技術の習得」を挙げる割合が多くなった。

年代別に見ると、30～39歳、40～49歳は他の年齢と比較して「5.経営・マネジメント・ビジネススキルなどの知識・技術の習得」や「8.資格取得を目指した知識・技術の習得」、「9.外国語スキル向上のための知識・技術の習得」を挙げる人が多く、「2.転職のための知識・技能の習得」も他と比較して多いことがわかる。50～59歳は「3.専門性を高める知識・技術の習得」を挙げる人が特に多く、「1.再就職を目指した知識・技術の習得」が他の年齢よりも多くなる傾向がみられた。60～69歳、70歳以上になると「13.趣味や健康増進のための知識・技術の習得」を挙げる人が増加した。この項目は年齢が上がるにつれて回答率が増加傾向を示すことから、本学卒業生における生涯学習の受講傾向は年齢とともに仕事に活用できる学びから趣味や健康増進のための学びにシフトしているといえる。

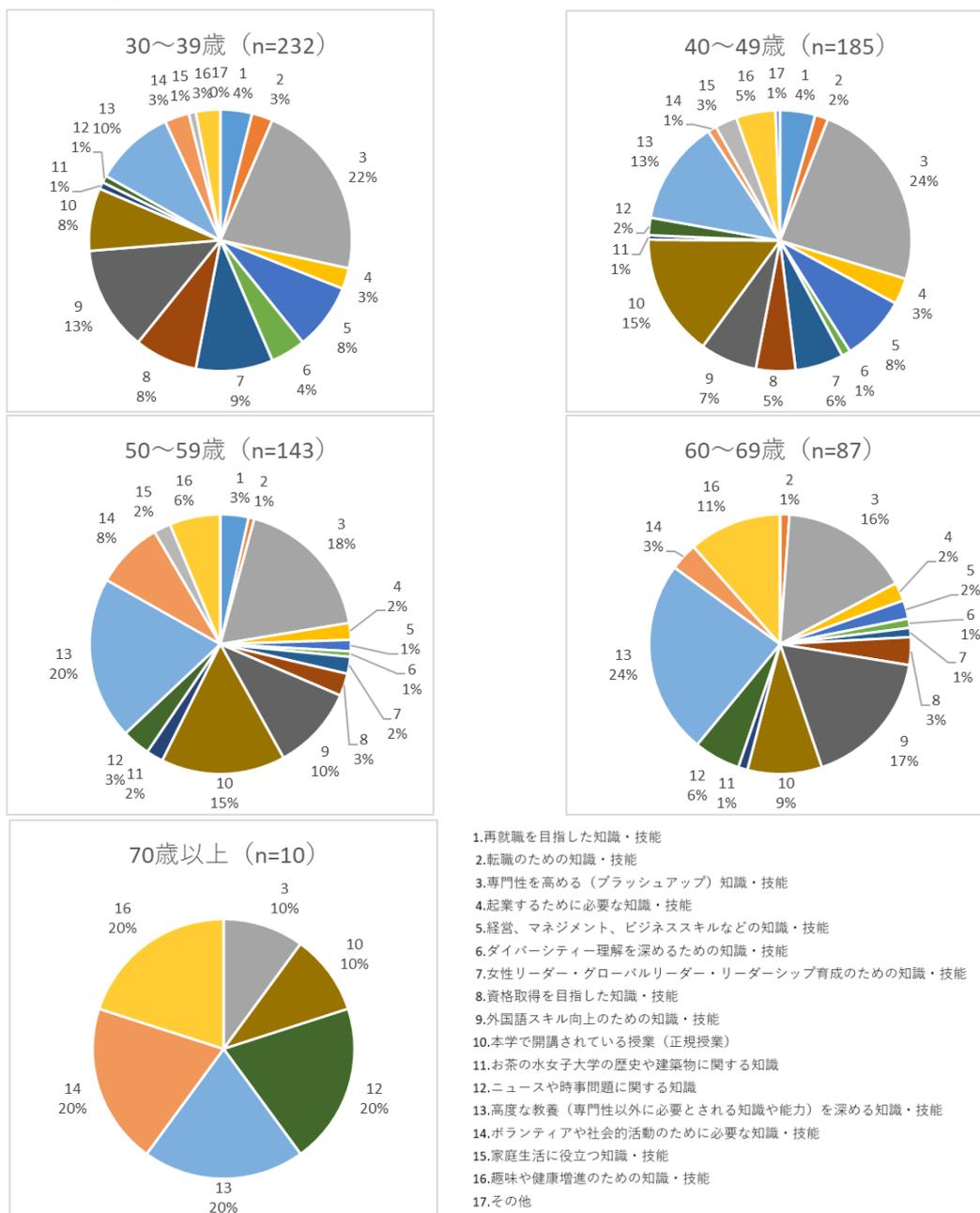
<本学でどのような生涯学習の開催を期待しているか>

Q28 あなたは、本学で生涯学習が開催されるならば、受講したいと思いますか。



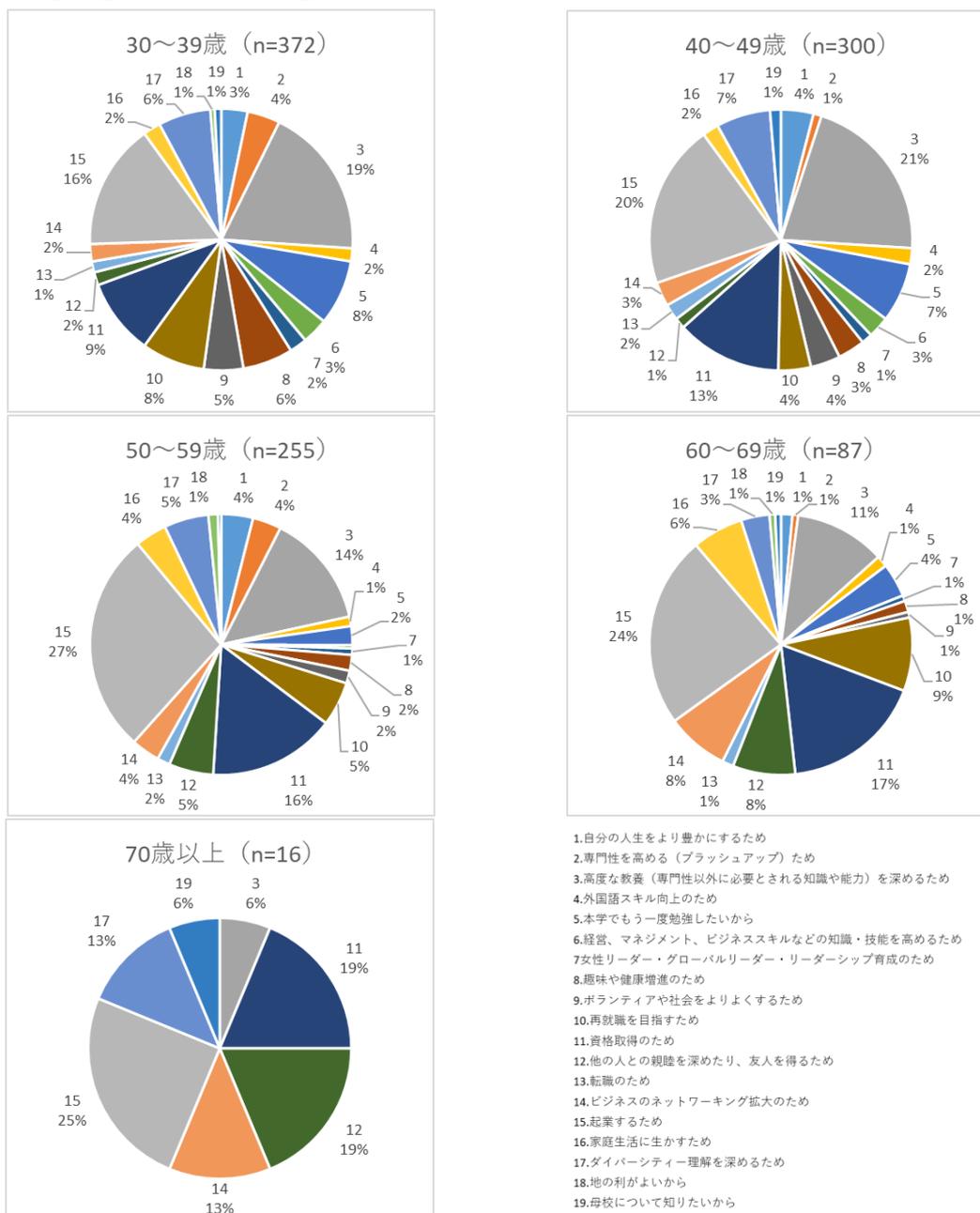
本学で生涯学習が開催される場合、60～69歳、70歳以上では「受講したいと思わない」の回答割合が高く、その他の年齢層では「受講したい」の方が回答割合は高くなった。これは、受講したいと思わない理由として多数挙げられた「遠方に住んでいるため、本学（文京区大塚）に通うことができない」が大きく起因していると考えられる。つまり、回答者は本学に足を運ぶことになった場合をイメージしたうえで回答している可能性が高く、通信（オンライン）教育による開催はイメージされていないことがうかがえる。

Q28SQ1-1_最も受講したい_受講内容 ※一番受講したい内容についてのみ



年齢別にみると、30～39歳では「3.専門性を高める知識・技術の習得」、「9.外国語スキル向上のための知識・技術」、「13.高度な教養を深める知識・技術の習得」を求めていることがわかる。40～49歳では他の年齢層と比較して「3.専門性を高める知識・技術の習得」の回答割合が最も多く、30～39歳と比較して「10.本学で開講されている授業（正規授業）」や「13.高度な教養を深める知識・技術の習得」の回答割合に増加傾向が見られた。50～59歳では若年層と比較して「13.高度な教養を深める知識・技能」、「14.ボランティアや社会活動のために必要な知識・技能」、「16.趣味や健康増進のための知識・技能」の回答割合がやや高くなり、60～69歳や70歳以上になるとさらにその回答割合は増加する傾向が見られた。

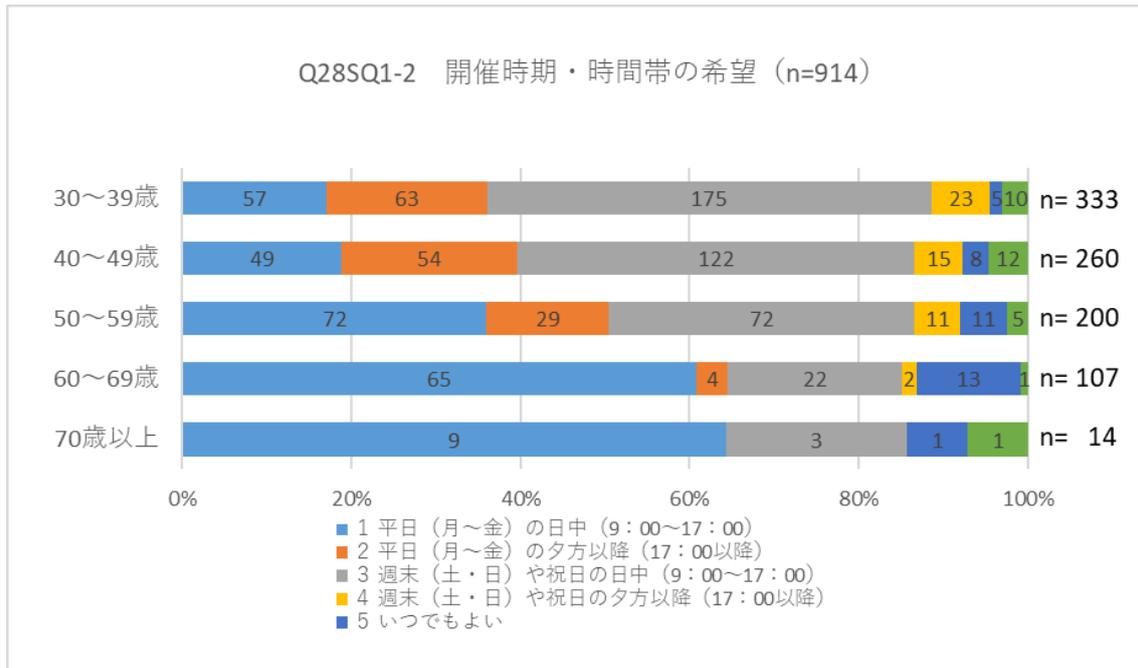
Q28SQ1-1_最も受講したい_受講理由 ※一番受講したい内容についてののみ



年齢別にみると、30～39歳では「3.高度な教養（専門性以外に必要とされる知識や能力）を深めるため」、「15.起業するため」、「11.資格取得のため」が多く、40～49歳になるとその回答割合は増加することがわかる。50～59歳以上になると「15.起業するため」と「11.資格取得のため」の回答割合がさらに増加した。

年齢による回答割合の変化をみると、「3.高度な教養（専門性以外に必要とされる知識や能力）を深めるため」の回答割合が年齢とともに低下し、一方で「11.資格取得のため」や「15.起業するため」の回答割合は年齢とともに増加傾向を示していることがわかる。

Q28SQ1-2 開催時期・時間帯の希望 ※一番受講したい内容についてののみ



開催時期については、30～39歳、40～49歳では「4.週末 (土・日) や祝日の日中 (9:00～17:00)」が多く、50～59歳では「1.平日 (月～金) の日中 (9:00～17:00)」の割合が同程度となり、60～69歳、70歳以上になると、「1.平日 (月～金) の日中 (9:00～17:00)」の回答割合が多くなる傾向が認められた。年齢によって自身のために自由に使用できる時間数や時間帯が相違することがうかがえる。

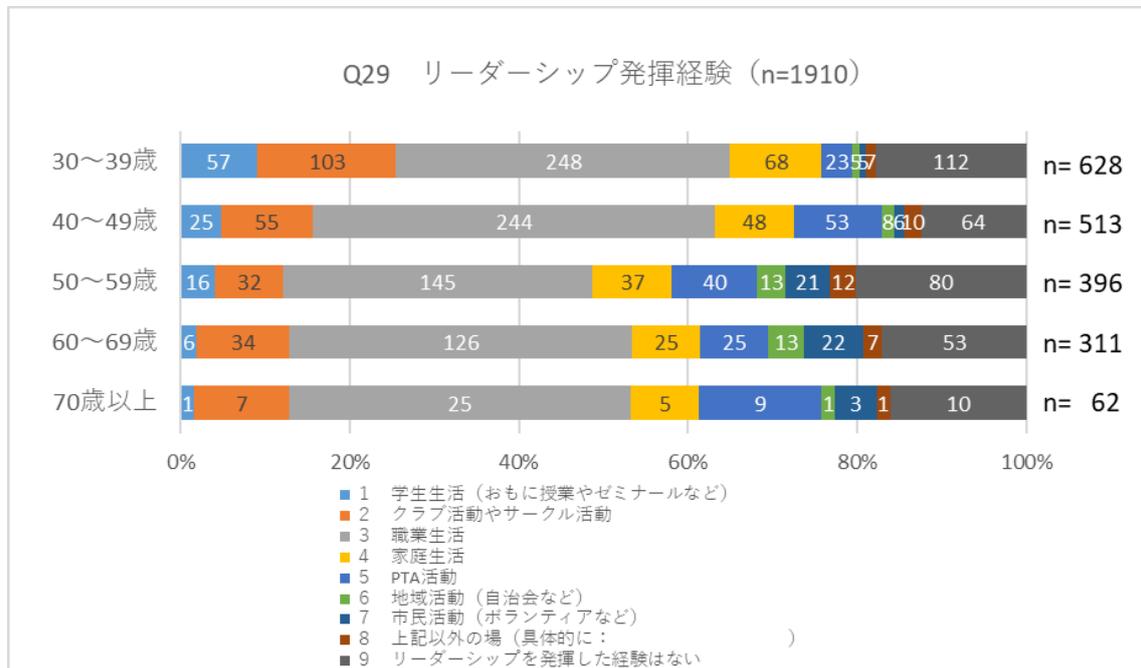
<リーダーシップを発揮した経験について>

結果概要

リーダーシップの発揮経験については、30～39歳は学生生活、クラブ活動やサークル活動で発揮した経験を持つ一方で「発揮した経験はない」の回答も多い。40～49歳は職業生活、家庭生活、PTA活動で発揮した経験を持つ人が多く、「発揮した経験はない」も多数みられた。50～59歳ではPTA活動、地域活動（自治会など）、その他の場での発揮経験がみられ、60～69歳では市民活動（ボランティアなど）での発揮が多い。

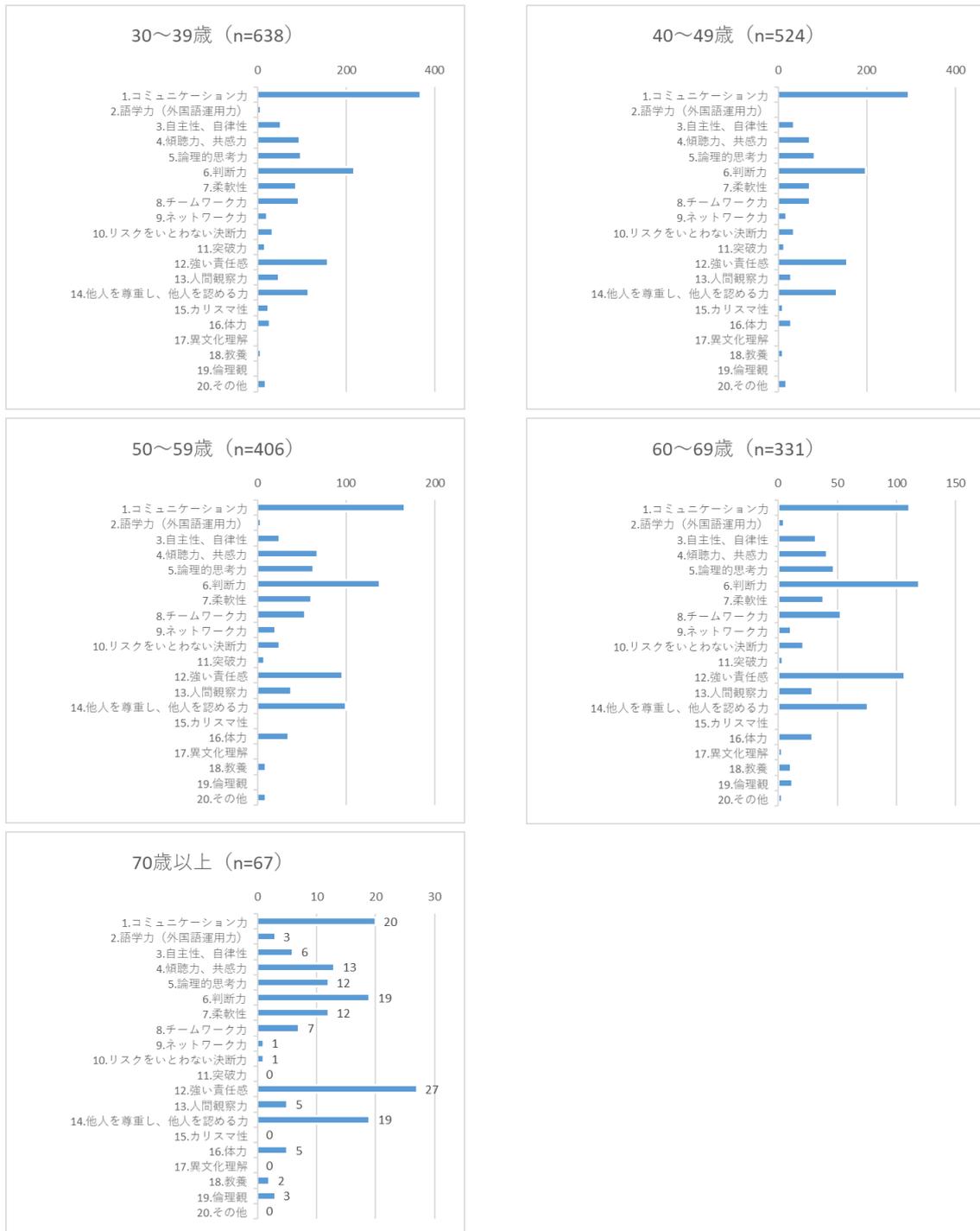
リーダーシップの発揮に必要な力について、若年層では特に「1. コミュニケーション力」を挙げる人が多く、中高年層になると「6.判断力」や「12.強い責任感」を挙げる人が多くなった。

Q29 リーダーシップを発揮した経験があるか？



いずれの年齢層においても職業生活でのリーダーシップ発揮経験が最も回答割合が高く、次いで「発揮した経験はない」の回答が高くなることがわかる。年齢ごとの特徴を見ると、30～39歳は他の年齢層と比較して学生生活、クラブ活動やサークル活動、家庭生活の回答割合が多く、40～49歳以降になるとPTA活動で発揮した経験を持つ人の割合が増える。50～59歳以上になると地域活動（自治会など）や市民活動（ボランティアなど）で発揮している様子も確認できる。このように年齢によってリーダーシップの発揮場所は相違し、所属や参加するコミュニティが変容していることがうかがえる。

Q29SQ1 リーダーシップ発揮に必要な能力

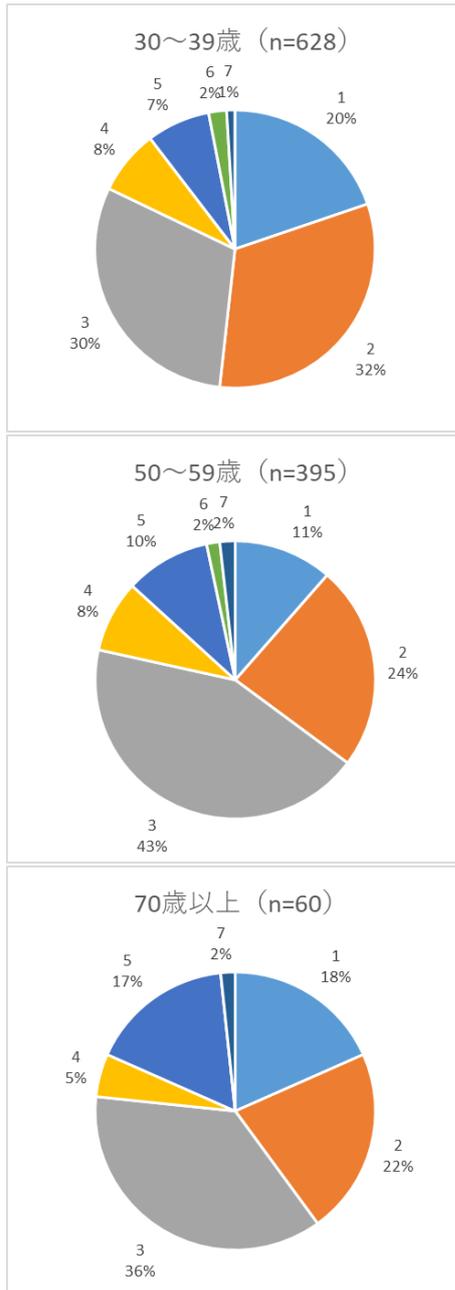


いずれの年齢においても「1. コミュニケーション力」、「6.判断力」、「12.強い責任感」、「14.他人を尊重し、他人を認める力」を挙げる人が多く見られた。

年齢別にみると、30~39歳、40~49歳では「1. コミュニケーション力」の回答割合が他の項目と比較して特に高くなる傾向がみられた。一方、50~59歳では「6.判断力」の回答割合が「1. コミュニケーション力」の回答割合と同程度の回答割合となり、60~69歳、70歳以上と年齢が上がるにつれて「6.判断力」の回答割合の方が多くなり、「12.強い責任感」の回答割合も増える傾向が認められた。

<あなたの考えるリーダーシップについて>

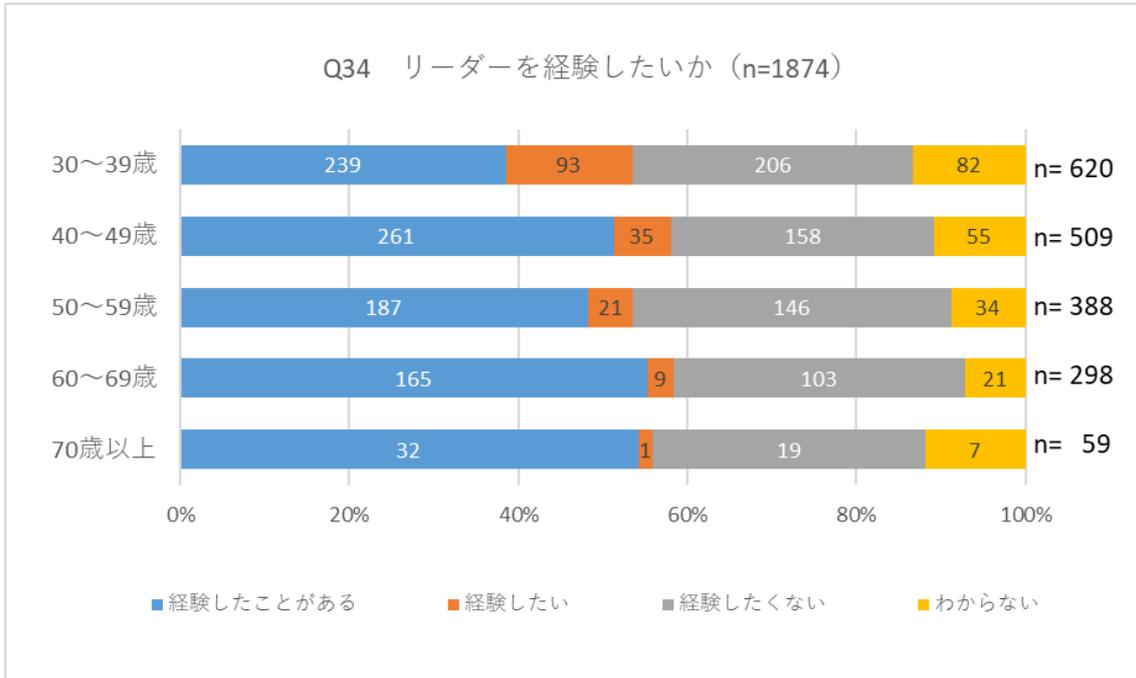
Q30 組織・集団にとって必要なリーダーシップとは？



1. 組織・集団のメンバーをまとめ、指示命令を出し、統率する力
2. メンバーを鼓舞し、ビジョンを提示し、目標や信念を涵養する力
3. 組織・集団のメンバーを支援し、組織の潜在的な力を発揮させる力
4. 組織・集団のメンバーの悩みや本音を引き出し、問題に対処する力
5. 必要に応じてメンバーの誰もが発揮すべき力
6. その他
7. わからない

年齢を問わず「2.メンバーを鼓舞し、ビジョンを提示し、目標や信念を涵養する力」、
「3.組織・集団のメンバーを支援し、組織の潜在的な力を発揮させる力」の回答割合が多い。
年齢ごとの特徴を見ると、30～39歳では「1.組織・集団のメンバーをまとめ、指示命令を出し、統率する力」の回答割合が他の年齢層よりも多く、40～49歳になるとそれらの回答割合は減少し、「3.組織・集団のメンバーを支援し、組織の潜在的な力を発揮させる力」や「5.必要に応じてメンバーの誰もが発揮すべき力」の回答割合が増加し、50～59歳、60～69歳と年齢が上がるにつれてその回答割合は高くなった。60～69歳では「4.メンバーの悩みを引きだし、問題に対処する力」の回答割合が他の年齢と比較して高くなる傾向が認められた。

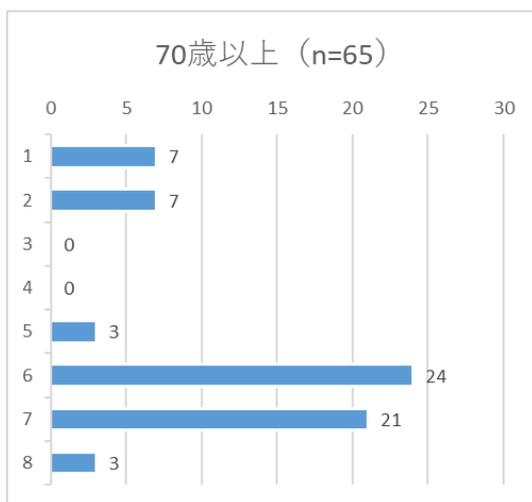
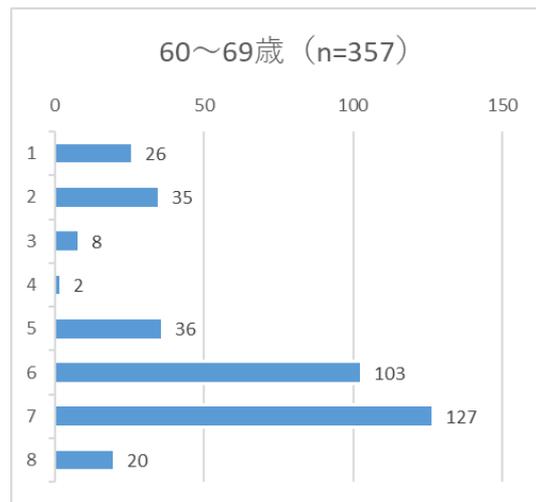
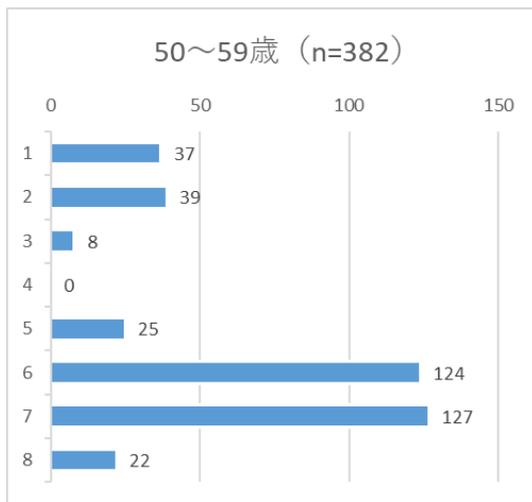
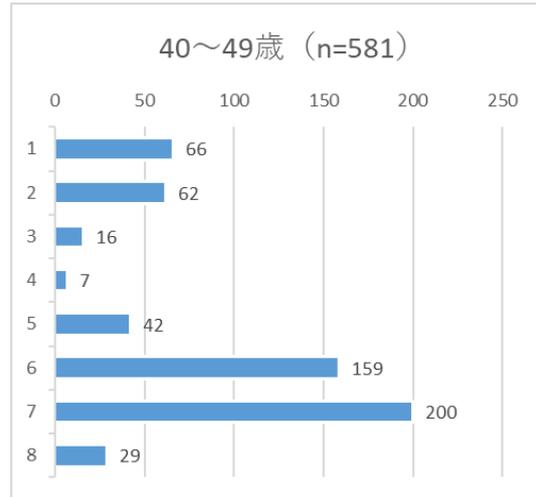
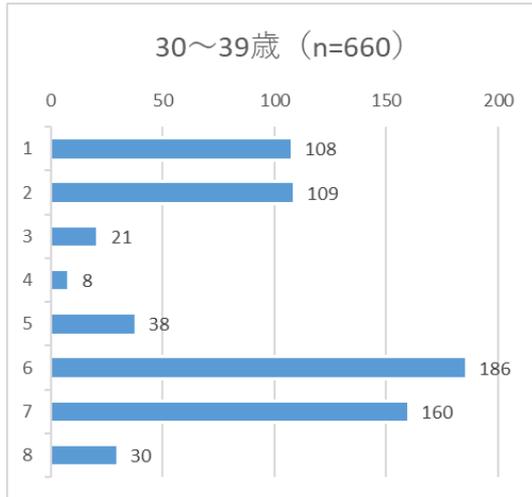
Q34 リーダーを経験したいか？



70歳以上の回答数が少ないことから、ここでは参考程度に留め、30~69歳のデータに重点を置いて考察する。

40歳以上では、約半数が、リーダーを「経験したことがある」と回答している。40歳以上に比べると、30~39歳ではリーダー経験者が少なく（39%）、「経験したい」の回答が15%と全年齢層中最も高い。「経験したい」と「わからない」の回答比率は、年齢が上がるとう減少する傾向にある。「経験したくない」の回答は、50~59歳で38%とやや高いものの、どの世代でも約3分の1であり、年齢による差は小さい。

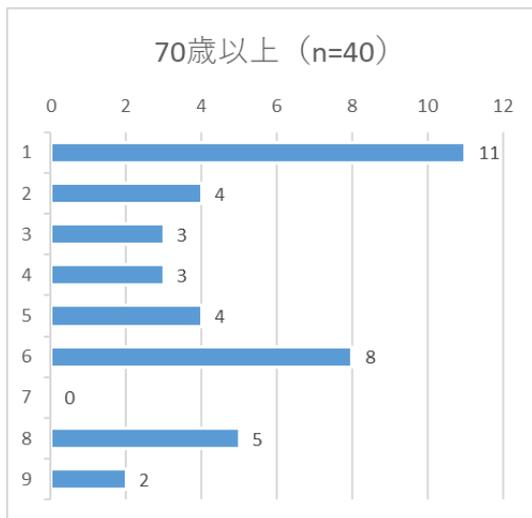
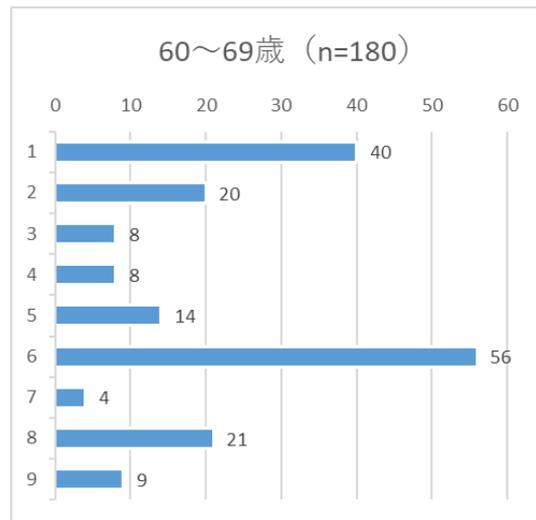
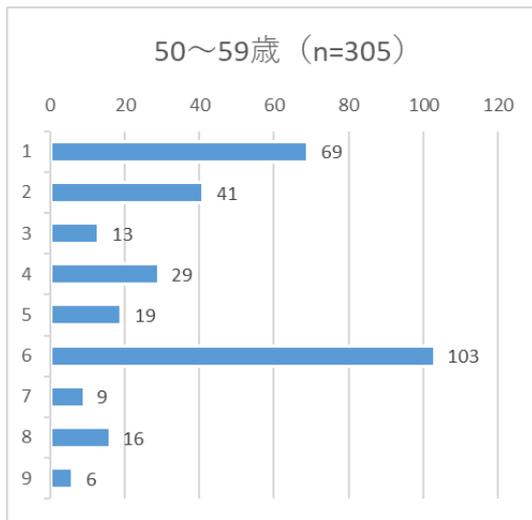
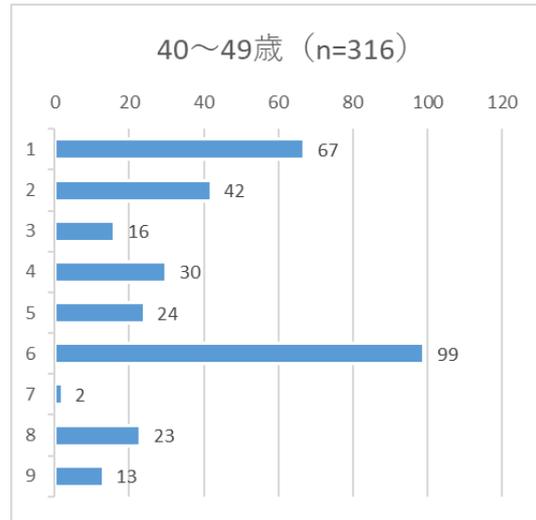
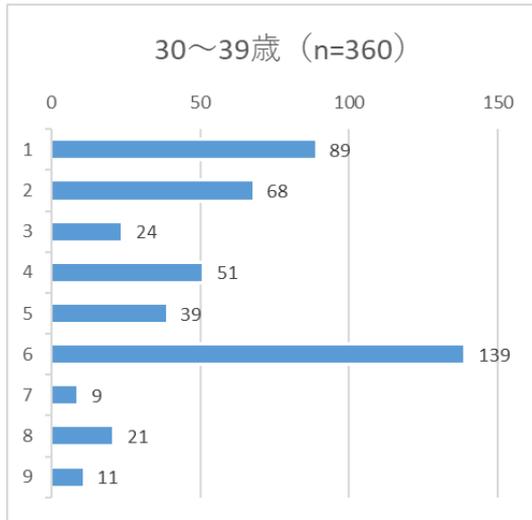
Q34SQ1. リーダーになりたい理由（複数回答）



- 1 自分の可能性を試したい
- 2 視野が広がる
- 3 自分はリーダーに向いている
- 4 地位や名声が手に入る
- 5 改革・変革をしたい
- 6 自分が役立てることがあれば協力は惜しまない
- 7 指名・推薦された
- 8 その他

いずれの年齢層においても「6. 自分が役立てることがあれば協力は惜しまない」と「7. 指名・推薦された」の回答割合が多く、30～39歳では前者が、それ以上の年齢層では後者の回答割合が多くなる傾向が認められた。また、30～39歳では「1.自分の可能性を試したい」、「2.視野が広がる」の回答割合が高く、年齢層が低いほど高くなる傾向が認められた。

Q34SQ2. リーダーになりたくない理由（複数回答）



- 1 自分には資質がない
- 2 自分には責任が重い
- 3 興味・関心がない
- 4 面倒である
- 5 適任の人が他にいる
- 6 補助する役のほうが向いている
- 7 女性リーダーに良いイメージを持っていない
- 8 リーダーシップが発揮できれば地位にはこだわらない
- 9 その他

70歳以上を除き「6. 補助する役のほうが向いている」の回答割合が高くなる傾向が認められた。次いで「1.自分には資質がない」、「2.自分には責任が重い」の回答が多くなった。リーダーになりたくない理由は年齢による大きな違いは見られず、リーダーとして活躍できる力を有しているにもかかわらず積極的に前に出ることを望まない、自己肯定感が低いなどの特徴が抽出された。この特徴は女性リーダーが増加しない理由の一つと考えられる。

3. 結果の活用

本調査の結果と卒業生の経験に基づく回答や意見などを活用し、多様な分野においてリーダーシップを発揮できる女性の育成、リーダー的役割を果たす女性を育成するためのカリキュラム構築、さらには本学で開催する社会人女性向け生涯学習（お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾）の計画・立案・改善に役立てている。

1) 社会人女性リーダー育成のための生涯学習塾「お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾」の設置とさらなる発展

お茶の水女子大学（以下、本学）は、2014年5月に企業等で管理職などの指導的立場に就くことを目指す「社会人女性」を対象とした独自の生涯学習講座「お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾」（以下、徽音塾）を開講した。

徽音塾の名称は、本学の講堂の名称「徽音堂」に由来する。「徽音」とは、古くは中国の『詩経』大雅に見られることばで、直訳すると「美しい声」であり、美德を意味している。徽音塾に集う女性たちが、自分を磨き、美しく響きあって共に学びを深め、実践に生かすことと、それが社会に共鳴の輪となって広がることの期待を込めて名付けられた。

本学が徽音塾を開講したきっかけは、社会からの要請や本学の使命だけではなく、現在女性リーダーとして活躍している本学卒業生の「声」にある。2012年度に実施した本学卒業生対象の座談会調査において、個性と能力を十分に兼ね備えている本学卒業生が「管理職になる自信がない」「社内にロールモデルがない」などの理由により、上位職を目指す過程において見えない「壁」、つまり「ガラスの天井」を自ら作っている状況が明らかとなった。また「社会人女性向けにビジネス実務を提供する学習環境を大学内に整備して欲しい」との要望もあったことから、2013年1～2月本学卒業生を対象に学ぶ意欲のある働く女性がどのような学習環境を希望しているのかを調査した。この調査から、学ぶ意欲のある働く女性は「実践的なもの」、「すぐに役立つもの」、「先端的なもの」を求めており、費用は少なく、週末（土・日）や祝日の日中（9時-5時）の開催を望んでいることが明らかになった。この調査結果に、本学の女性リーダー育成実績と国立の女子大学ならではの少人数できめ細やかで質の高い学習環境を掛け合わせることで、家事や育児等と学習を両立できる環境と、同じ志を持って学ぶ女性たちの交流の場として「お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾」は誕生した。

徽音塾のキャッチフレーズ「まなぶ みがく つながる → 一步前へ！」は、受講生だけではなく、「リーダーシップを発揮する女性を育成する」というお茶の水女子大学の社会的使命をも表現している。

2018年度末に塾生を対象とした受講後のビジネスキャリアに関するアンケートを実施し、徽音塾の効果を検証したところ、受講後に管理職への昇進希望が増加し、仕事に対する考え方の肯定的評価も増加する傾向が確認した。また、受講後に昇進・昇格、非正規雇

用から正規雇用への変化、キャリアアップのための転職、大学院進学（MBA コースなど）のキャリア変化も確認した。この調査から、徽音塾は課長相当職に就く以前の年齢層（概ね 20 代後半~30 代）の女性が企業等で指導的立場（上位の管理職）に就くことを目指す女性の割合を増加させ、働く女性たちがネットワークを構築する場として一定の効果を持つことを検証できた。

つまり、働く女性の意識や置かれた状況などを把握したうえで、女性がリーダーシップを発揮するために必要な知識とスキルをカリキュラムとして適切に提供する場を設けることは、女性リーダーの育成につながり、ひいては指導的立場に就く女性を増加させることにつながるといえよう。

2020 年度末までに約 260 名の塾生が徽音塾において学びを深め、つながり、それぞれの立場で最大限の可能性を開花させてきた。また、塾生有志が自然と集まり、徽音塾で構築したネットワークと学んだ知識をさらに広げる場として徽音塾 OG 会を設立し、積極的に勉強会や交流会を開催する活動に発展してきた。

これまでの成果をさらに発展させ、本学の使命でもあるグローバルに活躍できる女性リーダー育成のために、2021 年 4 月、徽音塾は企業等で指導的立場に就くことをめざす女性だけでなく、NPO や市民活動、地域コミュニティなど幅広い分野で指導的立場に就き、自身のリーダーシップを発揮して活躍の場を広げたいと考える女性を応援するための「お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾」として発展的な名称変更とカリキュラム改訂を行った。

新たな徽音塾の特徴は次のとおりである。

1. 少人数制

全科目それぞれに 30 名を定員とし、塾生同士や講師と塾生におけるグループワーク、ディスカッションを活発にしつつ、誰もが積極的に発言できる状況を創り出している。

2. 受講者は女性のみ、年齢・職種も様々

年齢も職種も肩書も異なる女性が肩を並べて学ぶことにより、考えや悩みを共有し、解決策を共に考え、異業種・他分野の人とのネットワークづくりを促している。

3. リーダーシップを発揮するための知識や教養、スキルを幅広く提供

創設時より設置している「女性のエンパワーメントとリーダーシップ講座」と「ビジネス講座」に加え、リーダーシップを発揮するにあたり深い知識と高度な教養を本学教員から学ぶ「お茶大プロフェッショナルレクチャー」を開講し、最新技術・研究成果に触れつつ、社会課題に対応できる力を身につける機会を設けている。

4. 全講座・科目をオンラインで提供

2021 年度は全 3 講座（計 20 科目）をオンラインで受講できる体制を整え、国内外のどこからでも徽音塾にアクセスできる状況を設定している。受講は 1 科目から受講可としており、自身の状況や都合に合わせて受講科目数を設定できる。

5. ネットワーキングランチを開催

ランチを兼ねてネットワークを構築するための交流会（オンライン・ネットワーキングランチ）の場を提供している。ゲストを招いてのミニレクチャーや受講後のキャリア変化やその後の活動報告などもこの交流会を活用している。塾生に限らず、就業経験のある女性であれば参加可能である。

徽音塾は2021年度をもって設立から8年目を迎えた。女性リーダーの育成という本学の使命、女性活躍推進という社会の流れ、本学卒業生に対するフォローという観点では一定の成果をあげたと考える。徽音塾は、資格取得のための講座ではなく「内なる力に気づき、引き出される場」である。2014年5月に本学で開講した「徽音塾」は、卒業生調査から得たニーズに合致するもの（開催期間や費用面、授業内容など）として、これからも意欲的に学ぶ社会人女性の可能性を引き出して広げるカリキュラムとつながりの場を提供し、社会的変革に寄与する女性リーダーの育成に貢献する所存である。

- ※徽音塾ホームページ <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/kiin/>
- ※徽音塾 Twitter <https://twitter.com/kiinjuku>
- ※徽音塾 OG 会 <https://sites.google.com/view/kiin-og/>



開設初年度（2014年度）お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾 パンフレット



リニューアル年度（2021年度）お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾 パンフレット



徽音塾 受講風景（2019年度）

2) 本学におけるリーダーシップ教育と全学生を評価対象とした本学独自のリーダーシップ特性評価指標の開発

本調査の結果をもとに、本学におけるリーダーシップ教育について2015年度後半よりリーダーシップ教育カリキュラム充実の検討を行った。まず、学部生向けリーダーシップ教育、キャリアデザインプログラムをMiLeキャリアデザインプログラムに刷新した。MiLeはMigakazuba Leadershipの略である。2017年度には、それに基づいたキャリア・リーダーシップ教育を開始した。下図が新たなキャリアデザインプログラムの体系を示したものである。



MiLe キャリアデザインプログラム体系図

主として1年生が履修する「お茶の水女子大学論」は、入学前のマインドセットを自省し、自らのキャリアをデザインし、社会においてリーダーシップを発揮するための基礎と位置づけている。その上に、キャリアスキル、キャリアプランニング、キャリアナレッジに区分された科目（緩やかに基礎から発展へと段階づけられる）が配置され、「協働」、「双方向」、「自律」の3コンピテンシーが身につく構成としている。このプログラムでは、学習の成果を実践に結びつけることを重視し、実践・アウトカムの区分を設けている。科目群の中から6単位以上を取得し、「実践・アウトカム」の科目・実践を行えばプログラム修了となる。

グローバルリーダーシップ研究所（IGL）が担当・提供する学部生向け、大学院生向けリーダーシップ育成科目は次のとおりである。

学部生向けリーダーシップ育成カリキュラム (IGL 担当リーダーシップ育成科目)

講義名	講義内容
・ お茶の水女子大学論	学部生がお茶の水女子大学の歴史と現在を学ぶことを通して、本学の教育カリキュラムを自律的に選択し、授業を有効に活用し、社会のさまざまな場面でリーダーシップを発揮する人間として成長することを目指します。これは主に1年生を対象とした講座です。
・ パーソナル・ブランディング	自分自身を内観・外観し、多角的に「自分を知る」ことから始めます。自分を知ったうえで、それをいかにしてコントロールし、人の記憶に残すのか、「パーソナル・ブランディング」の理論を学びながら実践を通じてそのテクニックを身につけ、自分自身を磨きます。
・ 女性のキャリアと法制	この授業では、特に組織におけるジェンダー・ダイバーシティに焦点を当てながら女性のリーダーシップについても学びます。事例研究も行いながらダイバーシティを推し進めるにはどのような「仕組み」が有効なのか、アクティブ・ラーニングを通じて履修生のみなさんと一緒に考えていきます。将来的には履修生のみなさんがこの授業で学んだことをそれぞれの所属する組織で活かしてくれることを期待します。
・ ファシリテーション	学部生が企業から提示された課題を解決する仮想プロジェクトに取り組み、その問題解決のプロセスを通して、企画立案力およびプレゼンテーション・スキルを向上させることを目指します。授業形態は基本的にグループワークです。
・ 女性のキャリアと経済	金融・財務に関する基礎知識は、リーダーとして社会で活躍する人間にとって必須です。本講座では、学部生が金融・経済に関する具体的な見方・考え方を身につけ、新聞・Webなどのメディアから自分で情報を収集できるようになることを目指します。これによって、学生が将来的にロールモデルとして活躍する資質を伸ばします。
・ ダイバーシティ論	戦後の日本において、女性は、家事・育児等の責任者という役割に加えて、労働市場や地域コミュニティを支える社会的な存在として期待されています。この授業では、「女性の労働」を切り口に、現代の女性と男性のライフコース選択に関わる諸問題について考え、自分の将来の職業生活を展望することを目的とします。
・ グローバル・リーダーシップ実習I/II	本科目では、キャリアデザインプログラムの基幹科目で身につけた、プレゼンテーション、コミュニケーションといったスキルを応用しながら海外でのリーダーシップ研修に挑戦します。「ソフトスキル」の理念に基づくリーダーシップ・スキルを習得し、他者との協働によって専門性を発展させていくための土台を形成します。イタリアの女子カレッジCollegio Nuovoの学生との交流活動を通して国際的な女子学生ネットワークを構築し、グローバル女性リーダーとしての第一歩を踏み出すことをめざします。
・ 未来起点ゼミI	本ゼミでは、表現、プレゼン、システム思考、グラフィックレコーディングの専門家を招き、講義とワークショップを通して、思考力、表現力などを身につけてもらいます。また、実現したい未来について、学生同士、外部講師、教員との対話を通して、具体的に提言してもらいます。
・ 未来起点ゼミII	
・ 未来起点ゼミIII	
・ 未来起点ゼミIV	

大学院生向けリーダーシップ育成カリキュラム (IGL 担当リーダーシップ育成科目)

講義名	講義内容
・ アカデミック女性リーダーへの道 (実践編)	この授業では、大学院生の研究企画、資金調達およびプレゼンテーションのための技能の向上を目標としています。 具体的には、学振審査経験のある教員、科研費獲得経験のある教員、学振特別研究員になっている院生から審査・申請の際にポイントとなる点について話していただき、それに基づいて、各自の仮の申請書類を作成する実習を行います。最終日には、外部講師をお招きし、プレゼンテーション講座を開きます。
・ キャリア開発特論 (基礎編)	お茶大出身者を含むアクセント社員が毎回数名講師を担当します。多岐に渡る業界、分野を担当する社員が、社会における最前線の仕事の紹介や、キャリア形成についてお話しします。今年度はキャリアを考える内容に加え、ホットトピックであるwith/After コロナでのビジネスの変化や就活の変化等も、実例を交えてお伝え致します。 今年度は以下のトピックを扱います。 ・ 「働く」ということ ~これまでの歩みを振り返り「働く」を見つめなおす~ ・ 「社会・仕事」を知る ~社会・仕事の仕組み、コロナ禍での変化を知る~ ・ 「企業」を知る ~企業の編制や企業を組織する人の役割を知る~ ・ キャリアプラン&アクションプラン ~学習内容を活かし、具体的なアクションプランづくりを学ぶ~
・ グローバル女性リーダー特論	2012 (平成24) 年度からはじまった本講座は、大学院生 (博士前期・後期)、ポストドクター、社会人女性を対象に、高度なキャリア開発教育、リーダーシップ養成教育を行うことを目的としています。実社会の多様なニーズを踏まえた発想や国際的な幅広い視野を身に着けた人材の育成と生涯教育という観点から、グローバル女性リーダーの育成のための教育を行います。授業形態はグループワークや講義、プレゼンテーションなど様々です。
・ 未来起点研究I	本ゼミでは、表現、プレゼン、システム思考、グラフィックレコーディングの専門家を招き、講義とワークショップを通して、思考力、表現力などを身につけてもらいます。また、実現したい未来について、学生同士、外部講師、教員との対話を通して、具体的に提言してもらいます。
・ 未来起点研究II	
・ 未来起点研究III	
・ 未来起点研究IV	

グローバルリーダーシップ研究所では、本学独自の「リーダーシップ特性評価指標」を開発し、実践を通じて開発した評価指標（尺度）の信頼性及び妥当性について検討を行っている。

指標開発にあたり、本調査（2013年1～2月に実施した卒業生調査）における「C.リーダーシップを発揮した経験について」の回答から得た卒業生の意見や国内外のリーダーシップ理論・モデル、リーダーシップ教育の成果を評価する指標、本学の学生・キャリア支援センターが作成したコンピテンシー評価指標¹⁾を参考にし、IGLで「リーダーシップ育成カリキュラム」の教育効果検証のために作成した項目をベースに、25項目で構成される「リーダーシップ特性指標」を開発した。

この指標を用いて本学1年生（入学時）と3年生（就職活動期）を対象に自己評価を実施し、その回答を25項目それぞれに学年ごと、学部ごとに分析し、リーダーシップ特性の評価傾向について考察した。その結果、開発した指標を用いて本学における学生のリーダーシップ特性や学年・学部による特性の相違、自己評価の傾向を以下の通り明らかにすることができた。

- ・本学の1年生、3年生におけるリーダーシップ特性として、「14. 貢献力（目標達成のためにグループやチームのメンバーの一員として貢献する力）」の評価が全体的に高くなる傾向が認められた。
- ・学年による差異が最もよく現れるのは、20～25のジェンダー、ダイバーシティ&インクルージョン、女性を取り巻く問題やキャリアにかかわる項目であり、3年生は1年生よりも高い評価になる傾向が認められた。
- ・文教育学部は全体的に評価が高くなる傾向があり、特に「21. ジェンダーの知識を応用する力」は高評価となる傾向が認められた。また、「11. 決断力（決定する力）」については3年生の評価が1年生よりも高くなる傾向が認められた。
- ・理学部は「15. 情報収集・活用力（経済・社会・国際情勢を把握する力）」の評価が高い一方で20～25のジェンダー、ダイバーシティ&インクルージョン、女性を取り巻く問題やキャリアにかかわる項目の評価が他の学部と比較して低くなる傾向が認められた。また、「5. 批判的思考力（健全な批判ができる力）」、「6. 創造的思考力（起業家精神力、計画立案・企画力）」については3年生の評価が1年生よりも高くなる傾向が認められた。
- ・生活科学部は「14. 貢献力（目標達成のためにグループやチームのメンバーの一員として貢献する力）」の評価が特に高い一方で、1～19の評価が他の学部と比較して低くなる傾向が認められた。また、「2. コミュニケーション力（共感力、傾聴力、協調力、周囲を巻き込む力、他者理解力）」、「13. 統率力（目標達成のためにグループやチームのメンバーをまとめて率いる力）」については、3年生の評価が1年生よりも高くなる傾向が認められた。
- ・今回の評価者（本学1年生、3年生）をリーダーシップ特性の評価の高低（高、中、低）により3グループに分けることができ、全体の約60%が評価中程度のグループに属することがわかった。

リーダーシップ特性評価指標

リーダーシップの養成に関わる能力評価指標	評価内容
1. 発言力 (説得力のある発言ができる力、影響力)	相手の気持ちを動かす、行動を促す発言・説明ができる。
2. コミュニケーション力 (共感力、傾聴力、協調力、周囲を巻き込む力、他者理解力)	主体的に行動することができる、周囲の協力・共感・納得を得て巻き込みながら目的を達成できる。
3. プレゼンテーション力 (表現力)	聞き手の心を揺さぶる (感情に訴えかける)、記憶に残る印象的なプレゼンテーションをすることができる。
4. 論理的思考力 (筋道を立てる力)	自身の感情や気持ちをコントロールすることができる、冷静に現状を把握・整理・分析して目標達成までの道筋を立てることができる。
5. 批判的思考力 (健全な批判ができる力)	相手の意見に対して客観的で健全な批判ができる。
6. 創造的思考力 (起業家精神、計画立案・企画力)	これまででない (従来とは異なる) やり方や考え方、意見を企画・提案することができる。
7. 倫理的思考力 (真正性、一貫性、エシカルリーダーシップ)	お互いを尊重し、認め合い、活かす合うことを心がけた考えや意見を企画・提案することができる。
8. 問題や課題の発見・解決力	小さな要因・原因から大きな問題・課題を見つける力を持ち、解決に向けた課題や方策を設定することができる。
9. 行動力 (リスクを恐れない勇敢な心、積極性、チャレンジ精神)	リスクや失敗を恐れず、自身の限界を決めることなく、前向きにチャレンジすることができる。
10. 判断力 (見分ける力)	タイミングを見極め、状況を把握・分析したうえで理論的に判断する (結論を出す) ことができる。
11. 決断力 (決定する力)	自分の中にゆるぎない基軸 (信念) を持ち、迷いなく責任をもって決断することができる。
12. 俯瞰力 (広い視野でみる力、構造化力)	広い視野で現状を把握し、他とのつながりを考慮したうえで問題や課題を構造化することができる。
13. 統率力 (目標達成のためにグループやチームのメンバーをまとめて率いる力)	適切な目標を設定することができる、チームやグループのモチベーションを管理しつつ意識を一つにまとめることができる。
14. 貢献力 (目標達成のためにグループやチームのメンバーの一員として貢献する力)	指示や役割を前向きに受け入れ、目標達成に向けて着実に取り組みることができる。
15. 情報収集・活用力 (経済・社会・国際情勢を把握する力)	先入観なく情報を収集することができる、目的に合わせて得た情報を選択することができる。
16. 自己理解力 (自己認識、自己概念や個性の認識、独自性、自己受容力)	自身が持つ特徴 (強み、弱み) や特性、個性を理解・認識し、他者と自分を比較することなくありのままの自分を受け入れ、それを表現することができる。
17. 自己効力 (自分の可能性を信じる力)、セルフ・エフィカシー、願望力)	無理難題であっても自分の力を信じ、あきらめずに夢の実現を望み、行動し続けることができる。
18. ネットワークを形成する力 (『つながり』をつくる力)	人と人とのつながりを作り出すことができ、発展・拡大させることができる。
19. 柔軟に対応する力 (適応力、変化に対応する力)	不測事態や不確実な状況、複雑さやあいまいさに対してしなやかに対応することができる。
20. ジェンダーに対する理解力	ジェンダーについて十分な知識を持ち、説明することができる。
21. ジェンダーの知識を応用する力	ジェンダーに配慮した提案や行動をとることができる。
22. ダイバーシティ&インクルージョンに対する理解力	ダイバーシティ&インクルージョンについて十分な知識を持ち、説明することができる。
23. ダイバーシティ&インクルージョンの知識を応用する力	ダイバーシティ&インクルージョンに配慮した提案や行動をとることができる。
24. 女性を取り巻く雇用状況や労働環境に対する理解力と課題・改善点を提案する力	女性を取り巻く雇用状況や労働環境について十分把握し、課題や改善点を提案することができる。
25. 女性のキャリア形成の特徴に対する理解力とキャリアデザイン力	女性がキャリアを形成する際に起こりうる問題や特徴を十分理解し、自身のキャリアを設計することができる。

これらの結果は学生にフィードバックし、今後の学生生活における行動計画・設計時の参考資料とするよう、アナウンスした。また、前述した「リーダーシップ育成カリキュラム」の教育効果を測定するための「リーダーシップ開発チェックリスト」としてこの指標を活用し、2020年度より運用を開始した。これまでににおけるリーダーシップ育成カリキュラムの教育効果については本学紀要「高等教育と学生支援」8巻～11巻^{2) -5)}に掲載している。開発した指標（尺度）の妥当性についても検討した結果、おおむね信頼できることが明らかとなった。その一方で、自己評価が中程度（中庸）の学生が多く、評価があいまいであったこと、フォロワーシップ力にかかわる質問や、そのほかの質問も加える可能性も示唆されたことから、今回提案した指標（尺度）の見直しや自己肯定感を高める取り組み（授業など）の増加など、検討すべき課題を明らかにすることができた。

2020年度の結果は2021年3月15日（月）に開催した全学FD/SD会で発表し、本学紀要「高等教育と学生支援」11巻⁶⁾において公表・報告している。今後は、自己評価傾向別にさらに分析を進め、リーダーシップ特性の自己評価と「リーダーシップ育成カリキュラム」の履修状況との関係についても分析を進めたい。

【参考文献】

- 1) 霜鳥美和・望月由起（2014）「お茶の水女子大学キャリア教育における『コンピテンシー評価プログラム』の実践報告」『高等教育と学生支援：お茶の水女子大学紀要』5, 63-75.
- 2) 大木直子・大持ほのか・内藤章江（2017）「お茶の水女子大学リーダーシップ教育効果の測定に関する調査報告—IGL主催のキャリアデザインプログラム基幹科目を対象として」『高等教育と学生支援：お茶の水女子大学紀要』8, 42-49.
- 3) 大木直子・大持ほのか・内藤章江（2018）「お茶の水女子大学におけるリーダーシップ教育の効果測定に関する継続調査の報告—2017-2018年度実施 IGL主催 キャリアデザインプログラム基幹科目について」『高等教育と学生支援—お茶の水女子大学紀要—』9, 12-19.
- 4) 大木直子・大持ほのか・内藤章江（2019）「IGL主催リーダーシップ教育授業の効果測定に関する調査報告」『高等教育と学生支援—お茶の水女子大学紀要—』10, 48-58.
- 5) 大木直子・大持ほのか・石田恵理・内藤章江（2020）キャリアデザインプログラムによる「リーダーシップ開発チェックリスト」に関する調査報告『高等教育と学生支援—お茶の水女子大学紀要—』11, 58-63.
- 6) 内藤章江・石田恵理・大木直子・佐々木泰子（2020）お茶の水女子大学におけるリーダーシップ特性評価指標の開発と実践報告『高等教育と学生支援—お茶の水女子大学紀要—』11, 64-74.

4. 総括

本調査の目的は、本学の卒業生の「生涯教育」や「リーダーシップ」に対する考えや志向、経験を明らかにすることである。「生涯教育」については、これまでに経験した生涯教育（仕事やキャリアアップに役立つ知識や技術の習得、心豊かで充実した人生を送るための教養を身につけるために、自分に適した手段や方法を選んで行う「生涯にわたる自発的な学習」と定義）や本学でどのような生涯学習の開催を期待しているのか、について調査する。「リーダーシップ」については、リーダーシップ発揮経験、組織・集団（職場だけでなく、サークル、PTA、町内会、家庭なども含む）に必要なリーダーシップとは何か、本学におけるリーダーシップ教育・事業の強化として何が必要か、リーダー志向について調査する。調査は「OG データ Web 登録システム」に登録されている本学の学部卒業生（1961年3月卒～2004年3月卒）のうち30歳以上の3772名を対象に、郵送法による質問紙調査を行った。回収数は1996名（回収率52.1%）であった。

「生涯学習」について調査した結果、本学卒業生の7割以上が生涯学習を経験しており、受講内容としてニーズが高いのは「専門性を高める」、「高度な教養」、「本学で開講する授業」、「外国語スキル」に関わるものであることがわかった。生涯学習は自分の人生をより豊かにするために行うことが多いが、専門性や高度な教養を身につける、資格を取得するなどスキルアップのために受講するという理由も見られた。また、本学で開催する生涯学習にも同じものを求めており、費用は1万円未満～4万円と少なく、週末（土・日）や祝日の日中（9時-5時）の開催が期待されていることがわかった。調査結果を回答者年齢層別にみると、本学卒業生は大学卒業後も学び続けている人が多く、特に仕事や子育てなどに余裕や落ち着きが生まれる50歳代以上では、より多くの人に受講経験があることが明らかとなった。受講内容は年齢とともに「仕事に活用できる学び」から「趣味や健康増進のための学び」にシフトしており、本学で生涯学習が開催される場合、若年層は「専門性を高める」、「外国語スキル向上」、「高度な教養」の受講を希望し、年齢が上がるにつれて「本学で開講されている授業（正規授業）」や「高度な教養」、「ボランティアや社会活動」、「趣味や健康増進」の受講希望が増加した。開催時期については、若年層は「週末（土・日）や祝日の日中（9:00～17:00）」、中高年層は「平日（月～金）の日中（9:00～17:00）」を希望していることがわかった。

「リーダーシップ」について調査した結果、本学卒業生がリーダーシップを発揮した経験は「職場」が最も多く、発揮に当たり最も必要だった能力は「コミュニケーション力」であると考えていることがわかった。また、「判断力」、「強い責任感」、「他人を尊重し、他人を認める力」も必要とされていた。一方で、経験者の7割がリーダーシップの発揮に困難を感じたことがあり、困難の要因として「周囲の意見を聞く中で、時に物事の決定が慎重になりすぎる」、「チームワークが形成出来ない」、「コミュニケーション不足」などが挙げられた。組織・集団にとって必要なリーダーシップとして、「組織・集団のメンバーを支援し、組織の潜在的な力を発揮させる力」が最も重要視されており、支え型のリーダーシップが支持されていることがわかった。リーダーシップを養成するために強化が必要と考えられている教育・授業は「キャリア教育」であった。今後女性のリーダーシップの発揮が求められる分野は、「政治」、「教育・研究」、「行政」、「民間企業」との回答が

多かった。本調査に回答した卒業生においては、積極的にリーダー的立場になったというより、指名・推薦でなる人が多く、リーダーになりたくない人は「補助的役割の方が向いている」、「資質がない」、「責任が重い」などの理由を挙げていることがわかった。女性リーダーの育成には、これらを払拭する取組が必要であろう。調査結果を回答者年齢層別にみると、リーダーシップの発揮経験については、30～39歳は学生生活、クラブ活動やサークル活動で発揮した経験を持つ一方で「発揮した経験はない」の回答も多いことがわかった。40～49歳は職業生活、家庭生活、PTA活動で発揮した経験を持つ人が多く、「発揮した経験はない」も多数みられた。50～59歳ではPTA活動、地域活動（自治会など）、その他の場での発揮経験がみられ、60～69歳では市民活動（ボランティアなど）での発揮が多い。リーダーシップの発揮に必要な力について、若年層では特に「1. コミュニケーション力」を挙げる人が多く、中高年層になると「6.判断力」や「12.強い責任感」を挙げる人が多くなることがわかった。

本調査の結果と卒業生の経験に基づく回答や意見などを活用し、多様な分野においてリーダーシップを発揮できる女性の育成、リーダー的役割を果たす女性を育成するためのカリキュラム構築、さらには本学で開催する社会人女性向け生涯学習（お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾、2021年度よりお茶大女性リーダー育成塾：徽音塾に名称変更）の計画・立案・改善に役立てることができた。

本報告書は2014年1～2月に本学卒業生を対象に実施した調査の結果を報告するとともに、調査結果の活用について報告するものである。本学は、国立の女子大学として「女性リーダー育成」を使命としている。現在社会で広く活躍している本学卒業生の経験や意見を把握することで、その使命を全うするための教育カリキュラムの構築が可能となり、教育効果を検証する指標やリーダーシップ特性をはかる指標の開発・実践にもつながった。

調査にご協力賜った本学卒業生の皆様には心からの感謝の意を表し、お寄せいただいた意見を本学の教育・研究に反映させるべく、グローバルリーダーシップ研究所では引き続き女性リーダーの育成に邁進し、女性の国際的、社会的活躍を促進、加速させるとともに、国立の女子大学としての本学の使命である男女共同参画社会の実現に寄与する所存である。

付録

- ・ 付録1 調査票
- ・ 付録2 集計表
- ・ 付録3 Q29SQ2 リーダーシップを発揮しようとして困難を感じた要因
自由記述まとめ
- ・ 付録4 Q33 「リーダー」と聞いてあなたが思いつく人物は誰ですか 記述回答まとめ

付録 1 調査票

女性の進路選択、生涯教育、リーダーシップに関するアンケート

このアンケートは、お茶の水女子大学の卒業生の皆様を対象に、A.女性の進路選択 B.生涯教育 C.リーダーシップ養成教育、に関するご意見等をお尋ねするものです。

アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

1. この調査は、OGの方のデータベースに登録されている（1961年3月～2005年3月）お茶の水女子大学の学部を卒業された皆様を対象としています。ご回答は、すべて統計的に処理し、個人的なデータを公表することは絶対に行いません。
2. 調査結果は、お茶の水女子大学と、「女性の進路選択に関する研究会」の科学研究費助成事業（基盤研究B）「女性の理系進路選択における親の意識の影響に関する調査・分析」の共同研究に使用し、論文や報告書にまとめる予定です。
3. アンケートは無記名ですが、「A.女性の進路選択」についての追加調査のインタビューにご協力いただける方は別紙の該当箇所にご連絡先をご記入ください。
4. このアンケート用紙にそのままご記入いただき、切手が貼ってある**白い返信用封筒**にてご返送ください。
2月21日（金）までに、ご投函ください

5. お問い合わせ先

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 国立大学法人お茶の水女子大学 卒業生調査（平成25年度）事務局

Email: ocha.diversity2013@gmail.com FAX: 03-5978-5545

調査担当： 卒業生調査委員会 代表：お茶の水女子大学 副学長 鷹野景子

女性の進路選択に関する研究会 代表：山口大学 特命准教授 林裕子

●記入にあたってのお願い

- ・ 回答は、□の中に数字を記入する形式と、質問ごとに用意してある答えの中からあてはまるものの番号に○をつける形式とがあります。
- ・ 「その他」「それ以外」を選んだ場合は、その番号に○をつけたうえ、（ ）内にその具体的な内容をご記入ください。
- ・ Q1から順にお答えください。一部の方だけにお答えいただく質問もございますので、矢印や指示にしたがってお進みください。
- ・ 「あてはまる番号1つに○」という質問では回答は1つにしぼってください。「2つまで」「あてはまる番号すべて」などと書かれた質問では、表記に従ってください。
- ・ 各ページにある⑦、⑧、⑩…や [01] などの数字は電算処理のためのもので、お答えの内容とは関係ありません。
*個人情報の取扱いに関し、個人情報保護法をはじめとする個人情報保護に関する規定その他の関連法令を遵守いたします

A 進路選択について

● 最初に、あなたの在学した学科のことなどについてうかがいます。

Q1 あなたの生年月をお答えください。

生年月 西暦 年 月生まれ

⑥~⑪

Q2 あなたの最終学位は次のどれですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。そして、卒業した年月をお答えください。

1 学士 2 修士 3 博士 (単位取得退学を含む)

卒業年月 西暦 年 月

⑫

⑬~⑮

Q3 あなたは、(学部) 入学時にどこから大学へ通っていましたか、あてはまる番号1つに○をつけてください。

1 自宅 2 大学の寮 3 下宿・アパート 4 その他 (具体的に:)

⑯

Q4 あなたが卒業した学部の学科はどこですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(複数の場合は最初に卒業した学科でお答えください)

[文教育学部]

- | | | |
|------------------|---------------|-----------------|
| 1 哲学科 | 5 教育学科・舞踊教育学科 | 9 芸術・表現行動学科 |
| 2 史学科 | 6 人間社会科学科 | 10 その他 (具体的に:) |
| 3 地理学科 | 7 人文科学科 | |
| 4 文学科・国文学科・外国文学科 | 8 言語文化学科 | |

[理学部]

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 11 数学科 | 13 化学科 | 15 情報科学科 |
| 12 物理学科 | 14 生物学科 | |

⑳

㉑

㉒

[家政学部・生活科学部]

- | | | |
|-----------|-------------|-----------------|
| 16 児童学科 | 20 生活環境学科 | 24 その他 (具体的に:) |
| 17 食物学科 | 21 食物栄養学科 | |
| 18 被服学科 | 22 人間・環境科学科 | |
| 19 家庭経営学科 | 23 人間生活学科 | |

SQ1 あなたは大学在学中、文系・理系のどちらの観点から学んでいましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 どちらかというと理系的観点から学んでいた
 2 どちらかというと文系的観点から学んでいた
 3 特に意識せずに学んでいた

㉓

【Q8で「1 フルタイムで働いた」「2 主にパート、アルバイト、派遣、非常勤、嘱託で働いた」と答えた方に】

SQ1 その仕事は何でしたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

(複数ある場合は最も収入の多かった仕事に○をつけてください)

1 管理的職業 (民間企業、公務員の課長職以上、会社役員など)

2 専門・技術的職業 (1~15から該当する仕事を選び、○をつけてください)

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1 技術者 | 9 小学校教師 |
| 2 システムエンジニア(SE) | 10 幼稚園教師 |
| 3 医師・歯科医師・獣医師・薬剤師など | 11 保育士 |
| 4 法務関係 (裁判官、弁護士、司法書士など) | 12 学芸員 |
| 5 理系の研究者 | 13 カウンセラー |
| 6 文系の研究者 | 14 栄養士 |
| 7 中学・高校の理系科目(理科・数学・情報)の教師 | 15 その他 (具体的に:) |
| 8 中学・高校の7以外の科目の教師 | |

3 事務的職業 (企業・公務員の一般事務員、教育関係の教務・事務補佐、秘書など)

4 販売的職業 (民間企業の営業・販売職、小売店経営、保険外交員など)

5 保安・サービスの職業 (警察官、自衛官、介護職員、フライト・アテンダントなど)

6 その他 (具体的に:)

SQ2 そこで雇われている人は全体で何人くらいでしたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

(事業所単位ではなく、会社全体あるいはそれに相当する組織全体でお答えください。)

- | | | |
|----------|------------|-----------|
| 1 1~29人 | 3 100~499人 | 5 1000人以上 |
| 2 30~99人 | 4 500~999人 | |

SQ3 その仕事を現在も続けていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 やめた (転職や中断再就職を含む) 2 現在まで同じ仕事を続けている → 次ページのQ9へ

SQ3-1 「1 やめた」を選んだ方にうかがいます。あなたはその仕事を何年間続けましたか。

<input type="text"/>	<input type="text"/>	年	<input type="text"/>	<input type="text"/>	ヶ月
----------------------	----------------------	---	----------------------	----------------------	----

SQ3-2 その仕事をやめた理由は何ですか。あてはまる番号を2つまで選んで番号に○をつけてください。

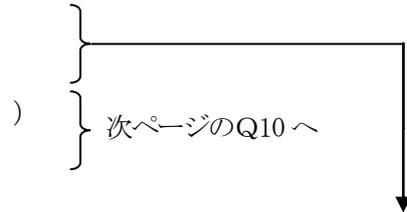
- | | | |
|-------------|--------------|--------------------|
| 1 定年のため | 6 家族の介護のため | 11 キャリアを積む限界がみえたから |
| 2 転職のため | 7 自分自身の健康問題 | 12 職場の人間関係のため |
| 3 結婚のため | 8 労働条件が過酷だから | 13 その他 (具体的に:) |
| 4 出産、育児のため | 9 収入が少ないから | |
| 5 配偶者の転勤のため | 10 人員整理・倒産 | |

38~43

【全員の方に】

Q9 現在、あなたは収入をとまなう仕事をしていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 フルタイムで働いている
- 2 主にパート、アルバイト、派遣、非常勤、嘱託で働いている
- 3 その他の仕事をしている（具体的に： _____）
- 4 収入をとまなう仕事にはついていない



④④

SQ1 【Q9で「1フルタイムで働いている」「2主にパート、アルバイト、派遣、非常勤、嘱託で働いている」と答えた方に】

あなたの職位は次のどれに当てはまりますか。最も近い番号1つに○をつけてください。

[企業・役所・教育機関・その他団体関係]

- 1 役職なし 3 課長・課長相当職 5 社長・重役・役員・理事 相当職
- 2 係長・係長相当職 4 部長・部長相当職

[大学・短期大学教員関係]

- 6 技官・助手 8 専任講師 10 教授 12 学長・理事・評議員相当職
- 7 助教 9 准教授 11 非常勤講師

④⑤
④⑥

[幼・小学校・中学校・高等学校関係]

- 13 教諭 15 校長相当職
- 14 教頭・副校長相当職 16 その他（具体的に： _____）

[その他]

- 17 その他（具体的に： _____）

SQ2 現在のあなた個人の年収（税込み、年金所得も含む）はどのくらいですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 200万円未満 3 400～600万円未満 5 800～1,000万円未満
- 2 200～400万円未満 4 600～800万円未満 6 1,000万円以上

④⑦

SQ3 あなたが現在働いている理由は何ですか。次の1～11の中からあてはまる番号2つに○をつけてください。

- 1 自分自身の収入が欲しいから
- 2 家計の維持や補助に必要だから
- 3 社会とのつながりを持ちたいから
- 4 仕事につくことは当然だと思うから
- 5 仕事をするのが好きだから
- 6 知識、技術、趣味を生かしたいから
- 7 経済的に自立したいから
- 8 家業だから
- 9 仕事を通じて友人を得たいから
- 10 他にすることがないから
- 11 その他（具体的に： _____）

④⑧
④⑨

【全員の方に】

Q10 あなたは今までに外国で生活されたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1 ある (年 ヶ月) 2 ない

50
51~54

Q11 あなたは現在結婚されていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 未婚 → 13ページのQ19へ
- 2 結婚している (事実婚も含む) }
- 3 離別・死別した }

55

【Q11で2、3と回答した方に】 配偶者の方についてお答え下さい。(3の方は可能な範囲でお答えください)

SQ1 配偶者の最終学歴をお答え下さい。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 義務教育修了 3 専門学校 5 大学 7 その他 (具体的に:)
- 2 高校 4 短期大学・高等専門学校 6 大学院

56

SQ2 配偶者の職業についてうかがいます。

(a) 一番長く就いている (いた) 仕事の形態は次のどれですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 フルタイム 2 自営業 3 パート・アルバイト 4 その他 (具体的に:)

57

(b) 配偶者が一番長く就いている (いた) 仕事は何でしたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。
(複数ある場合は最も収入の多い仕事に○をつけてください。)

- 1 管理的職業 (民間企業、公務員の課長職以上、会社役員など)
- 2 専門・技術的職業 (1~15から該当する仕事を選び、○をつけてください)

58

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1 技術者 | 9 小学校教師 |
| 2 システムエンジニア(SE) | 10 幼稚園教師 |
| 3 医師・歯科医師・獣医師・薬剤師など | 11 保育士 |
| 4 法務関係 (裁判官、弁護士、司法書士など) | 12 学芸員 |
| 5 理系の研究者 | 13 カウンセラー |
| 6 文系の研究者 | 14 栄養士 |
| 7 中学・高校の理系科目(理科・数学・情報)の教師 | 15 その他 (具体的に:) |
| 8 中学・高校の7以外の科目の教師 | |

59

60

- 3 事務的職業 (企業・公務員の一般事務員、教育関係の教務・事務補佐、秘書など)
- 4 販売的職業 (民間企業の営業・販売職、小売店経営、保険外交員など)
- 5 保安・サービスの職業 (警察官、自衛官、介護職員、フライト・アテンダントなど)
- 6 その他 (具体的に:)

SQ3 配偶者の年収 (税込み、年金所得も含む) はどのくらいですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 200万円未満 3 400~600万円未満 5 800~1,000万円未満 7 不明
- 2 200~400万円未満 4 600~800万円未満 6 1,000万円以上

61

※あなたには、お子様がいらっしゃいますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1 いる

↓

2 いない

↓

13 ページのQ19 にお進みください

⑥

※お子様は何人いらっしゃいますか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

1	2	3	4	5	6
1人	2人	3人	4人	5人	6人以上

⑦

↓

次ページQ12 にお進みください

【お子様がいらっしゃる方に】

Q12～Q14 はすべてのお子様について該当する記入欄にお答え下さい。第4子、第5子などいらっしゃらない所は空欄のままにしておいて下さい。

Q12 お子さまの学校や仕事の状況を教えてください。

- ・ 年齢は現在の年齢を記入してください。性別については、あてはまる番号に○をつけてください。
- ・ 学校や仕事の状況等については、次ページのリストから、あてはまる番号を選んで記入してください。
- ・ 大学生・大学院生や社会人のお子様がいる場合、専攻分野について最も近い番号を選んで記入して下さい。

	年齢		性別		学校	専門 学校・ 高専・ 短大で の専攻	大学 での 専攻	大学院 での 専攻	仕事	仕事が2の 場合、詳細を 1～15の中 から記入し てください
記入例 (社会人 の方)	2	6 歳	1 男	2 女			7		2	8
記入例 (社会人 でない方)	1	9 歳	1 男	2 女	10		2		社会人でない方は 記入不要	
第1子		歳	1 男	2 女						
第2子		歳	1 男	2 女						
第3子		歳	1 男	2 女						
第4子		歳	1 男	2 女						
第5子		歳	1 男	2 女						

⑨～⑳

㉓～㉖

㉟～㉡

㉥～㉧

㉫～㉭

⑧

【学校】 あてはまる番号を選んで前ページの表に記入してください。

- | | | | |
|-----------|-------|--------|-----------|
| 1 在宅 | 4 小学校 | 7 専門学校 | 10 大学 |
| 2 保育園・託児所 | 5 中学校 | 8 高専 | 11 大学院 |
| 3 幼稚園 | 6 高校 | 9 短大 | 12 その他の学校 |

【専攻分野】 あてはまる番号を選んで前ページの表に記入してください。

- | | | | | |
|--------|------|--------------|------|------------|
| 1 人文科学 | 3 理学 | 5 農学 | 7 家政 | 9 芸術 |
| 2 社会科学 | 4 工学 | 6 保健(医学・薬学他) | 8 教育 | 10 その他 () |

【仕事】 あてはまる番号を選んで前ページの表に記入してください。

- 1 管理的職業（民間企業、公務員の課長職以上、会社役員など）
- 2 専門・技術的職業（1～15 から該当する仕事を選び、例のように記入してください）

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1 技術者 | 9 小学校教師 |
| 2 システムエンジニア(SE) | 10 幼稚園教師 |
| 3 医師・歯科医師・獣医師・薬剤師など | 11 保育士 |
| 4 法務関係（裁判官、弁護士、司法書士など） | 12 学芸員 |
| 5 理系の研究者 | 13 カウンセラー |
| 6 文系の研究者 | 14 栄養士 |
| 7 中学・高校の理系科目(理科・数学・情報)の教師 | 15 その他(具体的に:) |
| 8 中学・高校の7以外の科目の教師 | |

- 3 事務的職業（企業・公務員の一般事務員、教育関係の教務・事務補佐、秘書など）
- 4 販売的職業（民間企業の営業・販売職、小売店経営、保険外交員など）
- 5 保安・サービスの職業（警察官、自衛官、介護職員、フライト・アテンダントなど）
- 6 その他
- 7 無職

Q13 お子様の教育について、あなたと配偶者がどのようにかかわってきたか、うかがいます。
それぞれのお子様について、どちらが多くかかわったか下記の選択肢の中から選んでご回答ください。

- 1 主にあなたの場合
- 2 主に配偶者の場合
- 3 同じくらいの場合
- 4 どちらもかかわっていない場合

	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子
1 普段の学校の様子をきいた					
2 理科や算数（数学）の勉強を教えた。					
3 理科の自由研究のアドバイスをした。					
4 科学館や博物館に連れて行った。					
5 大学や自治体が行っている理科実験教室に連れて行った。					
6 日食や植物の成長など、自然現象を一緒に観察した。					
7 日常の会話の中で科学的知識を教えた。					
8 受験する中学・高校について、アドバイスをした。					
9 高校でのコース分け（文系・理系など）について相談にのった。					
10 高校で文系のコースを選択するようにアドバイスをした。					
11 高校で理系のコースを選択するようにアドバイスをした。					
12 大学での専攻分野について相談を受けた。					
13 大学では文系学部を選択するのがよいとアドバイスをした。					
14 大学では理系学部を選択するのがよいとアドバイスをした。					
15 就職について相談を受けた。					

⑥～⑧

Q14 あなたのお子様は、理系の大学や学部への進学を希望していますか。すでに進学、卒業をしているお子様については、入学前の希望についてお答えください。それぞれのお子様について、1～4の番号を記入して下さい

- 1 希望している（希望していた）
- 2 希望していない（希望していなかった）
- 3 決めていない（決めていなかった）
- 4 知らない（知らなかった）

第1子	第2子	第3子	第4子	第5子

⑧～⑯

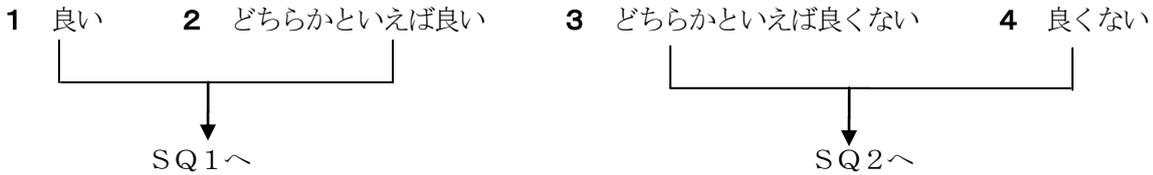
※あなたには、女のお子様がいっぱいますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 いる → Q15へお進みください
- 2 いない → 次ページの※にお進みください

⑥

【女のお子様がいる方に】なお、女のお子様複数いる場合には、長子の方についてお答えください。

Q15 そのお子様が理系の大学や学部に進学することについてどう思いますか。すでに進学や卒業している場合には、進学を決める時点で理系に進学することをどう思われていたかについてお答えください。



⑦

SQ1 【Q15で1、2と回答した方に】

(a)特に進学すると良いと思う(思った)学部はどれですか。(○は3つまで)

- | | | |
|-------|-----------|-------------------------|
| 1 理学部 | 4 薬学部 | 7 農学部 |
| 2 工学部 | 5 保健・看護学部 | 8 その他(具体的に:) |
| 3 医学部 | 6 歯学部 | 9 特にはない |

⑧

(b)理系に進学するのが良いと思う(思った)理由は何ですか。最もあてはまる番号2つまでに○をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------------|-------------------------|
| 1 専門性が高い | 5 将来仕事と家庭の両立がしやすい | 9 その他(具体的に:) |
| 2 将来の収入が高い | 6 将来像が明確である | |
| 3 女性に向いている | 7 資格や免許が取れる | |
| 4 本人に向いている | 8 本人が希望する | |

⑨

SQ2 【Q15で3、4と回答した方に】

良いと思わない(思わなかった)理由は何ですか。最もあてはまる番号2つに○をつけてください。

- | | | |
|-------------|------------------------|-------------------------|
| 1 汎用性がない | 5 将来仕事と家庭の両立が困難 | 9 その他(具体的に:) |
| 2 学費が高い | 6 将来像が不透明 | |
| 3 女性に向いていない | 7 修士や博士等への進学で就学期間が長くなる | |
| 4 本人に向いていない | 8 本人が希望しない | |

⑩

Q16 お子様が仕事をするとき、目指して欲しい女性像がありますか。次の中からあてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- | | | | |
|-------|---------|----------------|---------|
| 1 自分 | 3 親戚にいる | 5 今まで出会った教師にいる | 7 特にいない |
| 2 著名人 | 4 友人・知人 | 6 その他 | |

⑪

できればそれぞれ具体的に教えてください。

⑫

※あなたには、男のお子様がいらっしゃいますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 いる → Q17へお進みください
- 2 いない → 次ページのQ19にお進みください

⑬

【男のお子様がいる方に】なお、男のお子様が複数いる場合には、長子の方についてお答えください。

Q17 そのお子様が理系の大学や学部に進学することについてどう思いますか。すでに進学や卒業している場合には、進学を決める時点で理系に進学することをどう思われていたかについてお答えください。



⑭

SQ1 【Q17で1、2と回答した方に】

(a) 特に進学すると良いと思う（思った）学部はどれですか。（○は3つまで）

- | | | |
|-------|-----------|----------------------------------|
| 1 理学部 | 4 薬学部 | 7 農学部 |
| 2 工学部 | 5 保健・看護学部 | 8 その他（具体的に： ） |
| 3 医学部 | 6 歯学部 | 9 特にはない |

⑮

(b) 理系に進学するのが良いと思われる（思われた）理由は何ですか。最もあてはまる番号2つに○をつけてください。

- | | | |
|------------|-------------------|----------------------------------|
| 1 専門性が高い | 5 将来仕事と家庭の両立がしやすい | 9 その他（具体的に： ） |
| 2 将来の収入が高い | 6 将来像が明確である | |
| 3 男性に向いている | 7 資格や免許が取れる | |
| 4 本人に向いている | 8 本人が希望する | |

⑯

SQ2 【Q17で3、4と回答した方に】

良いと思わない（思わなかった）理由は何ですか。最もあてはまる番号2つに○をつけてください。

- | | | |
|-------------|------------------------|----------------------------------|
| 1 汎用性がない | 5 将来仕事と家庭の両立が困難 | 9 その他（具体的に： ） |
| 2 学費が高い | 6 将来像が不透明 | |
| 3 男性に向いていない | 7 修士や博士等への進学で就学期間が長くなる | |
| 4 本人に向いていない | 8 本人が希望しない | |

⑰

Q18 お子様が仕事をするとき、目指して欲しい男性像がありますか。次の中からあてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- | | | | |
|-------|---------|----------------|--------|
| 1 父親 | 3 親戚にいる | 5 今まで出会った教師にいる | 7 特にない |
| 2 著名人 | 4 友人・知人 | 6 その他 | |

⑱

できればそれぞれ具体的にお答えください。

⑲

【全員の方に】

● 科学技術についてうかがいます。

Q19 あなたは科学技術のニュースや話題に関心がありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 とても関心がある 2 関心がある 3 関心がない 4 まったく関心がない ⑳

Q20 この2～3年の間に、次のような経験がありますか。それぞれについてあてはまる番号1つに○をつけてください。

	よくある	たまにある	ほとんどない	一度もない	
1 美術館に行く	1	2	3	4	㉑
2 科学館や博物館へ行く	1	2	3	4	㉒
3 科学に関する本を読む	1	2	3	4	㉓
4 音楽会に行く	1	2	3	4	㉔
5 科学者や技術者の講演会を聞きに行く	1	2	3	4	㉕
6 サイエンス・カフェ*に参加する	1	2	3	4	㉖

* カフェのような雰囲気の中で科学を学んだり、語り合ったりする場

Q21 科学技術の発展には、プラス面とマイナス面があると言われていますが、全体的に見た場合、あなたはどちらが多いと思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 プラス面が多い 4 どちらかというともマイナス面が多い
 2 どちらかというともプラス面が多い 5 マイナス面が多い ㉗
 3 両方同じくらいである 6 わからない

Q22 あなたは、科学技術が今後どのような分野に貢献すべきだと思いますか。重要だと思う番号にいくつでも○をつけてください。

- 1 宇宙、海洋の開発の分野 7 高齢者などの生活の補助に関する分野
 2 地球環境の保全の分野 8 製造技術・情報通信など産業の基盤を支える分野
 3 資源・エネルギーの分野など衣食住の充実 9 防災、防犯などの分野 ㉘
 4 医療の分野 10 その他（具体的に：) ㉙
 5 食料（農林水産物）の分野 11 特にない
 6 家事の支援

● 女性の生き方についてうかがいます。

Q23 女性の学習や進路選択についての考えを、うかがいます。次のそれぞれについて、あなたの考えに最も近い番号を選んで○をつけてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	
1 女性は文系が向いている	1	2	3	4	⑩
2 女性は理系が向いている	1	2	3	4	⑪
3 女性は合格の難しい大学を目指さなくてもよい	1	2	3	4	⑫
4 女性が希望する大学に進学するために浪人するのはあまりよくない	1	2	3	4	⑬
5 女性が希望する大学に進学するためにアパートなどで一人暮らしをするのは心配だ	1	2	3	4	⑭
6 女性が理系学部の勉強についていくのは大変だ	1	2	3	4	⑮
7 女性が理系学部に進学する環境が整っていない	1	2	3	4	⑯
8 女性は理系学部を卒業しても就職に有利にならない	1	2	3	4	⑰
9 女性が専門性をきわめても、働き続けられる職場は少ない	1	2	3	4	⑱
10 女性は理系の大学院に進学しても意味がない	1	2	3	4	⑲

Q24 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 その他（具体的に： _____)
- 7 わからない

Q25 ジェンダーギャップ*の国際比較をみると日本は135カ国中105位と低く（世界経済フォーラム2013年報告書より）、女性の経済や政治への参画が必要だと言われています。そのためにはどのような方法が適切だと思いますか。重要だと思う番号2つに○をつけてください。

- 1 子育てしながら仕事が続けられる環境の整備
- 2 女性に対する社会の意識改革
- 3 女性のエンパワーメント**を実現する学習機会の提供
- 4 女性を登用する明確な数値目標の設定
- 5 女性がおかれている状況について定量的なデータ収集と可視化、公開
- 6 クォータ制***などの強力なポジティブアクション（積極的改善措置）
- 7 職場でのダイバーシティー（多様性）の促進
- 8 働く女性のロールモデル****の提供
- 9 男性の育児参加
- 10 その他（具体的に： _____)

*社会進出の男女格差

**個人としても社会集団としても意思決定過程に参画し、自律的な力をつけて発揮すること

***積極的改善措置の手法の一つであり、人種や性別などを基準に一定の人数や比率を割り当てる制度のこと

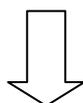
****将来像を描いたり、自分のキャリア形成を考える際に参考する役割モデル

④1

Q26 最後にいかがいます。理系で学ぶ女性が増えると、どのようなインパクトがあると思いますか。ご自由にお書き下さい。

④2

これでA. の質問は全て終わりました。ご協力いただき、ありがとうございました。今後、この調査に関連したお子様の進路選択についての個別のインタビュー調査を予定しております。インタビューに応じていただける方は、お手数ですが別紙の項目に御記入をお願いいたします。追ってご連絡させていただきます。



つづいて、B. の質問へお進みください

B 生涯学習について

● これまでに経験した生涯学習について、うかがいます。

◎「生涯学習」とは、仕事やキャリアアップに役立つ知識や技術の習得、心豊かで充実した人生を送るための教養を身につけるために、自分に適した手段や方法を選んで行う「生涯にわたる自発的な学習」であると言われています。

Q27 あなたは、大学卒業後からこれまでに、生涯学習を行ったことがありますか。

1～3の中からあてはまる番号1つに○をつけてください。

1 ある ⇒SQ1へ

2 ない ⇒18ページSQ2へ

3 わからない ⇒19ページQ28へ

④3

SQ1【Q27で「ある」と回答した方に】

あなたがこれまでに行った主な生涯学習について、次ページの選択肢の「学習内容」の中から3つまで挙げ、それぞれにどのような場所や形態で行ったか、さらにどのような理由で学習に至ったかについて、選択肢の「学習場所と形態」の中から最もあてはまる番号を1つ、「学習理由」については主なものを2つまで選んで回答欄に選択肢番号を記入してください。また、それらの学習期間、学習頻度、かかった費用を数字でお答えください。

I	学習内容	<input type="text"/>	学習場所と形態	<input type="text"/>	学習理由 (2つまで)	<input type="text"/>	学習期間	<input type="text"/> 年	<input type="text"/>	カ月	<input type="text"/>	週間
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>							
		④⑤										
												④6~⑥1

II	学習内容	<input type="text"/>	学習場所と形態	<input type="text"/>	学習理由 (2つまで)	<input type="text"/>	学習期間	<input type="text"/> 年	<input type="text"/>	カ月	<input type="text"/>	週間
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>							
		⑥2⑥3										
												⑥4~⑦9 ⑤=5

III	学習内容	<input type="text"/>	学習場所と形態	<input type="text"/>	学習理由 (2つまで)	<input type="text"/>	学習期間	<input type="text"/> 年	<input type="text"/>	カ月	<input type="text"/>	週間
	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>							
		⑥⑦										
												⑧~⑳

【選択肢:学習内容】

- 1 再就職を目指した知識・技能の習得
 - 2 転職のための知識・技能の習得
 - 3 専門性を高める（ブラッシュアップ）知識・技能の習得
 - 4 起業するために必要な知識・技能の習得
 - 5 経営、マネジメント、ビジネススキルなどの知識・技能の習得
 - 6 ダイバーシティ理解を深めるための知識・技能の習得
 - 7 女性リーダー・グローバルリーダー・リーダーシップ育成のための知識・技能の習得
 - 8 資格取得を目指した知識・技能の習得
 - 9 外国語スキル向上のための知識・技能の習得
 - 10 高度な教養（専門性以外に必要とされる知識や能力）を深める知識・技能の習得
 - 11 ボランティアや社会的活動のために必要な知識・技能の習得
 - 12 家庭生活に役立つ知識・技能の習得
 - 13 趣味や健康増進のための知識・技能の習得
 - 14 その他（具体的に： _____)
-

【選択肢:学習場所と形態】

- 1 公民館や生涯学習センターなどの公の機関における講座や教室
 - 2 カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育
 - 3 学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の公開講座や教室
 - 4 学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程
 - 5 職場の教育、研修
 - 6 同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動
 - 7 図書館、博物館、美術館
 - 8 ラジオやテレビ
 - 9 自宅での学習活動（書籍など）
 - 10 その他（具体的に： _____)
-

【選択肢:学習理由】

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 再就職を目指すため | 10 外国語スキル向上のため |
| 2 転職のため | 11 高度な教養（専門性以外に必要とされる知識や能力）を深めるため |
| 3 専門性を高める（ブラッシュアップ）ため | 12 ボランティアや社会をよりよくするため |
| 4 起業するため | 13 家庭生活に生かすため |
| 5 経営、マネジメント、ビジネススキルなどの知識・技能を高めるため | 14 趣味や健康増進のため |
| 6 ビジネスのネットワークキング拡大のため | 15 自分の人生をより豊かにするため |
| 7 ダイバーシティ理解を深めるため | 16 他の人との親睦を深めたり、友人を得るため |
| 8 女性リーダー・グローバルリーダー・リーダーシップ育成のため | 17 その他（具体的に： _____) |
| 9 資格取得のため | |

SQ2 【Q27で2「ない」と回答した方に】

あなたが、生涯学習を行ったことがない理由は何ですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてお答えください。

- 1 仕事が忙しくて時間がない
- 2 家事・育児・介護などが忙しくて時間がない
- 3 家族や職場など周囲の理解が得られない
- 4 費用がかかる
- 5 必要な情報（内容・時間・場所・費用など）がなかなか入手できない
- 6 一緒に学習や活動をする仲間がいない
- 7 身近なところに施設や場所がない、学習の内容や時間帯が希望に合わない
- 8 きっかけがつかめない
- 9 興味がない
- 10 その他（具体的に： _____)
- 11 特に理由はない
- 12 わからない

【全員の方に】

● 本学でどのような生涯学習の開催を期待しているか、うかがいます。

Q28 あなたは、本学（文京区大塚）で生涯学習が開催されるならば、受講したいと思いませんか。

1～3の中からあてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 受講したい ⇒SQ 1-1へ 2 受講したいと思わない 3 わからない ②6
- ⇒21 ページSQ 2へ ⇒21 ページSQ 2へ

【Q28 で1に○をつけた方に】

SQ 1-1 受講したいものを下記の選択肢の「受講内容」から3つまで選択し、受講したい順に回答欄へお書きください。
また、選択した項目についてのみ、選択した理由を次ページの選択肢の「理由」から2つまで選び、適切と思われる1講座の授業回数（1授業90分）と費用（全授業数の総額）についてもお答えください。

	受講内容	理由（2つまで）	総受講回数		総費用	
最も受講したいもの	<input style="width: 100%;" type="text"/>	<input style="width: 50%;" type="text"/> <input style="width: 50%;" type="text"/>	<input style="width: 50%;" type="text"/> 回		<input style="width: 50%;" type="text"/> 万 <input style="width: 50%;" type="text"/> 千円	②7～③7
2番目に受講したいもの	<input style="width: 100%;" type="text"/>	<input style="width: 50%;" type="text"/> <input style="width: 50%;" type="text"/>	<input style="width: 50%;" type="text"/> 回		<input style="width: 50%;" type="text"/> 万 <input style="width: 50%;" type="text"/> 千円	③8～④8
3番目に受講したいもの	<input style="width: 100%;" type="text"/>	<input style="width: 50%;" type="text"/> <input style="width: 50%;" type="text"/>	<input style="width: 50%;" type="text"/> 回		<input style="width: 50%;" type="text"/> 万 <input style="width: 50%;" type="text"/> 千円	④9～⑤9

【選択肢：受講内容】

- | | |
|---|---|
| <p>1 再就職を目指した知識・技能</p> <p>2 転職のための知識・技能</p> <p>3 専門性を高める（ブラッシュアップ）知識・技能</p> <p>4 起業するために必要な知識・技能</p> <p>5 経営、マネジメント、ビジネススキルなどの知識・技能</p> <p>6 ダイバーシティー理解を深めるための知識・技能</p> <p>7 女性リーダー・グローバルリーダー・リーダーシップ育成のための知識・技能</p> <p>8 資格取得を目指した知識・技能</p> <p>9 外国語スキル向上のための知識・技能</p> <p>10 本学で開講されている授業（正規授業）</p> <p>11 お茶の水女子大学の歴史や建築物に関する知識</p> <p>12 ニュースや時事問題に関する知識</p> <p>13 高度な教養（専門性以外に必要なとされる知識や能力）を深める知識・技能</p> | <p>14 ボランティアや社会的活動のために必要な知識・技能</p> <p>15 家庭生活に役立つ知識・技能</p> <p>16 趣味や健康増進のための知識・技能</p> <p>17 その他</p> |
|---|---|

【選択肢:理由】

- 1 再就職を目指すため
 - 2 転職のため
 - 3 専門性を高める（ブラッシュアップ）ため
 - 4 起業するため
 - 5 経営、マネジメント、ビジネススキルなどの知識・技能を高めるため
 - 6 ビジネスのネットワーキング拡大のため
 - 7 ダイバーシティ理解を深めるため
 - 8 女性リーダー・グローバルリーダー・リーダーシップ育成のため
 - 9 資格取得のため
 - 10 外国語スキル向上のため
 - 11 高度な教養（専門性以外に必要とされる知識や能力）を深めるため
 - 12 ボランティアや社会をよりよくするため
 - 13 家庭生活に生かすため
 - 14 趣味や健康増進のため
 - 15 自分の人生をより豊かにするため
 - 16 他の人との親睦を深めたり、友人を得るため
 - 17 本学でもう一度勉強したいから
 - 18 母校について知りたいから
 - 19 地の利がよいから
 - 20 その他（具体的に： _____)
-

SQ1-2 本学で行う生涯学習は、どのような時期、時間帯での開催を希望しますか。

1～6のうちあてはまる番号2つまでに○をつけてお答えください。

- 1 平日（月～金）の日中（9：00～17：00）
- 2 平日（月～金）の夕方以降（17：00以降）
- 3 週末（土・日）や祝日の日中（9：00～17：00）
- 4 週末（土・日）や祝日の夕方以降（17：00以降）
- 5 いつでもよい
- 6 その他（具体的に： _____)

⑥0

↓
次ページのQ29へ

【Q28で2もしくは3に○をつけた方に】

SQ2 本学で開催する生涯学習に参加したいと思わない、わからない理由は何ですか。

あてはまる番号にいくつでも○をつけてお答えください。

- 1 仕事が忙しくて時間がない
- 2 家事・育児・介護などが忙しくて時間がない
- 3 家族や職場など周囲の理解が得られない
- 4 費用がかかる
- 5 必要な情報（内容・時間・場所・費用など）がなかなか入手できない
- 6 一緒に学習や活動をする仲間がいない
- 7 遠方に住んでいるため本学（文京区大塚）に通うことができない
- 8 身近なところに施設や場所がない、学習の内容や時間帯が希望に合わない
- 9 きっかけがつかめない
- 10 興味がない
- 11 その他（具体的に： _____)
- 12 特に理由はない
- 13 わからない

⑥1

⑥2

↓
次ページのQ29へ

【全員の方に】

● あなたの考える「リーダーシップ」についてうかがいます。

Q30 組織・集団（職場だけではなく、サークル、PTA、町内会、家庭なども含む）にとって必要なリーダーシップはどのようなものだと思いますか。最もあてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 組織・集団のメンバーをまとめ、指示命令を出し、統率する力
- 2 組織・集団のメンバーを鼓舞し、ビジョンを提示し、メンバーの目標や信念を涵養する力
- 3 組織・集団のメンバーを支援し、組織の潜在的な力を発揮させる力
- 4 組織・集団のメンバーの悩みや本音を引き出し、問題に対処する力
- 5 必要に応じてメンバーの誰もが発揮すべき力
- 6 その他（具体的に： _____)
- 7 わからない

⑦⑩

● 本学におけるリーダーシップ教育についてうかがいます。

Q31 リーダーシップを養成するために、本学ではどのような教育・事業の強化が必要だと思いますか。重要と思うものに3つまで○をつけてください。

- | | |
|---|---|
| 1 キャリア教育（就職セミナー、インターンシップ、卒業生ロールモデル講演会等） | 7 学生の海外留学派遣の促進および海外留学生受入の促進
海外留学生受入の促進 |
| 2 女性学、ジェンダー教育 | 8 学生の自主的な活動を支援する教育プログラム |
| 3 他大学との教育・研究上の交流の促進 | 9 部活動・サークル活動の活性化 |
| 4 教養教育 | 10 在校生・卒業生ネットワークの強化 |
| 5 専門教育 | 11 その他（具体的に： _____) |
| 6 ビジネスに関する講座 | |

⑦⑪

⑦⑫

● 女性とリーダーシップについてうかがいます。

Q32 日本において、今後どのような分野でより一層女性のリーダーシップが求められていくべきだと思いますか。重要と思うものに3つまで○をつけてください。

- | | | |
|--------|-------------|----------------------|
| 1 政治 | 6 経済 | 11 スポーツ |
| 2 行政 | 7 教育・研究 | 12 医療（医師、歯科医師、薬剤師） |
| 3 司法 | 8 メディア | 13 国際貢献 |
| 4 民間企業 | 9 科学技術 | 14 地域貢献 |
| 5 農林水産 | 10 文化・芸術・芸能 | 15 その他（具体的に： _____) |

⑦⑬

⑦⑭

● あなたのリーダー志向についてうかがいます。

Q33 「リーダー」と聞いてあなたが思いつく人物は誰ですか。下の欄にお書きください。女性、男性を問わず、複数でも構いません。有名人でなくとも、身近な人物でも結構です。特に思いつく人物がない場合は「なし」とお書きください。

75

Q34 あなたはリーダーを経験したいですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 経験したことがある ⇒ (どのようなリーダーか、具体的にお書き下さい：)
- 2 経験したい
- 3 経験したくない → SQ2へ
- 4 わからない

76

【Q34で「1. 経験したことがある」「2. 経験したい」と回答した人に】

SQ1 リーダーになりたい(なった)理由はどれですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- 1 自分の可能性を試したい
- 2 視野が広がる
- 3 自分はリーダーに向いている
- 4 地位や名声が手に入る
- 5 改革・変革をしたい
- 6 自分が役立てることがあれば協力は惜しまない
- 7 指名・推薦された
- 8 その他(具体的に：)

77

【Q34で「3. 経験したくない」と回答した人に】

SQ2 リーダーになりたくない理由はどれですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

- 1 自分には資質がない
- 2 自分には責任が重い
- 3 興味・関心がない
- 4 面倒である
- 5 適任の人が他にいる
- 6 補助する役のほうが向いている
- 7 女性リーダーに良いイメージを持っていない
- 8 リーダーシップが発揮できれば地位にはこだわらない
- 9 その他(具体的に：)

78

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

付録 2 集計表

集計表

質問	選択肢	N	%
Q 1. 生年月 (年)	総数	1966	100
	1929年以前	0	0
	1930～1939年	67	3.4
	1940～1949年	331	16.8
	1950～1959年	406	20.7
	1960～1969年	524	26.7
	1970～1979年	513	26.1
	1980年以降	124	6.3
	無回答	1	0.1
Q 1. 生年月 (月)	総数	1966	100
	1月	199	10.1
	2月	153	7.8
	3月	172	8.7
	4月	172	8.7
	5月	170	8.6
	6月	143	7.3
	7月	167	8.5
	8月	157	8
	9月	179	9.1
	10月	164	8.3
	11月	158	8
	12月	130	6.6
無回答	2	0.1	
Q 2. 最終学位	総数	1966	100
	学士	1409	71.7
	修士	341	17.3
	博士 (単位取得退学を含む)	150	7.6
	無回答	66	3.4
Q 2. 卒業年月 (年)	総数	1966	100
	1960年以前	7	0.4
	1961～1969年	259	13.2
	1970～1979年	344	17.5
	1980～1989年	451	22.9
	1990～1999年	536	27.3
	2000～2005年	267	13.6
	2006年以降	81	4.1
	無回答	21	1.1
Q 2. 卒業年月 (月)	総数	1966	100
	1月	2	0.1
	2月	2	0.1
	3月	1847	93.9
	4月	35	1.8
	5月	4	0.2
	6月	2	0.1
	7月	2	0.1
	8月	3	0.2
	9月	36	1.8
	10月	10	0.5
	11月	2	0.1
	12月	6	0.3
無回答	15	0.8	
Q 3. 入学時の住居	総数	1966	100
	自宅	909	46.2
	大学の寮	413	21
	下宿・アパート	535	27.2
	その他	105	5.3
	無回答	4	0.2

Q 4. 卒業した学部・学科	総数	1966	100
	〔文教育学部〕		
	哲学科	60	3.1
	史学科	71	3.6
	地理学科	96	4.9
	文学科・国文学科・外国文学科	266	13.5
	教育学科・舞踊教育学科	177	9
	人間社会科学科	24	1.2
	人文学科	21	1.1
	言語文化学科	45	2.3
	芸術・表現行動学科	32	1.6
	その他	10	0.5
	〔理学部〕		
	数学科	128	6.5
	物理学科	87	4.4
	化学科	130	6.6
	生物学科	113	5.7
	情報科学科	38	1.9
	〔家政学部・生活科学部〕		
	児童学科	148	7.5
	食物学科	175	8.9
	被服学科	109	5.5
	家庭経営学科	90	4.6
	生活環境学科	49	2.5
	食物栄養学科	10	0.5
	人間・環境科学科	0	0
	人間生活学科	85	4.3
	その他	1	0.1
	無回答	1	0.1
Q 4 S Q 1. 文系・理系のどちらの観点から学んでいたか	総数	1966	100
	どちらかというと理系的観点から学んでいた	776	39.5
	どちらかというと言系的観点から学んでいた	924	47
	特に意識せずに学んでいた	262	13.3
	無回答	4	0.2
Q 4 S Q 2. 学科を選ぶときに重視したこと	総数	1966	100
	学科で学ぶ内容	1242	63.2
	高校までの得意科目	569	28.9
	高校で興味があった	773	39.3
	有名教授がいること	28	1.4
	就職に有利	136	6.9
	資格がとれる	177	9
	生活で役立つ	164	8.3
	その他	163	8.3
	無回答	3	0.2
Q 9. 現在の就労状況	総数	1966	100
	フルタイムで働いている	876	44.6
	主にパート、アルバイト、派遣、非常勤、嘱託で働いている	403	20.5
	その他の仕事をしている	143	7.3
	収入をとまなう仕事にはついていない	528	26.9
	無回答	16	0.8

集計表 (Q27~Q34)

質問	選択肢	N	%	列1	列2	列3	列4	
Q 2 7 . 生涯学習の経験	総数	1966	100					
	ある	1417	72.1					
	ない	416	21.2					
	わからない	87	4.4					
	無回答	46	2.3					
Q 2 7 S Q 1 . 学習内容		生涯学習 I	生涯学習 II	生涯学習 III				
	該当者	1417	100	1417	100	1417	100	
	再就職を目指した知識・技能の習得	84	5.9	17	1.2	12	0.8	
	転職のための知識・技能の習得	51	3.6	14	1	3	0.2	
	専門性を高める（ブラッシュアップ）知識・技能の習得	339	23.9	111	7.8	56	4	
	起業するために必要な知識・技能の習得	13	0.9	11	0.8	3	0.2	
	経営、マネジメント、ビジネススキルなどの知識・技能の習得	51	3.6	32	2.3	11	0.8	
	ダイバーシティ理解を深めるための知識・技能の習得	3	0.2	0	0	4	0.3	
	女性リーダー・グローバルリーダー育成のための知識・技能の習得	11	0.8	16	1.1	5	0.4	
	資格取得を目指した知識・技能の習得	233	16.4	144	10.2	44	3.1	
	外国語スキル向上のための知識・技能の習得	291	20.5	211	14.9	73	5.2	
	高度な教養を深める知識・技能の習得	53	3.7	68	4.8	34	2.4	
	ボランティアや社会的活動のために必要な知識・技能の習得	43	3	68	4.8	38	2.7	
	家庭生活に役立つ知識・技能の習得	36	2.5	52	3.7	33	2.3	
	趣味や健康増進のための知識・技能の習得	196	13.8	273	19.3	266	18.8	
	その他	7	0.5	7	0.5	5	0.4	
	無回答	6	0.4	393	27.7	830	58.6	
Q 2 7 S Q 1 . 学習場所と形態		生涯学習 I	生涯学習 II	生涯学習 III				
	該当者	1417	100	1417	100	1417	100	
	公民館や生涯学習センターなどの公の機関における講座や教室	153	10.8	128	9	79	5.6	
	カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育	441	31.1	396	27.9	218	15.4	
	学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の公開講座や教室	163	11.5	81	5.7	32	2.3	
	学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程	204	14.4	91	6.4	24	1.7	
	職場の教育、研修	109	7.7	52	3.7	37	2.6	
	同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	82	5.8	76	5.4	83	5.9	
	図書館、博物館、美術館	5	0.4	12	0.8	6	0.4	
	ラジオやテレビ	32	2.3	27	1.9	16	1.1	
	自宅での学習活動（書籍など）	161	11.4	118	8.3	68	4.8	
	その他	63	4.4	41	2.9	24	1.7	
	無回答	4	0.3	395	27.9	830	58.6	
	Q 2 7 S Q 1 . 学習理由		生涯学習 I	生涯学習 II	生涯学習 III			
		該当者	1417	100	1417	100	1417	100
		再就職を目指すため	150	10.6	50	3.5	21	1.5
		転職のため	94	6.6	40	2.8	11	0.8
専門性を高める（ブラッシュアップ）ため		503	35.5	226	15.9	94	6.6	
起業するため		27	1.9	18	1.3	3	0.2	
経営、マネジメント、ビジネススキルなどの知識・技能を高めるため		98	6.9	51	3.6	35	2.5	
ビジネスのネットワークを拡大するため		24	1.7	8	0.6	9	0.6	
ダイバーシティ理解を深めるため		7	0.5	3	0.2	6	0.4	
女性リーダー・グローバルリーダー・リーダーシップ育成のため		17	1.2	27	1.9	7	0.5	
資格取得のため		385	27.2	190	13.4	81	5.7	
外国語スキル向上のため		292	20.6	206	14.5	73	5.2	
高度な教養（専門性以外に必要とされる知識や能力）を深めるため		119	8.4	110	7.8	56	4	
ボランティアや社会をよりよくするため		66	4.7	66	4.7	37	2.6	
家庭生活に生かすため		50	3.5	82	5.8	38	2.7	
趣味や健康増進のため		195	13.8	270	19.1	246	17.4	
自分の人生をより豊かにするため		330	23.3	305	21.5	235	16.6	
他の人との親睦を深めたり、友人を得るため	68	4.8	72	5.1	63	4.4		
その他	25	1.8	12	0.8	11	0.8		
無回答	6	0.4	394	27.8	831	58.6		
Q 2 7 S Q 1 . 学習期間（年）		生涯学習 I	生涯学習 II	生涯学習 III				
	該当者	1417	100	1417	100	1417	100	
	0年	312	22	256	18.1	103	7.3	
	1年	255	18	151	10.7	75	5.3	
	2年	218	15.4	132	9.3	75	5.3	
	3年	130	9.2	109	7.7	47	3.3	
	4年	55	3.9	32	2.3	29	2	
	5年	78	5.5	70	4.9	54	3.8	
	6年	30	2.1	18	1.3	18	1.3	
	7年	25	1.8	14	1	16	1.1	
	8年	24	1.7	17	1.2	8	0.6	
	9年以上	228	16.1	166	11.7	122	8.6	
	無回答	62	4.4	452	31.9	870	61.4	
Q 2 7 S Q 1 . 学習期間（月）		生涯学習 I	生涯学習 II	生涯学習 III				
	該当者	1417	100	1417	100	1417	100	
	0ヶ月	917	64.7	650	45.9	402	28.4	
	1ヶ月	23	1.6	17	1.2	11	0.8	
	2ヶ月	24	1.7	18	1.3	10	0.7	
	3ヶ月	76	5.4	79	5.6	23	1.6	
	4ヶ月	20	1.4	17	1.2	12	0.8	
	5ヶ月	13	0.9	9	0.6	4	0.3	
	6ヶ月	198	14	127	9	58	4.1	
	7ヶ月	9	0.6	3	0.2	2	0.1	
	8ヶ月	11	0.8	7	0.5	3	0.2	
	9ヶ月	14	1	11	0.8	3	0.2	
	10ヶ月	34	2.4	20	1.4	16	1.1	
	11ヶ月	16	1.1	7	0.5	3	0.2	
	無回答	62	4.4	452	31.9	870	61.4	
Q 2 7 S Q 1 . 学習期間（週）		生涯学習 I	生涯学習 II	生涯学習 III				
	該当者	1417	100	1417	100	1417	100	
	0週間	1315	92.8	935	66	530	37.4	
	1週間	18	1.3	15	1.1	12	0.8	
	2週間	18	1.3	7	0.5	3	0.2	
	3週間	4	0.3	8	0.6	2	0.1	
	無回答	62	4.4	452	31.9	870	61.4	

Q27SQ1. 学習頻度

	生涯学習 I	生涯学習 II	生涯学習 III
該当者	1417	100	1417
年	91	6.4	63
月	269	19	233
週	928	65.5	630
無回答	129	9.1	491

Q27SQ1. 学習頻度 (時間)

	生涯学習 I	生涯学習 II	生涯学習 III
該当者	1417	100	1417
1~4時間	719	50.7	586
5~9時間	220	15.5	150
10~14時間	127	9	89
15~19時間	44	3.1	18
20~24時間	59	4.2	36
25~29時間	10	0.7	6
30~34時間	40	2.8	23
35~39時間	14	1	2
40時間以上	59	4.2	33
無回答	125	8.8	474

Q27SQ1. 費用 (万)

	生涯学習 I	生涯学習 II	生涯学習 III
該当者	1417	100	1417
0万	283	20	246
1~9万	390	27.5	304
10~19万	124	8.8	94
20~29万	70	4.9	59
30~39万	60	4.2	36
40~49万	31	2.2	19
50万以上	215	15.2	114
無回答	244	17.2	545

Q27SQ1. 費用 (千)

	生涯学習 I	生涯学習 II	生涯学習 III
該当者	1417	100	1417
0千	917	64.7	653
1千	27	1.9	21
2千	29	2	34
3千	32	2.3	36
4千	22	1.6	13
5千	94	6.6	68
6千	21	1.5	15
7千	5	0.4	6
8千	21	1.5	21
9千以上	5	0.4	5
無回答	244	17.2	545

Q27SQ2. 生涯学習を行ったことがない理由

該当者	416	100
仕事が忙しくて時間がない	207	49.8
家事・育児・介護などが忙しくて時間がない	162	38.9
家族や職場など周囲の理解が得られない	9	2.2
費用がかかる	46	11.1
必要な情報 (内容・時間・場所・費用など) がなかなか入手できない	44	10.6
一緒に学習や活動をする仲間がない	10	2.4
身近な所に施設や場所がない、学習の内容や時間帯が希望に合わない	75	18
きっかけがつかめない	100	24
興味がない	45	10.8
その他	33	7.9
特に理由はない	38	9.1
わからない	0	0
無回答	13	3.1

Q28. 本学で生涯学習が開催されるなら受講したいか

総数	1966	100
受講したい	660	33.6
受講したいと思わない	549	27.9
わからない	704	35.8
無回答	53	2.7

Q28SQ1-1. 受講内容

	最も受講したいもの	2番目に受講したいもの	3番目に受講したいもの
該当者	660	100	660
再就職を目指した知識・技能	22	3.3	10
転職のための知識・技能	11	1.7	4
専門性を高める (ブラッシュアップ) 知識・技能	136	20.6	47
起業するために必要な知識・技能	17	2.6	13
経営、マネジメント、ビジネススキルなどの知識・技能	38	5.8	25
ダイバーシティ理解を深めるための知識・技能	14	2.1	7
女性リーダー・グローバルリーダー育成のための知識・技能	37	5.6	38
資格取得を目指した知識・技能	34	5.2	41
外国語スキル向上のための知識・技能	73	11.1	66
本学で開講されている授業 (正規授業)	77	11.7	63
お茶の水女子大学の歴史や建築物に関する知識	7	1.1	10
ニュースや時事問題に関する知識	18	2.7	32
高度な教養 (専門性以外に必要な知識や能力) を深める知識・技能	99	15	72
ボランティアや社会的活動のために必要な知識・技能	26	3.9	36
家庭生活に役立つ知識・技能	10	1.5	29
趣味や健康増進のための知識・技能	37	5.6	40
その他	1	0.2	3
無回答	3	0.5	124

Q28SQ1-1. 受講理由

	最も受講したいもの	2番目に受講したいもの	3番目に受講したいもの
該当者	660	100	660
再就職を目指すため	36	5.5	25
転職のため	28	4.2	11
専門性を高める（ブラッシュアップ）ため	197	29.8	95
起業するため	17	2.6	12
経営、マネジメント、ビジネススキルなどの知識・技能を高めるため	64	9.7	50
ビジネスのネットワーク拡大のため	21	3.2	18
ダイバーシティ理解を深めるため	15	2.3	7
女性リーダー・グローバルリーダー・リーダーシップ育成のため	40	6.1	35
資格取得のため	34	5.2	34
外国語スキル向上のため	68	10.3	62
高度な教養（専門性以外に必要とされる知識や能力）を深めるため	142	21.5	118
ボランティアや社会をよりよくするため	38	5.8	42
家庭生活に生かすため	17	2.6	26
趣味や健康増進のため	39	5.9	45
自分の人生をより豊かにするため	227	34.4	184
他の人との親睦を深めたり、友人を得るため	33	5	42
本学でもう一度勉強したいから	65	9.8	63
母校について知りたいから	6	0.9	11
地の利がよいから	10	1.5	6
その他	2	0.3	7
無回答	8	1.2	129

Q28SQ1-1. 総受講回数

	最も受講したいもの	2番目に受講したいもの	3番目に受講したいもの
該当者	660	100	660
1～4回	111	16.8	105
5～9回	146	22.1	118
10～14回	242	36.7	166
15～19回	13	2	14
20～24回	42	6.4	39
25～29回	1	0.2	1
30～34回	11	1.7	10
35～39回	2	0.3	2
40回以上	9	1.4	6
無回答	83	12.6	199

Q28SQ1-1. 総費用（万）

	最も受講したいもの	2番目に受講したいもの	3番目に受講したいもの
該当者	660	100	660
0万	57	8.6	68
1～4万	327	49.5	242
5～9万	112	17	90
10～14万	51	7.7	40
15～19万	2	0.3	0
20～24万	7	1.1	8
25～29万	0	0	0
30～34万	6	0.9	1
35～39万	0	0	0
40万以上	1	0.2	0
無回答	97	14.7	211

Q28SQ1-1. 総費用（千）

	最も受講したいもの	2番目に受講したいもの	3番目に受講したいもの
該当者	660	100	660
0千	451	68.3	334
1千	6	0.9	5
2千	16	2.4	13
3千	9	1.4	14
4千	8	1.2	6
5千	56	8.5	61
6千	13	2	11
7千	1	0.2	0
8千	3	0.5	4
9千	0	0	1
無回答	97	14.7	211

Q28SQ1-2. 開催希望時間

	最も受講したいもの	2番目に受講したいもの	3番目に受講したいもの
該当者	660	100	660
平日の日中	252	38.2	252
平日の夕方以降	150	22.7	150
週末や祝日の日中	394	59.7	394
週末や祝日の夕方以降	51	7.7	51
いつでもよい	38	5.8	38
その他	29	4.4	29
無回答	24	3.6	24

Q28SQ2. 本学で開催する生涯学習に参加したいと思わない理由

	最も受講したいもの	2番目に受講したいもの	3番目に受講したいもの
該当者	1253	100	1253
仕事が忙しくて時間がない	332	26.5	332
家事・育児・介護などが忙しくて時間がない	250	20	250
家族や職場など周囲の理解が得られない	15	1.2	15
費用がかかる	69	5.5	69
必要な情報（内容・時間・場所・費用など）がなかなか入手できない	78	6.2	78
一緒に学習や活動をする仲間がない	28	2.2	28
遠方に住んでいるため本学（文京区大塚）に通うことができない	715	57.1	715
身近な所に施設や場所がない、学習の内容や時間帯が希望に合わない	112	8.9	112
きっかけがつかめない	73	5.8	73
興味がない	53	4.2	53
その他	185	14.8	185
特に理由はない	38	3	38
わからない	5	0.4	5
無回答	33	2.6	33

Q 2 9 . リーダーシップを発揮した経験 (最も発揮)	総数	1966	100
	学生生活 (おもに授業やゼミナールなど)	105	5.3
	クラブ活動やサークル活動	231	11.7
	職業生活	788	40.1
	家庭生活	183	9.3
	P T A 活動	150	7.6
	地域活動 (自治会など)	40	2
	市民活動 (ボランティアなど)	57	2.9
	上記以外の場	37	1.9
	リーダーシップを発揮した経験はない	319	16.2
	無回答	56	2.8
	Q 2 9 . リーダーシップを発揮した経験 (2 番目に発揮)	総数	1966
学生生活 (おもに授業やゼミナールなど)		117	6
クラブ活動やサークル活動		241	12.3
職業生活		173	8.8
家庭生活		210	10.7
P T A 活動		220	11.2
地域活動 (自治会など)		116	5.9
市民活動 (ボランティアなど)		93	4.7
上記以外の場		34	1.7
リーダーシップを発揮した経験はない		319	16.2
無回答		443	22.5
Q 2 9 S Q 1 . リーダーシップを発揮するうえで必要だった能力		該当者	1591
	コミュニケーション力	961	60.4
	語学力 (外国語運用力)	23	1.4
	自主性、自律性	152	9.6
	傾聴力、共感力	288	18.1
	論理的思考力	303	19
	判断力	693	43.6
	柔軟性	269	16.9
	チームワーク力	279	17.5
	ネットワーク力	68	4.3
	リスクをいとわない決断力	117	7.4
	突破力	43	2.7
	強い責任感	545	34.3
	人間観察力	150	9.4
	他人を尊重し、他人を認める力	442	27.8
	カリスマ性	38	2.4
	体力	127	8
	異文化理解	14	0.9
	教養	40	2.5
	倫理観	25	1.6
	その他	49	3.1
	無回答	3	0.2
Q 2 9 S Q 2 . リーダーシップを発揮しようとして困難を感じた経験	該当者	1591	100
	ある	1110	69.8
	ない	416	26.1
	無回答	65	4.1
Q 2 9 S Q 2 . 困難の要因	該当者	1110	100
	記入あり	939	84.6
	記入なし	171	15.4
Q 3 0 . 組織・集団にとって必要なリーダーシップ	総数	1966	100
	組織・集団のメンバーをまとめ、指示命令を出し、統率する力	306	15.6
	メンバーを鼓舞し、ビジョンを提示し、目標や信念を涵養する力	528	26.9
	組織・集団のメンバーを支援し、組織の潜在的な力を発揮させる力	707	36
	組織・集団のメンバーの悩みや本音を引き出し、問題に対処する力	137	7
	必要に応じてメンバーの誰もが発揮すべき力	168	8.5
	その他	38	1.9
	わからない	22	1.1
無回答	60	3.1	
Q 3 1 . リーダーシップを養成するために強化が必要な教育・事業	総数	1966	100
	キャリア教育 (就職セミナー、卒業生ロールモデル講演会等)	1027	52.2
	女性学、ジェンダー教育	254	12.9
	他大学との教育・研究上の交流の促進	571	29
	教養教育	265	13.5
	専門教育	416	21.2
	ビジネスに関する講座	362	18.4
	学生の海外留学派遣の促進および海外留学生受入の促進	440	22.4
	学生の自主的な活動を支援する教育プログラム	817	41.6
	部活動・サークル活動の活性化	205	10.4
	在校生・卒業生ネットワークの強化	281	14.3
	その他	96	4.9
	無回答	105	5.3
	Q 3 2 . 今後女性のリーダーシップが求められるべき分野	総数	1966
政治		1049	53.4
行政		659	33.5
司法		130	6.6
民間企業		647	32.9
農林水産		44	2.2
経済		349	17.8
教育・研究		796	40.5
メディア		104	5.3
科学技術		327	16.6
文化・芸術・芸能		142	7.2
スポーツ		18	0.9
医療 (医師、歯科医師、薬剤師)		314	16
国際貢献		400	20.3
地域貢献		369	18.8
その他		40	2
無回答		75	3.8

Q 3 3. リーダーと聞いて思いつく人物	総数	1966	100
	記入あり	1053	53.6
	なし	609	31
	無回答	304	15.5
Q 3 4. リーダーを経験したいか	総数	1966	100
	経験したことがある	884	45
	経験したい	159	8.1
	経験したくない	632	32.1
	わからない	199	10.1
	無回答	92	4.7
Q 3 4 S Q 1. リーダーになりたい理由	該当者	1043	100
	自分の可能性を試したい	244	23.4
	視野が広がる	252	24.2
	自分はリーダーに向いている	53	5.1
	地位や名声が手に入る	17	1.6
	改革・変革をしたい	144	13.8
	自分が役立てることがあれば協力は惜しまない	596	57.1
	指名・推薦された	635	60.9
	その他	104	10
	無回答	6	0.6
Q 3 4 S Q 2. リーダーになりたくない理由	該当者	632	100
	自分には資質がない	276	43.7
	自分には責任が重い	175	27.7
	興味・関心がない	64	10.1
	面倒である	121	19.1
	適任の人が他にいる	100	15.8
	補助する役のほうが向いている	405	64.1
	女性リーダーに良いイメージを持っていない	24	3.8
	リーダーシップが発揮できれば地位にはこだわらない	86	13.6
	その他	41	6.5
	無回答	1	0.2

付録 3

Q29SQ2 リーダーシップを
発揮しようとして困難を感じた要因
自由記述まとめ

Q29SQ2 リーダーシップを発揮しようとして困難を感じた要因 自由記述まとめ

回答内容（概要）	回答者数
チームを上手くまとめることが難しい	394
自分に能力が不足している（していた）	134
能力の不足に限らず、自分に原因があったと捉えている	90
立場の違う人との関係の構築	62
年長者・年少者との関係の構築が難しい(上下問わず世代間のギャップを含む回答)	60
性格的にリーダーに自分は向いていないと判断している（した）	44
男性からの女性リーダーに対する反発	37
組織自体に問題があった（ある）	29
経験が不足していた	24
家庭との両立が難しい	20
その他	11
女性同志の関係性	10
男性社会の中でリーダーシップを発揮するにあたっての女性自身の消極性	6
女性に期待される特性はリーダーシップと相性が悪いという捉え方	4
家族の理解が得られなかった	4
男性が持っている、と明記されていないが、女性リーダーに対する偏見	3
女性がリーダーに選ばれること自体が少なく、経験不足だった	3
ロールモデル・アドバイザーの不在	3
女性は育てられる過程でリーダーシップの特性を伸ばすことが難しい	2
自身に女性に対する配慮が欠けている	1
女性であることそのもの	1
男性と女性それぞれの特性に対する配慮が難しい	1

付録 4

Q33 「リーダー」と聞いて

あなたが思いつく人物は誰ですか

記述回答まとめ

Q33 「リーダー」と聞いてあなたが思いつく人物は誰ですか 記述回答まとめ

区分		人物名	回答者数	
有名人	経営者	日本人	松下 幸之助	17
		稲盛 和夫	12	
		孫 正義	7	
		土光 敏夫	3	
		本田 宗一郎	2	
		柳井 正	2	
		新浪 剛史	1	
		原田 泳幸	1	
		栗原 イネ	1	
		星野 佳路	1	
		小倉 昌男	1	
		豊田 章男	1	
		佐々木 常夫	1	
		内永 ゆか子	1	
		丹羽 宇一郎	1	
		藤野 英人	1	
		御立 尚資	1	
		淡沢 栄一	1	
		出光 佐三	1	
		渡辺 恒雄	1	
		堀 義人	1	
		南場 智子	1	
		米倉 弘昌	1	
	小林 司郎	1		
	外国人	シェリル・サンドバーグ	7	
	カルロス・ゴーン	3		
	ビル・ゲイツ	3		
	ラリー・エリソン	1		
	オーウェン・ジョーンズ	1		
	スティーブ・ジョブズ	1		
	政治家・政治関係者	日本人	緒方 貞子	136
			小泉 純一郎	56
			安倍 晋三	42
			土井 たか子	17
			林 文子	16
			市川 房枝	11
			石原 慎太郎	6
田中 角栄			3	
小泉 進次郎			2	
吉田 茂			3	
赤松 良子			2	
野田 聖子			2	
橋下 徹			2	
杉浦 千畝			1	
高橋 はるみ			1	
福島 瑞穂			1	
石橋 湛山			1	
浅沼 稲次郎			1	
志位 和夫			1	
小松 幸子			1	
潮谷 義子			1	
橋本 聖子			1	
宮澤 喜一			1	
野田 佳彦			1	
菅野 典雄			1	
加藤 友三郎			1	
阿部 知子			1	
外国人		マーガレット・サッチャー	25	
ネルソン・マンデラ		24		
バラク・オバマ		23		
アウン・サン・スー・チー	13			

		ヒラリー・クリントン	9
		マハトマ・ガンジー	9
		ジョン・F・ケネディ	9
		アンゲラ・メルケル	9
		マーティン・ルーサー・キング・ジュニア	7
		エイブラハム・リンカーン	5
		インディラ・ガンディー	1
		シャルル・ド・ゴール	1
		李 登輝	1
		孫 文	1
		毛 沢東	1
		ウラジーミル・プーチン	1
		ホー・チ・ミン	1
		ジョージ・ワシントン	1
芸能人	歌手・タレント	大野 智	2
		城嶋 茂	2
		加山 雄三	1
		櫻井 翔	1
		高橋 みなみ	1
		HIRO	1
		黒柳 徹子	1
		森崎 博之	1
		中居 正広	1
		タモリ	1
		和泉 元彌	1
学者	研究者	山中伸弥	10
		小保方 晴子	6
		マリ・キュリー	2
		上野 千鶴子	2
		倉橋 惣三	1
		川口 淳一郎	1
		汐見 稔幸	1
		村山 斉	1
		目賀田 八郎	1
		中島 義和	1
		伊藤 辰治	1
		マイケル・サンデル	1
		会澤 一郎	1
		永田 俊	1
		大隅 典子	1
スポーツ	選手	澤 穂希	3
		長谷部 誠	3
		田中 将大	2
		ユルゲン・クロップ	1
		イチロー	1
	監督・コーチ	星野 仙一	3
		野村 克也	3
		原 辰徳	2
		佐々木 則夫	2
		落合 博満	1
		ブライアン・オーサー	1
		岡田 武史	1
		長嶋 茂雄	1
		川淵 三郎	1
		ジョゼ・モウリーニョ	1
		真鍋 政義	1
	ジャーナリスト	安藤 優子	2
		池上 彰	1
		国谷 裕子	1
	歴史上の人物	織田 信長	14
		坂本龍馬	11
		西郷 隆盛	6
		徳川 家康	4

		勝 海舟	4	
		福澤 諭吉	4	
		徳川 吉宗	1	
		ジュリアス・シーザー (ガイウス・ユリウス・カエサル)	3	
		上杉 鷹山	3	
		聖徳 太子	2	
		吉田 松陰	2	
		北条 政子	1	
		山本 五十六	1	
		山本 覚馬	1	
		ジャンヌ・ダルク	1	
		ペリクレス	1	
		イエス・キリスト	1	
		黒田 官兵衛	1	
		新渡戸 稲造	1	
		二宮 尊徳	1	
		劉 邦	1	
		伊達 政宗	1	
		保科 正之	1	
	婦人運動家	平塚 雷鳥	4	
		山川 菊栄	1	
	社会運動家	田中 正造	3	
		湯浅 誠	3	
		中村 哲	2	
		西條 剛央	1	
		相馬 雪香	1	
		沢田 美喜	1	
	宗教関係者	マザー・テレサ	10	
		池田 大作	2	
		リタ・デシェンヌ	1	
	宇宙飛行士	若田 光一	6	
	芸術関係	作家・クリエイター		
		塩野 七生	1	
		瀬戸内 寂聴	1	
		澤地 久枝	2	
		イエラ・レップマン	1	
		指揮者		
		ヘルベルト・フォン・カラヤン	1	
		舞踊家・声楽家・作曲家		
		熊川 哲也	1	
		梶井 龍太郎	1	
		岩河 智子	1	
回答者の身近な人	個人的な知人	友人・知人	19	
		教員・教育関係者	本学関係者	15
			桜陰学園関係者	2
			その他	12
			PTA関係者	9
		医師	2	
	その他	11		
	自分の家族	親	7	
		配偶者	12	
		子ども	3	
		その他	2	
	自分の職場関係者	自分が勤務している組織の上長 (直属の上司)	75	
		自分が勤務している組織の経営者)	9	
自分が勤務している組織の関係者 (その他)		25		
その他		1		
フィクションの登場人物			4	
その他			2	
特になし			11	
個人名ではなく、人物像を挙げた回答			7	
女性+役割で、個人名なしの回答			5	
役割 (首相など) だけを挙げた回答			66	
属性不明・分類に当てはまらない物			13	

書名	生涯学習とリーダーシップに関する調査結果とその活用 ーお茶の水女子大学卒業生へのアンケート調査に基づいてー
発行日	2022年3月31日
編集・発行	国立大学法人 お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 T E L 03-5978-5520 E-mail info-leader@cc.ocha.ac.jp U R L http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/
編集担当	鷹野景子(お茶の水女子大学 名誉教授) 内藤章江(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師) 石田恵理(グローバルリーダーシップ研究所 アカデミック・アシスタント)
